

始



特 208
305



建國大學教授
陸軍少將

辻權作著

必

勝

後編

東京 敬文堂書店刊



『必勝』後篇 目次

第三編 渡歐感想

一、日	本	一
一、	人生意氣に感ず	一
二、	旅行準備	六
三、	一死報君恩	七
二、北	滿	八
一、	伊藤公終焉の地點	八
二、	志士の碑	九
三、	往きは西比利亞	二二
目次		一

三、ソ 聯 邦……………一五

一、沿道の群衆……………一五

二、聞いて極樂見て地獄……………一七

三、宗教は阿片の如し……………一九

四、赤 軍……………二二

五、總 括……………二六

四、波 蘭……………三二

一、日の丸の光……………三二

二、ハラキリ刀……………三三

五、獨 逸……………三五

一、天邊 豊 富……………三五

二、實 業 學 校……………三八

三、シーメンス工場……………四一

四、斬 髮 無 帽……………四三

五、傑作、ネクタイ省略の鬚……………四七

六、痰唾と糞の量……………四九

七、日本英領!? アメリカ屬國!……………五二

八、總 括……………五五

六、佛 蘭 西……………五八

一、軍 隊 見 學……………五八

二、紙屑拾ふ馬車と自動車……………六三

三、盆踊り(和服の大持て)……………六七

四、客 死……………七〇

五、交 通 整 理……………七三

六、黒ンボと白ンボと櫻ンボ……………七七

七、武 者 修 業……………八六

八、ミレーと春山……………八九

九、滅却心頭火亦涼……………九二

目 次……………三

十、遁げつ隠れつ……………一〇六

十一、悲壯なる愛國歌……………一〇六

十二、廠舎……………一〇八

十三、總括……………一一一

七、戰場見學……………一二四

一、ベルダン……………一二七

二、ランス……………一三六

三、イール……………一三八

四、兩將軍の握手……………一三九

八、英吉利……………一四三

一、背虫の學校……………一四四

二、ベリー・グウ(征英空)……………一四六

三、觀兵式……………一五一

四、居眠り……………一五四

五、三猿主義……………一五七

六、廣く大きく……………一六八

七、元祖は日本……………一六三

八、總括……………一六六

九、瑞西……………一七〇

一、國際聯盟……………一七〇

二、モンブランに登る……………一七三

三、停車場一括……………一七七

十、伊太利……………一八三

一、戰鬪射擊……………一八三

二、露營地の體操……………一八八

三、萬歳三唱……………一九〇

四、月の通信……………一九五

五、吐哺握髮トスカ少尉……………一九六

目次……………五

六、住宅は山寄りに……………一八八

七、露營と舎營……………二〇〇

八、羅馬の道は世界に通ず……………二〇三

九、葉隠の香り……………二〇五

十、あゝさうわ。質素は？……………二〇八

十一、總括……………二一六

十一、青年訓練……………二二八

一、本にかへれ……………二三八

二、英 國……………二二九

三、佛 國……………二三〇

四、獨 國……………二三三

五、伊 國……………二三三

六、露 國……………二三五

七、翻て日本……………二二六

十二、同胞相愛……………二三三

十三、歸りは印度洋……………二四七

十四、歸朝土産……………二五五

一、日本人たるの感謝……………二五五

二、國粹の發揮……………二五八

三、超大戰後型軍備……………二六五

四、國民の短所缺點を補ふ事……………二六八

五、庶政革新……………二七五

十五、むすび……………二八〇

後記……………二八一

第三編 渡歐感想

一、日本

(一) 人生意氣に感ず

兵糧は引受け申候
著々洋行の御準備を

噫！ 此手紙を受取つた時の「欣然」の喜び、それは何ものにも譬へることの出来ない非常な喜びであつた。妻は早速神棚にお燈明あかりを捧げる。「欣然」は恭しく頷づいて、此手紙を神前に供へて三拜、俱に與に聲を吞んで嬉し泣きに泣いた。

洋行の推選、軍友會・其他へ或は自ら足を運ばれたり或は懇書を出されたりした。武藤元帥の一方ならぬ肝入り。「欣然」は蔭ながら隨喜の涙で拜んで居た。そのお蔭で初志貫徹。いよ／＼となつて

さて〇〇近くの旅費、なか／＼おいそれと出来るものではない。肉弾少將の様な人でも借金して行つたと書いて居られる。まして凡夫の「欣然」如きに。



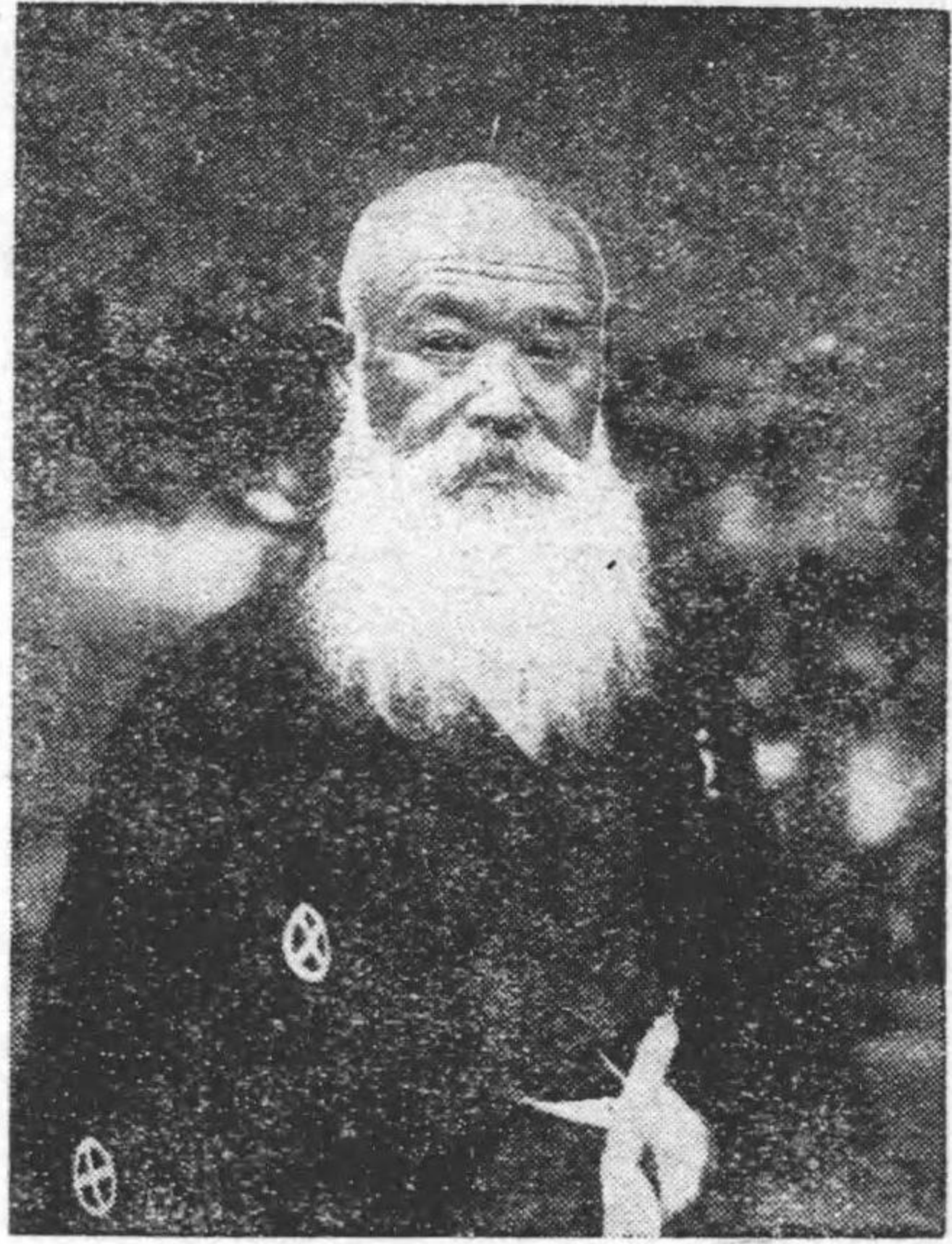
渡 橋 歌 武
武 藤 元 帥 閣 下
人 恩 の し 渡 橋 歌 武

ヨシ来た兵糧は俺が引き受けた
と一言の下に快よく引受けて呉れる人が
世に二人とあらうか。

「欣然」が中尉の時代、日露戦争の直
後、豪遊連飲の果てが身分不相應な借財
所謂借金中尉で——明治時代には、貧乏
少尉に借金中尉、遣り繰り大尉にやつと
少佐と言つたものだが、昭和の今日は
果してどんなものか、中少尉は〇ガ橋？

——將に首にならんとした事もあつたさうだ。併し時の將校團長は「俺の眼の玉の黒き間は「欣然」の様な男は、決して首にしない」と、上司に對して頑張り通し、常に愛護是れ努めて呉れたものである。「欣然」の今日有る、全く以て將校團長の恩恵で當時の危険期を幸に脱逸し得られたからで

ある。愛護の至情が父の有つ如き純真さであり、感謝の至誠が子の有つ如き純情であるから、第三者の見る眼には甘つ垂れ子であつたかも知れない。其庇護者こそは、今回洋行の兵糧主であるのである。兵糧主と申しては何だか、物質的で失禮にあたる。救主！と言ふのもバタ臭くていやだ。矢張り軍父だ！軍父とは誰？當時四國の



白 鬚 古 武 士 的 軍 父
久 野 大 佐 殿

丸龜城南に閑居し、晴耕雨讀以て餘生を
楽しんで居らるゝ陸軍歩兵大佐久野廉其の
人である。噫！人生意氣に感ず、功名
亦何をか論ぜんやだ。「欣然」が此の老
大佐との近づき、それは明治三十七年七
月廿七日、旅順攻圍戰の序幕、太白山夜
襲の折、欣然は歩四三の小隊長として
歩十二の第一大隊長に連絡を取りに行つ

たのが、抑々の始めである。其の當時の第一印象として残るものは、老大佐が功名手柄を私せず夜襲の成功を四三に譲つた廉潔な褒め言葉であつた。實に其の名の如くであると「欣然」の胸奥に焼きつ

けられた強い印象である。

老大佐得意の詩吟幾百回、「欣然」亦遂に其流を汲む。

文政之元十一月。水流如箭萬雷吼。居民何記正平際。當時國賊擅鳴張。勤王諸將前後歿。遺詔哀痛猶在耳。大舉來犯彼何人。河亂軍聲伐銜枚。馬傷胄破氣益奮。被箭如蝟目皆裂。歸來河水笑洗刀。四世全節誰儔侶。

吾下筑水傲舟筏。過之使人豎毛髮。行客長思已亥歲。七道望風助豺狼。西陲僅存臣武光。擁護龍種同生歿。誓剪滅之報天子。刀戟相摩八千師。斬敵取胄奪馬騎。六萬賊軍終挫折。血迸奔湍噴紅雪。九國逡巡征西府。

實に沈痛悲壯、聲淚下るの詩吟。

金枝玉葉の御身でも、旅の假寝の草枕。まして凡夫の我々が、忠義に死ぬのは國の爲。

梅は匂よ、櫻は花よ。人は情けの淵に棲む。

わたしが悪るけりや謝りますすねすとこちらを向かしやんせ。

碎けるところあり、引締るところあり。時に雷の落つる事あるも後は光風霽月の如く恬淡たり。

寛嚴宜しきを得て眞に統率の妙諦眞髓を引きつかんで居るのが老大佐の徳能である。知遇を辱うしたものに等しく永久に敬慕措く能はざる所以である。

(二) 旅行準備

外國旅行の手續は、當時陸軍省に居た海村(篤郎)大尉が殆ど一手に引受けてやつてくれた。それは親身も及ばぬ程の熱心さでやつてくれたので、何事もすらくと運んだ。「海」君とは會寧で酒席の間に相見えたのが初対面で、永い交際では無いが、其心意氣の嬉しさは「欣然」感謝に堪へない有り難いものである。交際の長い短いに係らず、死生相許す底の意氣投合を見るのは、酒香仲間には割合早く味ひ得られる藝當である。「海」君今は禁酒したとか? それもよからう、黒の襟章に轉科すべく折角精進の最中だから君が其の長所に向つて進むのは同慶至極だが、併し「欣然」個人としての感想は、君の様な男と戦場で折り重つて死ぬ事が出来ぬやうになつたのを返すべく寂しく思ふ。

夫れ事の成るは成るの日に成るに非らず。必ずや其因て起る所ありと、蘇子の言ひ草では無いが、「欣然」があまりに呑氣であり筆無精であつたに拘らず、在外の武官達が豫め準備して置いて呉れたので大變助かつた。それも皆「海」君の取持宜敷を得たからであつた。

「欣然」が個人として、どんな事を見て來たら善いか。何を研究して來るべきかに就いて指導や紹介の勞を煩はし、旅行中の注意等細大洩さず教示して下さつた渡邊(壽) 林(桂)兩將軍、横卷(茂雄)

大濱(石太郎)兩大佐、中村(明人)中佐及兄弟分の安岡(正臣)中佐、鳩旅行の經驗談「兄貴呑み過ぎて抜かれぬ様に頼む」との忠言は「欣然」身に泌みて嬉しく思つた。

其他公私に互りて直接間接に、骨折つて下さつた方々の厚意で、總ての準備が遺憾なく整つた事はひたすら感謝の外は無い。

(三) 一死報君恩

長しとも畏し

官命とはいへ、一私旅行者たる微臣に對して、特に拜謁の恩典を賜ふ。光榮歡喜何物か之に優るものが有らうか。一死以て君恩に報い奉るの感銘唯是れ有るのみ、拜謁の刹那は殆んど全く無我、龍顏を拜し奉り、自然に頭の下るのを覺へたのみ、何の感激も何の思考も無い。御室を退下して後、始めて熱涙が留めどもなく頬を傳はる。そして恐懼と感激とに全身が震へる。

續いて賢所の參拜。「大日本は神國なり」といふ報本反始の深い感激に満たされつゝ、神前に於て御神酒を戴く。御神酒は、血湧き肉躍り、欣然として死地に就くの源泉。拜領の御盃は、家寶として永く子孫に傳ふべく、門出を祝ふ時善用しやうなど考へて退出する。

海外出張者に對して、拜謁を賜ひ、賢所參拜を御許しになる所以を拜察すれば、誠恐誠懼一意感泣の外はない。外遊半歳、常に自主的に行動し、心窃に各國を征服し得たかの如き優越感を懷きつゝあつたのは、偏に此の特典の有り難味であり、強味であると感銘至極。あゝ！ 誰か一死君恩に報い奉らざるものあるべき。

明治天皇御製

盃をあげてぞ祝ふとつ國に旅ゆく人のつゝがなかれと

照憲皇太后御歌

日の本のさかひはなれてゆく船に國の光ものせてやらまし

二、北 滿

(一) 伊藤公終焉の地點

東支鐵道今は北鐵の一大要驛、^{ハルビン}哈爾濱停車場。

「欣然」は、吉田善秀君の出迎を受けて、此所に下車。伊藤公終焉の地點であるといふ所に立つて

感慨禁する能はざるものがある。

大日本帝國の元勳にして、世界的大政治家たる公爵伊藤博文の最後を偲ぶべく、其所には何の記念物も存在しないではないか。まあ何といふ消極的な遣り方だ。ナニ日本人倶楽部の一隅にあるツ。馬鹿ナ、伊藤公のあの最期、大政治家としての立派な死所。公爵は倶楽部の一隅で満足せられるか知らないが、「欣然」ははがゆくてく仕方が無い。なぜ當時、日本帝國の元勳を瘞したる警戒の不備を鳴らして、停車場を移轉させ、其跡に大記念碑でも建てなかつたか。徒らに公の死に血迷ふのみで、國家永久の記念事業を、咄嗟の際に決定すべき大切な機会を逸してしまつた手ぬるさ加減が、身親しく現地に臨んで、つくづく感ぜられてならない。歐米追躡軟弱外交の罪！ 「情勢の變はつた今日、伊藤公終焉のハルビンに一大記念碑を建設せんこと」を提唱する。

(二) 志士の碑

日清日露の役に於て、直接戰鬥に従つた軍人以外に、家を忘れ妻子を忘れて、鴻毛の身をあらゆる艱難辛苦の谿谷に投じて、君國の爲に活躍したる志士の數多あつた中に、一際其の死の壯烈で、露人の度膽を引つこ抜いた沖・横川兩志士の事蹟は、今も國民の記憶に新なる所であらう。「欣然」今や

此の志士の碑前に立つて感慨無量。嫩江の鐵橋破壊、露軍後方連絡線の遮断、雄圖空しく破れて、露軍に擒はれ、萬事休して死の宣告を受くるに及び、囊中の一物を赤十字事業の淨財として提供するの餘裕を示し、遺族は畏れ多くも陛下が見て下さる、潔いさぎよく死ぬぞ、と覺悟の臍を固め、眼かくし布を除去して打胸一番「撃て！ 此處を」と



然欣と碑之士志兩沖・川横

日本勇士の精華を發露せしめたる志士の度胸！ 目のあたり見る心地して、「欣然」たる者熱涙の滂沱たるを禁ずることが出来る。流石に獨逸の從軍記者だ、沖・横川兩氏の最期を見届けて曰く。軍人でない常人の最期があれだ。「勝利は日本の手に歸するならん」と。先見の明、敬服に價するではないか。あゝ度胸だ！ 志士の志士たる、實に度胸を以て獻身殉國したのにある。その結果露軍をして心膽を寒からしめ、衷心日本を恐れ、遂に主動の地位に立つ能はざらしむるに至つた。その効果は實に偉大である。

度胸だ！ 度胸だ！！ 男は度胸だ!!! 如何で御座る？ と、思はすうなつた「欣然」得意の獅子吼に、境内に在つた二三の支那人、吃驚して遁げ出す。度胸は實に死を恐れざるに在り矣だ。然るに近來平和に忤れ度胸の修養鍛練に缺くる所あるは慨嘆に堪へない。千年生きる人間もあるまい、悟さとが肝要だ。「悟とは比較だ」と喝破した佐賀の藤蔭福嶋一郎先生の警句に敬意を表する。

「欣然」は度胸に就いて大に慨嘆したが、全く見捨てたものではない、といふのは此兩志士と相前後して活躍したる度胸の持主に、隠れたる勇士建川(美次)中尉の將校斥候がある。日露の兩軍が沙河で對戦して居つた當時、決戦地帯の偵察に出掛けて、敵の背後も背後、遠く鐵嶺へ潜り込んで、夜間平氣で馬から下り、敵に馬の尻を向けて手入し、そこを通るロスに對し、「オイ戦友どうだ」と話を交はして、敵情を探つた度胸、全く意表に出た不敵さ。一寸人間放れがして居る。それから近來の傑作では石原(莞爾)中佐のキンタマ、ハオ？ と、永見(俊徳)中佐の錢バラ撒き、密書具呑み事件がある。共に度胸と奇智とで、支那人を繰り、死線を突破したのである。實に痛快だ。由來支那關係の人——現に「欣然」と鳩旅行の一人鈴木(貞一)少佐もさうだ——には度胸の据つた人が多い。喜ぶべき事だ。才智ばかりでは、ほんとの大事業は出来ない。大に度胸を養ふべきだ。

あゝ！ 度胸の神、沖・横川の兩志士よ「欣然」今や志士の度胸にあやかつて、恨は長し松花江、

思は遠し歐洲の天、茲に滿腔の敬意を表するため記念の撮影をなす。初着の背廣、鬚はぼうく。左手に持つは劍豪内藤高治先生が外遊の贖はなむけとして贈る處の吉久の短刀、因に記す、内藤先生は此一刀を「欣然」に贈るの數日後、突然長逝せられ、欣然は奉天に於て其の悲電に接し、長春より弔電を呈して置いた。其記念の短刀、これも度胸を鍊る道具の一つ、加護を垂れ給へ！

さて、彼の伊藤公の終焉の地に、遺跡の何物をも止め得ないのに比して、此碑の此所に建てられたるは大に好し。されど現在近邊に、志士の傳記類は勿論、繪葉書一枚鬻ぐ店も無いのは物足らぬ。一の國家的事業として、永久的の住宅を構へ、其子孫なり崇拜者なり、就中廢兵の如き有志者を永住せしめ、以て國威を發揚し、志氣を鼓舞するの手段を講すべきものでは無からうか。乃木神社に於ける村野山人の如き仁人は居ないのか、噫！

(三) 往きは西比利亞

日露戦役に於ける戦歿將士の足跡は哈爾濱附近にしか届いて居なかつた。が併し其英靈は何處迄も敵を追撃して、其首都に迄入城した事であらう。加之其後、西比利亞事變で 皇軍は浦鹽からチタ附近迄懸軍長驅占領したではないか。それをミスく返して仕舞つた、あの政黨政治のへま加減、思

出すだに癩しかぶくの種だ。生残りの「欣然」は其意氣其氣持で、往きは西比利亞鐵道を選んだのである。決して物好きに取つた旅程で無いから「卯月の半ばに雪消えぬ」所か、未だ盛に降つて居る時、屢々車窓を開いて外を眺めた。

松花江の大鐵橋、長さ千米突に四十米不足、此鐵橋に或一種のカラクリのしてある事實は、恐らく知る人稀であらう。カラクリとは何か。あの橋脚の一部に一枚の切込石が仕組まれて居る事だ。まさかの場合、此切込石を取り外して、ソレく一寸した装置をやれば、ドドンガラガラ、此カラクリも彼の沖・横川兩志士一隊の目標となつたのではなからうか。然り而してだ、此橋脚の工事に従事した工人が〇〇國の石工であるのであるから、たまつたものでない。惜しいかな、此逸話の主人公其名を逸してかくれてゐる。眞に無名の志士として傳ふべきである。

千里平原無障碍 大兵可用可行軍

英雄會是功名地 唯見綿羊野馬群

甘いだらう。甘い筈だ。乃木將軍、英皇冠戴式に、東伏見宮殿下の隨員として渡歐された歸途、此地方を過ぐる時咏ぜられた傑作だから。實に其通りである。怪僧吉田無堂の言を一寸拜借する。先づ眼に映する岡阜地の色は茶褐色、遠方に見えるのが雲か山か吳か越か、兎に角薄藍色だ、それが登る

ともなしに登り降るともなしに降つて行く程に、雲が山がだん／＼薄茶褐に變じ、尙近づくに従つて茶褐色の岡阜として横はる。そして其奥に復薄茶褐が重り薄藍色が重なる。幾度も幾十度も、幾日も幾日も、此れを繰り返すのが、此鐵道の旅だ。實に廣漠たるものだ。こんな所で戦をしたら、用兵法の變化勿論だ。廣ければ廣いやうに廣くあばれるさ。一人で五人なり十人なりに當るやうに、個人としての精氣や運動量は、何處までも廣く大きくなければいけない。所が今、日本でやつてゐる戰闘の各個教練などを見ると、技巧に過ぎる感がある。だゞつ廣いこんな土地では技巧はいらぬ。唯一圖に律義一遍、沈着照準、北極星を便りに夜襲。又戰闘單位の中隊の正面は指揮の關係を顧慮して決定するの要があるから、机上の研究に止らず、似寄りの地形に當て嵌めて研究するの必要がある。守備隊は勿論、二年毎に交代する師團の將兵よ。内地のこせ／＼した地形を忘れて、廣漠たる地形を想像して眞劍に指揮訓練の效を積み、以て有事に資するの覺悟を要する。

併し段々進んで、興安嶺附近にゆくと、聯隊位で攻略するに手頃の山がザラにある。夜襲には持つて來いの地形だ。戰術上地形は重要な問題である。殊に歩兵は、より多く地形を支配せねばならぬから、次に地形眼の養成活用を緊要とする。宜しく地形に應じて、伸縮自在、弾力性に富まねばならぬ。而して其戰法たるや、國民性の上に樹立して其特長を發揮し、必勝の信念を確持することを根本

とする。

オビ、レナ、エニセイ。來て見れば、左程でもなし三大河。結氷期は勿論、解氷期だつて、渡河作戦の不可能を見る程な廣さでは無い。千古斧鉞を知らぬ密林も、奥にはあると聞くが、沿線には少しか無い。少しといふは比較的の語、一般に歐洲には、森林が多いから、冬營するにしても、燃料に困難するやうなことは萬無からう。尙近時赤軍では副防禦線に、鹿柴を利用する傾向がある。其攻撃破壊に對する訓練として、掩覆通過、火焰放射などの研究工夫の必要を認める。

専門的堅い話で失禮。西比利亞鐵道永い道中も一等室は日本人十四名で殆んど借切り、其上に大小の醫博和田長崎氏等がお揃ひで氣丈夫だつた。中に博卵倉田包雄さん（存命なれば當然師團長格の倉田新七大佐の息）が乗り合せたのは眞に奇遇であつた。

三、ソ 聯 邦

(一) 沿道の群衆

ソビエツト政府は、鐵道に依るの外、内地の旅行を許さない。そこで沿道の地形と人間とを觀察す



るよりほか、何の方法もない。その人間共は一體どんな風か？

停車場は、彼等の爲の一箇の集會所である。老幼男女ウジ／＼して、其待合所に疲れ切つた身體を投げ出して寝そべつてゐる。或者は食堂車の流し口から落ちて來る黒麴麵にあり付いて、嚙じつてゐる。或者はブラットホームに出稼ぎをする。而して旅行者が吸残しの煙草を捨てると凄まじい勢で争奪戦を行ふ。正直な奴は旅行者の靴磨きを奪ひ合つてゐる。中には旅人の懷中物や持ち物をスリ取る様な不良がザラに有る。現に「欣然」と同行せし某博士は、金時計をしてやられた。雑踏の中で忽然カチリと物の落ちた音遣り損じて落した時計を、眼付の悪い逞ましい大男が、拾ひ取らうと手を伸した。其時疾し、「欣然」得意の鐵拳が其奴の鼻柱をコッソ。實に痛快だつた。博士は其隙に時計

を拾つて、狐鼠々々と實に敏捷に、群集の股の下を潜り抜けた。昭和韓信の股くゞりとは如何で御座る。こんな状態で、油斷も隙も有つたもので無い。所が「欣然」は大威張りだ。時計は勿論、懷中物持物一切、何物も奪られなかつた。何故か。曰く何曰く何。否々さうで無い。そう買ひ被つて呉れては困る。實は「欣然」、時計は勿論、種々の持物が無かつたが爲である。無い物は取られる筈が無いではないか！ 何ッ時計無しで旅行が出来るかといふのか。出来るともく／＼時計なんか正に無用の長物否圓物だ。

(二) 聞いて極樂見て地獄

モスカウ停車場に着くと、有難い事だ。眉目秀麗にして剛健潤達なる富永(恭次)大尉が迎ひに來て居て呉れた。そして三日二晩殆ど付き切りで、懇切周到を極めた案内振り、特に「欣然」をしてソ聯の認識と研究とを正確深厚ならしめたること、實に感謝の至りである。當時モスカウ市中に、營業用自動車僅かに三十臺しか無いその中から、殆ど不戦勝で二臺奪つて來た働きや、香魚釣の妙味を味はせて呉れた力量に至つては眞に腹の出來て居る「富」君なればこそと、忘れる事の出來ない思ひ出だ。

レーニンの墓、赤軍の家、奈翁の長恨雀ヶ岡、オペラ見物等々の觀光をなしつつ、ソビエットの現



状を視察する時、言ふ可からざる無量の感慨に打たれる。鈍重にして根氣強き吾人の好敵手達が、國體變革の治下に在つて、衣食住に非常な困難を感じ乍らも、飽く迄徹底的に共產主義を實行しつつある努力は、確かに認むる事は出来るが、それが何時まで続く事か、そして何所の岸に船が着くことか、國體民情を異にする吾人に取つては、一種の驚異であると同時に、見るに堪へない慘狀である。噫！一日も早く誤れる赤化思想を救つてやらねばならぬ。軍隊を以てする彈壓、探偵政治、言論機關の壓迫統一が國家統治の三大要件であると聞いては、兇暴陰鬱悻悻、幾多醜惡なる熟語を並べても名狀する事の出来ない悲惨である。ソ聯を通過したるもの誰しもが、異口同音に吻を突いて出す言葉は『日本に於ける共產主義かぶれの奴輩を、一度ソ聯の内地に放つてみたら如何だらう。三日を出です

して、忽ち反共產主義者に變じてしまふであらう』といふ言葉である。現に英國の某坑山に於ては、最も猛烈な主義者共に旅費を給して、露國に派遣して研究させた所、半年経たずして歸國し、共產主義は、英國に對しては、絶對不適の主義政策である事を絶叫報告したといふ。そこに、理想と現實との不合一がうかがはれるのである。日本内地に居て、理想談を聞いたり、金を送つて貰つたりするだけで、何が判るものか！

露西亞に産れしものは兎に角、苟も我が國に生を享けしものは、克く熟慮して正道順路を進む可きである。我日本の國體ほど有難いものは無い。萬國に冠絶する我が崇高無比なる國體に對し、變革を夢みるが如き不逞の徒輩は、徹底的に重く斷罪して可なりである。否教育の徹底と社會施設の完成によつて、かゝる思想かぶれを未然に防ぐことの緊要なることを痛感するのである。聞いて極樂、見て地獄、噫慘なる哉

(三) 宗教は阿片の如し

ソビエツトが國を建てた時、何でも敷でも、在來の制度全部を破壊して、新らしいものを築かうとする立場から、寺院の門前に

ソ
聯

「宗教は阿片あへんの如し」と貼札はつたして、民衆の寺に參詣するのを禁じた。所が今日實際、日曜日に寺へ行つてみると、阿片の如しとある貼札を潜つて、阿片に酔ふべく參集する善男善女が、少しも減じてゐないのであるから皮肉である。



因襲のみではない。

佛蘭西の小學校は日曜と木曜の午後と兩日學校を休む。木曜日に半休する理由を訊たしてみると、家

宗教を撲滅しやうとするなら、此れに代るべき何物かを與へなければ無理だ。單に因襲的と言ふ勿れ。因襲の多くは斷然破壊され行く中に、宗教許りにソ政府が手こすつて居るのは、其所に何物か強い力のあることを考へなくてはならぬ。人類が宗教を求むるのは、本性である。

庭に於て宗教々育を爲す必要上からであるといふ。善い事をすれば善い報があり、悪い事をすれば悪い報が來るといふ考へは、人の生れ乍らに有つてゐる理念であつて、宗教心の發芽は、生れながらにあるのだ。小學校時代から宗教の教育をやうといふのは、當然の事である。日本に於ても近來子供に對する宗教々育に骨折る宗教家の多くなつた事は、喜ぶべき現象である。子供の中から教育しないから、宗教は死後を畏るる老爺老婆の專賣物であるかの如くに取り扱はれて、折角の宗教も無用の長物となり終るのではあるまいか。ソ政府の力を以てしても如何ともする事の出來ないのは宗教である。相當の教育をして世の文明と共に進歩する宗教に仕上げたいものだ。禁じても禁じ切れない社會政策の二大失敗はソ聯の禁宗と亞米利加の禁酒とである。人間を單に機械視するからの失敗である。神秘的の妙味を感得せぬ國民程哀れなものはない。宗教と酒とは人生行路の好伴侶であり、又最高道徳、犠牲的精神の源泉である。夫れをはき違へて禁宗禁酒の運動をなすが如きは愚の骨頂である。止せく喝ツ。

(四) 赤 軍

赤軍の素質と編成裝備には多大の關心を要する。而してその編成裝備は日露戰役當時とは餘程變つて來て居る。日露戰役前、日本が露西亞を研究知得して居つた程度は遺憾ながら淺薄であつた。然るに歐洲大戰前、獨逸が對露作戰の準備研究訓練は仲々大したものであつた。そこで東歐戰場殊にタンネンベルヒの戰鬪に於て獨軍の快勝は將に世界的のものであつたではないか。

世界的快勝を味はつた獨軍は、主として日露戰史を基礎とし且接露の東普方面軍隊が對露戰法を研究し徹底的に訓練して居つたのである。殊に彼の有名な「ヒンデンブルグ」元帥や「マツケンゼン」大將等は十何年も同地方に駐屯して其作戰に苦心した張本人であつたのである。

日露及獨露兩戰役に於て暴露したる露軍の素質は概ね次の通りだ。

1 素 質

(一) 國 民 性

鈍重悠長にして臨機應變の才に乏しく、獨立心なきを以て獨斷及協同動作に缺くる所がある。從つて指揮困難なる蔭蔽地・山地等の戰鬪は得意でない。又側背に對する感受性が非常に大であると、性愚直であると兩者相俟つて、敵の僞騙牽制に乗ぜられ易い。

細密周到なる考慮を要する諸計畫及其實施竝に搜索勤務の如きは甚だ拙劣である。一般に機動性

に乏しきも、師團長以下にして指揮官其人を得るときは、時に意外の機動を實施する事がある。最近飛行機上よりする落下傘戰鬪——敵軍の後方に著陸して其高等司令部を急襲する等勿論捕虜になるのを覺悟して——の如きは一例である。

(二) 異種民族部隊

異種民族は必ずしも其本國政府に心服せるものでない。その一部は已むを得ず大勢に順應して歸服しありと見るべきものである。軍隊に服務して居る者の中にも其本國の言語に通ぜざるものさへ尠くない、純粹の本國人部隊と此等部隊との精神上の融合に就ては遺憾の點なき能はずである。

(三) 民 兵 部 隊

〇〇編成は正規部隊と同一であるが兵卒は八乃至十一ヶ月の後歸休となりたるものである（正規兵の在營年限は二ケ年）當時民兵部隊は平時團隊の過半を占めて居る。併し其後正規部屬に改編しつゝある。

(四) 指 揮 官

現時の高級指揮官は正式の高等用兵術の教育を受けたるものでない。故に大兵團の指揮は拙だが

年齢が若いから往々果敢なる決心處置に出づるものがある。大隊長以下の指揮及教育は概ね良好であるが、歐洲各國の軍隊の指揮官に比べると大に遜色がある。

(五) 兵 卒

堅忍持久性に富み、正面に對しては特に頑強に抵抗する。但し火戰に長ずるも白兵戰は到底我に對して刃が立たない、併し敢てせぬではない。列強軍隊の中では獨り赤軍丈けは白兵戰に多少齒應へがある。而して彼等の弱點は側背にある、そこで成る可く速に〇〇することが緊要だ。彼等は〇〇されると、それ以上抵抗して人命を損することは神意でないと觀念して降伏をする。元來歐洲人は戦ひ盡して捕虜となることは耻とせぬ、寧ろ名譽と心得て居る、この心裡は到底我々日本人には解らぬ。ロスケ許りでなくドイツもチエツコも、我國に捕虜として來た連中はそればかり日本人の仁義任侠以て捕虜を厚遇するの念に感謝の涙を濺いで居る。現に「欣然」の知り合ひになつた露國將校の告白に依れば「當時露國の軍隊就中兵卒は何の爲に戰爭をするのか其目的さへ知らない、従つて戰意が十分充ちて居ない、おまけに其家族からの手紙は後顧の憂のない様な激勵どころか、反對に一日も早く戰場を去つて歸國するか、いつそ日本軍に投降して命を全ふする様にと言つた様な文面だつた」との事で、實際彼等は捕虜になつて日本に行くのは觀光客として

道後温泉に湯治に行く様な實に呑氣千萬な氣持で居つたのである。「捕虜になる位なら舌嚙み切つて死ぬ」と言ふ様な氣概のある國民性の我々日本人とは雲泥の差がある。茲に又戰爭の勝敗に重大な關係のあることを忘れてはならぬ。必勝の信念なる哉

2 編 成 裝 備

赤軍の編成裝備は特に重大關心を要する。蓋しその素質の短所を補ひ長所を發揮する様に頗る苦心研究してあることを見逃してはならぬ。正規軍と民兵軍とに於て多少違つては居るが、兎に角火力を重視して機關銃・火砲・戰車・装甲自動車等の機械化部隊及飛行機の著しく多きを特長として居る。就中化學戰部隊を強化して猛訓練を行ひ、之を以て世界無敵の戰法と信じて居る様だ。現に朝夕點呼の際に防毒面の裝法を間稽古的に演練し、又外出の折には我國兵士の水筒代りに必ず防毒面を携帯するが如き、そこまで徹底して居る國はないのである。

現時ソ聯が極東に多數の軍隊を駐屯して對日戰法特に夜間防禦を研究訓練し、又彼の得意とする機械化戰及思想戰を準備して居る事は公然の秘密として有名である。

以上の様な素質、編成裝備及戰法を取るものに對して、如何にして必勝を獲得すべきや。具體的に之を述ぶる事は軍隊訓練の秘密に屬するから之を遠慮するが、要は其長所を封じ其短所に乘すべきで

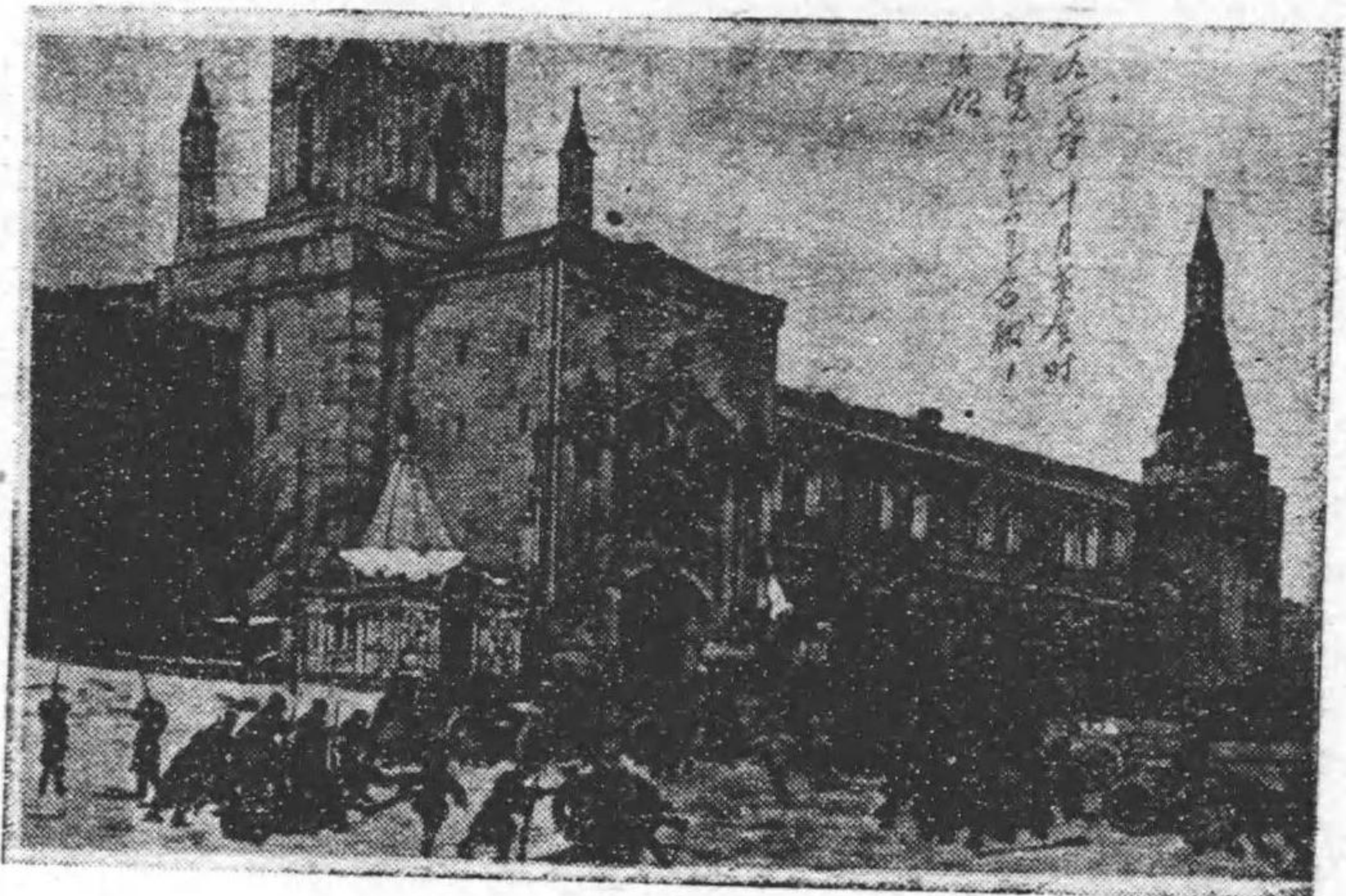
所謂彼を知り己を知るは百戰百勝の基である。

明治三十七八年戰役當時の好敵手國に身を置き、往時を追懷して感慨轉切なるものあり特に當時對露戰法の研究訓練の足らなかつた事に想到して、實に慚愧千萬、眠れる地下の戰友に對し深く其罪を謝して、厚く英靈を慰むるものである。念佛に代へて『大敵たりとも懼れず、油斷大敵を肝に銘じ愈々益々必勝の信念を確持する事』が最も緊要である。同時に溫故知新就中瓦斯戰に經驗なき我國の軍隊は層一層化學戰の研究訓練を行ふべき事を痛感した。

(五) 總 括

ソ聯の長所短所及び之を覆へすもの之をして其大を爲さしむるもの、其歸する所は何か。所謂「ニーチエヴォー」の民性は是れである。

現在のソ聯が寧ろ亞細亞系の爲政者(例へばスターリン)に率ゐられ、その政治・産業・國防等の中樞も中歐より東歐へ、東歐より亞細亞へと移動され、嘗てピーター大帝が露國の歐化に努めし時より亞細亞化せんとしつゝあるに拘らず、依然としてスラヴの民性たるニーチエヴォーに其運命を託して居る所に、この國の特異性が存在するのである。



ソ 聯

世界十億の人類中最も靱軟性を有つものは支那民族と露民族との二つである。之は日本民族の神性とユダヤ民族の超國家的なると併せて世界民族の四大驚異である。即ち現在の世界に於て最も興味ある國家は日支露の三國である。「欣然」は現ソ聯邦建國の精神とも謂ふべきマルクス乃至レーニンの唱導せし階級闘争・破壊主義・無産獨裁等が世界人類共同の敵なることを斷言するに憚らぬ。況んや我國體と相容れざることは、こゝに多言を要せざる所である。併し我皇道にして其光彩を遮るべき何物をも介在せしめざる限り此種思想の侵襲に對して、その根本に於て、茲に少しの恐怖をも懷く者ではない。何となれば、我皇道はソ聯現政權の採れるが如き苛酷なる手段とは似もつかぬ穩健幸福なる手段、即ち皇室中心・君民一體・家族團樂・階級融和等連絡不斷の明朗なる建設主義に依りて世界人類最大

最高の理想に到達し得るからである。一部共産ソ聯狂信者の解釋するが如く、現在のソ聯の採れる制度が國民の幸福なり等の見解が、如何に誤つて居るかは、前に言へる如く一度ソ國に入るものゝ直ちに感ずる所である。

露人又は其血液的感化を受けたるソ人なればこそ斯る獸類扱ひの施設にも辛抱出来るのであつて、その他の歐米文明國人、殊に清高なる日本人が一刻と雖もかゝる制度に堪ふことの出来ないのは火を賭るよりも明かである。露人のニーチエヴォー主義が共産革命の已むなき迄舊帝政を墮落せしめて再び苛酷なる現政權を招來し、又ニーチエヴォー主義なるが故に革命後十七年の今日迄、之れに耐へて居ることを思へば、露人今日の生活苦も自業自得と謂はざるを得ぬ。然るに之れをしも眞似んとするが如き馬鹿者が而も 皇國日本に於て狂信的に存して居るのを見ては、全く驚かざるを得ないのである。併し彼等にも決して日本民族の血液は失せては居らぬ。一年位西伯利亞の野へ放逐してニーチエヴォー的生活をやらせて置いて後、日の丸の國旗を拜ませたら、落涙萬斛元の眞の日本人に還歸すること請合である。

併し乍ら又一面、かゝる苛酷極端なる爲政に唯々諾々として従つて居る露の民族性に對して決して決して單に輕侮油斷の心境を以て臨んではならぬ。彼がピーター大帝以來の極東侵略の秀でたる經綸、南方に海港を得んとするの欲望、巧に異民族を包容懷柔するの怪腕、それは今も昔も變りはない。否、現ソ政府の一枚看板たる五年計畫及び第二次五年計畫に基き、徹底せる獨裁政治に依り、急速度を以て開發せられつゝある無盡の資源、大規模の工業、何物にも束縛せられずして、只管充實の一途を辿りつゝある國防に依つて、現に中央亞細亞に集中せる其大勢力は、今や極東に指向せられつゝあるではないか。

斯くの如き不可測の經綸を可能ならしむるものは、一には素より其徹底したる獨裁政治の力である。其の尨大なる領域と、其中に包藏せらるゝ殆んど無盡の稱ある資源との力である。これが決定要素たるものは、昔も今も變らぬ露人のニーチエヴォー主義即ち其の異民族をも敬愛包容する寛容なる態度、鈍重なれども忍從耐久、宿命に安んじて理屈を言はざる其民族性是れである。

我國が 皇道宣布の手を極東大陸より一寸でも弛めたなら、之れに代りて吞噬の手を延さんとする者は、英米にあらず支那にあらずして、實にソ聯であるに相違ない。滿洲國の獨立に伴ひ、ソ聯の極東に於ける經濟線が中斷せられたる事は、極東に於けるソ聯將來の侵略に對する致命的打撃であつて之れを打開して其吞噬を遅しくせんとせば、當然 皇國破邪の神劍に觸れて、その極東侵略の毒牙は根柢より破碎せらるべく、茲に滿洲國の獨立が、先づ北方に對して東洋平和の重要な一階梯なるこ

とを立證するものである。而して前述の如き無限の資源、老なる軍備に對しても、我が皇軍は些少の恐怖心を懐くもので無い。何んとなれば宗教を排斥し、家族制度を否定する現ソ聯は、その根底に於て民心を得てゐない。殊にその民族が百幾十餘の種族より成り民族間の反目甚しい事から、一朝國難に際しては、その結束内より崩れ、然らざる場合に於ても到底我が皇國又は皇軍の敵にあらざることとは、敢て多言を要しないのである。吾人がソ聯に對して戒むる所以のものは何か。我も亦其國防就中空軍の増強と在滿兵力の充實庶政一新竝國民精神の涵養を心掛くるにあらざれば、或は其無稽なる宣傳に乗ぜられて、有事の際に不測甚大なる犠牲を拂はざるべからざることあらんを恐るるのである。

「欣然」は現ソ聯の國際的インチキと、其國民に對する苛政、特に言を左右に託しつゝ我が國體を破壊せんとする其潜行的陰謀とに對して、絶対に之れを排撃する者である。併し乍ら他面、決して淳朴愛すべき露民族そのものを憎むものではない。露民族は、滿支の兩民族と共に、一日も早く日本を盟主とする大亞細亞聯盟の一員として、我が皇道の恩澤に浴させてやらなければならぬと思ふ。

此の大團結さへ出來れば、歐米列強の亞細亞侵略の野望も始めて其鋒銜を收め皇道宣布の實質的第一階梯たる東洋の平和が、始めて期し得らるゝのではなからうか。特に平和の根底をなすものは北

樺太及び沿海州の讓渡還元である。日本の眞精神は八弦一字の尊き淨化であつて、英の帝國主義的占領でない事を神明に誓ふ。淨化なる哉、淨化。

四、波 蘭

(一) 日の丸の光

ソ聯の國境を突破して、始めての驛が、ストロップセ驛。復興ポーランド國の領に入つたのである。いざ税關の検査といふので、手荷物を全部車から下ろす。「欣然」のトランクの一隅には、小さい日の丸御旗が縫ひ附けてある。それと見た赤帽連「ニッポンく」と片言を言ひく、吾れ先にと奪ひ合ふ。七重の膝を八重に折ると言ひたげな表情で、欣び尊びグンく運んで行く。同車して居た馬奈木(敬信)大尉Ⅱ外交官Ⅱの荷物と同じ扱ひにして、六薩法検査もしない。ヨロシイくで、眞先に検査が終る。實に氣持の好い持て方である。出發前、在佛の吉松(喜三)大尉から「荷物に日の丸の旗を附してお出になるが良い」と注意のあつたのを幸、實行して來てよかつた。その効果の顯著なのに驚くと同時に、つくづく日本の國旗の威力に感謝を捧げる。

ポーランド國の親日主義が赤帽輩にまで徹底して居る原因もあらうが、全く面喰つてしまつて、チップを少々はづんでやつた。他の國々に於ては、此處程な持て方ではなかつたが、日の丸に對して、丁寧な取扱をしてくれる状態は確かに見られる。一面から支那人と間違へられぬ利益は目前だ。荷物の日の丸御旗の外に、「欣然」は自分の身體へも國旗を張り付けて行つた。驚く勿れ、それは腹卷だ。長途の旅だ、何時何所で死なない者でもない。その時腹卷に縫ひ付けられた國旗によつて、日本人たる事を知られやうといふ腹だ。然り、死んでも日本人！「俎の上で此の身はチョン切られよがまゝよ。ピクともしないのがこひの道」とかなんとか意味のある様な無い様な用意であつた。愚妻が白木綿の腹卷を手縫して、粗末ながらも作つて呉れた。所が『日本將校の腹卷がそんな安つぱい物では恥辱だ』とか何とか言つて、牛尾(龜鷹)中尉が、甲斐絹の素晴らしいのに。優美な日の丸御旗を付けて贈つて呉れた。「欣然」乃ちそれを固く太つ腹に巻いて、愚妻のは豫備としてトランクに入れて出發に及んだのだが、幸か不幸か、その腹卷の國旗は生身についたまゝで歸朝した。

身體に張り付けたもので今一つ振るつて居る逸話。それは鹽瀨羽二重の隅取兵兒である。無作法であるが御赦し下さい。兵兒とは禪の異名である。越中禪よりも尙一層經濟的に簡便に創意工夫せられた、我藩主の質素儉約の遺物である。前記腹卷の話に花が咲き、丸龜の舊友岡・勝田・大谷等の女性

達が緊禪一番と言ふ意味でか贈つて呉れた。使ひ古したが廢物利用から思付いて適當に之を寸斷し、胸ポケット飾となしダンス場へと洒落しよれ込んだところ、流石に巴里ツ子だ、相手のダンスサー裙、ジョオリー(奇麗だ)と仰つしやる。「欣然」之を與ふれば愛嬌百パーセント、忽ちキッスの安賣。而もそれが群集の面前でだ。「欣然」たるもの豈照れざるを得んや呵々。

「欣然」のダンス、憚り乍ら明治三十六年戸山學校體操科卒業越智(茂大佐)中尉の直傳で所謂時代ものだ。本場での體驗、それで可否が分るといふもの、我國民全般には風教上斷然不適當である。殊に呼吸器病傳染の恐れ多大なるに於て特に然りと斷言して筆を擱く。

(二) ハラキリ刀

ポーランドの首府ワルシャウ思出話の一節、駐劄武官鈴木(重康)大佐が「欣然」の爲め、一夕の宴を張つて優待し、席上、眞摯なる態度で、中歐旅行中心得うべき事、注意すべき事の數々を語つてくれた。實に周到綿密を極めたもので、「欣然」が滯歐中、大した失敗も出來さず、到る處機宜に應じた處置の取れた事は全く此の一夕の賜で、今尙ほ感謝して止まぬ所であるが、猶他に『美助さん』といふポーランド人を紹介された事も、大きな思出の一つである。美助さんは一度も日本へ來た事もな

く、日本の學校へ入つた譯でもないが、その熱心なる親日の精神一到で、日本語が自由に話せる、日本文が自由に綴られるといふ珍しい人物である。殊に東京・大阪の地理に精通して銀座邊の話になると、常々散歩してゐる「欣然」よりは、一入委しいといふ有様、日本文でも書かせやうものなら、武骨な「欣然」などは、三舍も五舍も避けねばならぬ。異境に在つて、かかる嬉しい友に遇ふ。酒も進まざるを得ない。調子に乗つて強酒をあふり、大に米突を上げて上々機嫌でホテルに送られた迄は覺えて居るが、其後の事は白河夜舟。

ふと目を覺してみると、寢室の中に禪一貫素裸の自分を見出したといふわけだ。しかし、本性違はぬ日本武士、例の腹巻と左手に握つて離さない一物がある。それは何か。度胸の守本尊吉久の短刀。肌身を離さず、此の亂醉の前後不覺の際にも、裸身に添うて持たれて居た事は、吾ながら快心の至りであり、内藤先生の英靈が常に「欣然」を護つて下さるものとして、感銘の至りでもある。

翌朝の一挿話だ。

番頭「大佐殿 昨夜抱いて居つた物は？」

欣「あれか！ ハッハッハハハ」

番「大佐殿 何ですか」

欣「あれは短刀

番「わかりました。腹切り刀

欣「ウム、能く知つて居るナ

番「モスカウ、日本海軍小柳大佐

後は手真似で腹切る仕方、事實は湯氣の立つ程新しい一ヶ月前の出来事、心なき番頭風情にも、日本の武士道は、大なる刺戟を與へて居るのである。死する動機は兎まれ角まれ。彼も流石は同郷葉がくれ武士の一人、潔く腹かつさばいた勇士の最期、思はず番頭の唇頭に上つて感慨更に新なり。讚美の手向けとハラキリ刀吉久の一刀を捧げて瞑目一番。

五、獨 逸

(一) 天邊豐富

伯林郊外の大飛行場、テンペルホーフ、語學に不堪能な「欣然」は、天邊豐富といふ日本語で記憶する事にした。何たる應用自在だらう。獨逸の交通機關、海上は勿論、陸上に於ても今日の鐵道事業

は實にミジメなものである。佛國政府に抑へられて償金を絞られる爲め、二進も三進も行かぬ經濟状態にあるから、戦前にも劣つた不備さ加減だ。所が、天未だ獨逸を棄てずか、天邊豊富、獨逸陸軍の大練兵場として有名だつたテンペルホーフが、今や航空機の發着場として、素晴らしい勢である。伯



獨逸 舊皇居前ウキルムル
一世銅像前鳩旅一行者同一

力車に乗る位に心得て居る。實際飛行機が墜落しても、人力車が轉覆した位に心得てゐる。日本の様に仰々しく騒がない。日本の新聞が二號活字で大袈裟に書き立てるのは、一面から言へば同情の反影

林を中心として、巴里・倫敦・維納・ワルシャウ・モスカウ・コペンハーゲン等歐洲各地への航空路が開かれてゐる。四通八達、眞に天邊豊富である。「欣然」たる者豈征空せずして措く可きだ。五人乗機上の人となる獨逸の男女が同乗した。何奴も此奴も皆平氣なもの、日本で人



獨 逸

で、感謝すべきではあるが、一面航空術の發達を阻害する弊が伴うてゐる。過ぎたるは及ばざるが如し、何事も程度の問題だ。

或る種類の人々がいふ如く、我國の飛行術は陸海軍共、其大膽不敵なる事、世界一だが惜しい哉、機其物が他に及ばぬ所がある。それを時たま墜落しても、其原因を飛んでもない所へ持つて行つて、彼是と攻撃するのは、沙汰の限りと言はねばならぬ。我國飛行界の勇者よ、識者は知り過ぎてゐる。没分曉漢の言に耳を藉さず、所信に向つてドシ〜進め。何アに天邊豊富否天空快潤といふ次第だ。さて伯林上空の飛行は、至つて平凡無味であつた。出ものはれもの處きはらず、うっかり出て來る放屁一發。爆音に遮られて、人知れず空過したのはよいが、世界一の堅實國を以て誇る國の首都の眞上から、有臭の瓦斯彈投下は、吾乍ら

笑止千萬、だが斷つて置く、決して屁ツぶり腰の醜態は演じなかつたことを。

獨逸の航空機、殊に飛行船に於て、他國の追隨を許さぬ發達振は、ツエツペリン號の來航に依つても知られる。一寸脱線するが、大西洋横斷航路は通常何國の汽船でも六日間を要するのを、獨逸は最近四日半で航行するやうな新機關汽船を作り出した。機械工業は斷然一頭地を抜いて居る。時間的經濟に敏感な歐洲人、喜んで此新汽船に乗りそうなものだが、そこがそれ國家本位民族自決主義の英佛人だ。米人其他は四日半を利用する中に、英佛民だけは、依然自國の六日に満足してゐる所が面白いではないか。獨逸は航空界の外、手足の伸びない關係もあるが此飛行場の發著、日に八十何回と比較して我日本の民間羽田飛行場の一日二回は其差餘りにもひどすぎるではないか。民間航空の發達を望むや頗る切。

要するに、獨逸航空界の將來は、恐らく世界に冠たる發達を遂げるであらう。戦前の陸軍國が一轉して世界一の空軍國となる時代が遠からず來るものと思ふ。敢て提灯を持つ譯ではないが、名詮自稱天邊豊富だ。

(二) 實業學校

獨逸の……實業學校を見學した。日本の實業學校では、極少數の實習時間といふのを除く外は、殆ど學問教育で、他の學校と餘り異つて居ないが、此學校へ來て見て、始めて成程實業學校だなといふ印象を得た。事程左様に、實物教育であり、啓發教育であるからだ。教壇に立つ教師は殆ど無言で交り代り生徒を引張り出しては實驗させ研究させる。總てが勞作であり體驗である。哲學教室に入つて見ると、整然たる討論會場である。教師は單に問題を提供し、端緒を指示し、缺陷を補充するのみだ。そして一時間中二、三度、全生徒を哄笑せしめて倦怠を除く調子がうまいものであつた。

今一つ目立つた事は、活動寫眞の利用である。日本でも追々教育映畫に着眼して來たやうであるが獨逸の非常なる進歩には驚かされた。體操は室内ではあつたが、裸體操をやつて居た。裸體操と冷水浴とが大に奨励されてゐる。大戰の影響を受けて居るらしい年輩からであらうが、生徒の體格は頑健といふ風ではなかつた。獨逸で四月といへば、東京の一月位の寒さだが、襟巻を用ひるやうな柔弱なのは一人も居ない。多くは半ズボン姿で元氣なものだ。衣至胛袖至腕……は日本の特色の筈だが、オイ／＼浮つかりして居ると何もかも皆失敬されてしまふぞ。無駄やシャレを省き、薄著だ／＼。畏多い話だが我國高貴のお方で儀式以外には如何に寒くとも手袋をお用ひにならぬ。又如何なる場合でも袴下をお穿きにならぬその薄著主義の御率先にあやかり奉らうではないか。

それから特に先生と生徒の態度の嚴正な事、流石に教育立國の獨逸だけであると感心せざるを得なかつた。之に比較すると我國の學生、生徒は陸海軍を除き全く以てお話にならぬ。學科教授の際今少しく否大に教練化して堂々たる態度に整正の姿勢明快の言語を採るべきである。要するに世界無比なる國體下の師弟たるの實を擧げよと敢て苦言を呈する。その後英・佛・伊諸方の教育振りを見學したが、各國共特色があつて面白い。所が敵國觀念の旺盛な隣國同志の事、他の長を取つて吾が短を補ふといふ雅量は藥にしたくもない。各長所短所を特色にして相對峙して居るといふ状態にある。そこへ行くと、日本は世界一融通がきく。獨の啓發、佛の創意英の自尊、伊の注入各國の長所を採用して、打つて一丸となし、完全無缺な教育法を實行し得られる地位にある。所が物には一長一短が伴ふ。他の長所を採り合せて居る中に、自分の長所を忘却し喪失して仕舞ひはせぬか。精神教育體育に特色のあつた日本の武士教育は、跡を絶つて、知識偏重、學問萬能の状態にありはせぬか。三尺退つて師の影を踏ますなんて言ふと、舊式だ時代錯誤だと考へる位だから間違つて居る。「欣然」滯歐中、日本の新聞を見て、政黨の泥仕合と學校騒動、此二つ位ウンザリさせられた記事は無かつた。精神文化の淵源と誇る日本に、學校騒動の絶ゆる時なく、物質文化の本場たる歐洲に、そんな騒ぎに一度も遭遇しなかつた事は、何たる皮肉ぞ。教育上猛省改善を要する第一と思ふ。

(三) シーメンス工場

伯林の西北一帯は、シーメンス工場で一廓の市街が形づくられてゐる。シーメンスといふ名前は、壯年以上の日本人には〇〇のコツミツション問題といふ以外には響かないか知らないが、世界人には有數の大工場として、著名なものである。規模の宏大、設備の完全など言はずもがな。「欣然」の荒まかい眼に映じた點を擧げてみると

第一出勤退場時の混雑が無い。

是れ丈の大工場にどうした譯かと調べてみれば、至極簡單明瞭、各工場の始業終業時間に、五分か十分の差異が設けられてゐる一事である。發動機工場が午前八時始業なれば、電機工場が八時十分といふ風に夫々の工場に時差がある。で、時間の觀念の正確な獨人職工は、一分の遅速もなく出勤するか、混雑など起る筈が無い。

我國の如く大多數の職工を同時に登降せしめて、其の混雑を防ぐ爲に、様々な方便を講じてゐるといふのは、全く藝の無い話である。街區の整理にしても、工場學校など、各郊外の各部に配置し、官衙商店を市内に置き、其上に時間の調和を適當に保つてゆけば、如何に多數の人が運動しやうとも、

混雑喧噪、修羅の巷を現出しないですむことと思ふ。時と所との規律のみの問題である。

第二、癡兵の優遇

盲目の癡兵には案内犬が侍して居る、手の無きものには脚で仕事させてあるといふ具合に機械の性質、製品の特長など細かに考へて、癡兵の長所、彼等の四肢の健全なる部分を、十分に活用する事の出来るやうに、夫々の仕事が與へてある。各工場に於ける職工の幾割かは、必ず癡兵を使用すべしといふ義務が、法律上課せられて居るから、各工場會社は、夫々算盤取つて損の立たないやうに計畫して、此完全な施設にまで進んだものであるといふ。彼の大戦後に於ける大多數の癡兵も、かうして夫々生活が安定して居るから思想の動搖などいふことは絶対に其の患が無い。

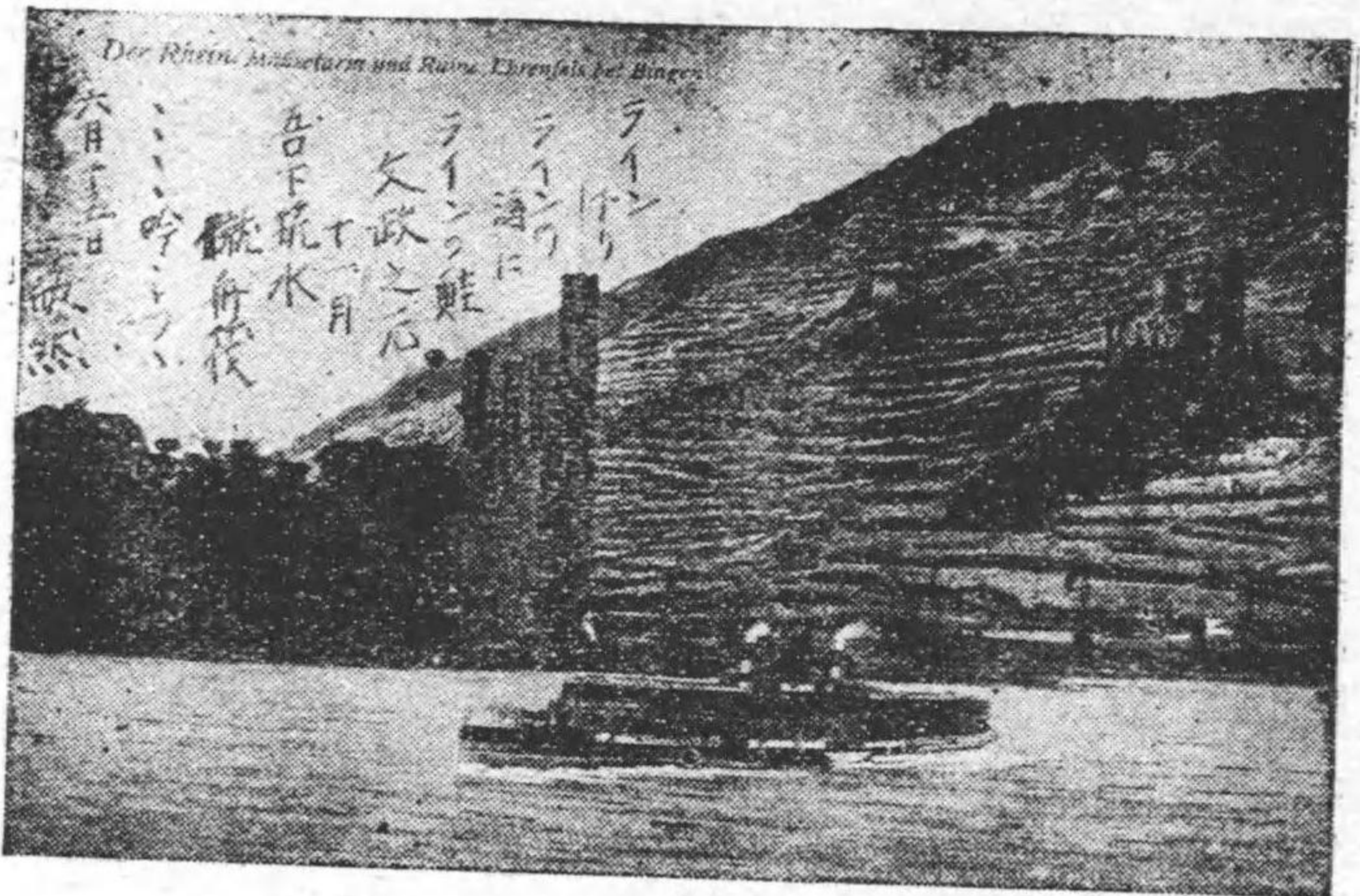
そこで日本の現状は、癡兵が薬の押し賣りをして嫌はれたり、癡兵運動を起して問題になつたりしてゐる。父癡兵の恩給問題から、子が恩給局長を刺し殺そうとしたやうな哀れな事件さへあるではないか。癡兵の優遇といふことは是非考慮否即時斷行すべきである。

其他慈善金の積立、托兒所、娯樂所、住宅貸與、運動場の設備等。何から何まで方法を講じて勞働者を犒ひ慰めることに腐心してゐるのに感じさせられた。日本に於ても漸次其方法が講ぜらるるやうであるが、物質上の事もさる事乍ら傳統的民族の美風を發揮せしめて、忌はしい爭議の問題を根絶さ

せたいものである。

(四) 斬髮無帽

「欣然」がライン下りをやつてハイデルベルヒに宿つた晩、同地有名な大學生本位のバーに狀況視察と出かけた。這入つて見ると、大部分が大學生であるが、中には老の人の自分の娘など同伴したのが混つて、頻りに例のビールを煽つてゐる。亭主が、空席の無い故を以て「欣然」一行を斷らうとすると、學生連は、三人腰掛に四人も五人も詰めに詰めて、我々の席を作つて呉れた。そして一緒になつて痛飲した。其意氣の旺盛なること驚くばかりで、満を引いては論じ、呷つては辯じ、無邪氣で、快活で、不知不識、言語不通の「欣然」まで、完全に其空氣に包まれて、意氣軒昂、好い氣持になつてしまつた。



獨逸

奇抜なのは便所の光景であつた。一列側面縦隊の長い鎖になつて順番の來るのを待つ所、入場切符改めの状態と同じである。そして便所に入つたものは別に用を足すでもなく、指先を咽喉に突込んで飲み過ぎたビールをシャアくと吐き出してゐるのだ。吐き終つた者は元の席に歸つて、盛に飲んで議論を風發させること前の通り。席上でヘタばつたり、コソコソ雲がくれしたりする者は一人もない。同僚の一人が不用意に佛蘭西語を一言語つた時の如き、満場皆を決し肩を揚げ『誰だ敵國語を語る奴は』と、恐ろしい慷慨の權幕。我國維新前の勤王志士の氣概はかくもあつたらうと感慨無量。而して天井や壁に貼つてあるのに、振つて居るもの、數々、それは總て軟弱なものや反國粹的の廣告類を引き外して來てそれを貼付け拷問扱にして居るのは痛快で氣に入つた。彼等學生を牛耳つてゐる一中老が特に我々一行に向つて

日本人が一躍世界の強國となつた所以は、勿論日清日露の戰に勝つたからである。そして其の兩役に勝つた原因は何であるか、主として其の精神氣力に存する。其精神氣力の剛健は斬髮無帽主義に胚胎すると、前々から聞いて居たが、今頃來る日本人は、何故そんなに髮を分けたり帽子を被つたりするか。我々獨逸人は、戰後、日本人の長所を取つて斬髮無帽主義を實行し、以て經濟國難から救はれると同時に、十年の後には必ず仇を討つてやる覺悟で居る。

と卓を叩いて氣焰萬丈。成程、是でよめた。ライン沿岸、即ち國境附近の獨逸人には非常に坊主頭が多い、そして帽子を被らない連中を澤山に見る。——無帽者の多いのには伊太利に於ても驚かされた——流石の「欣然」も此時許りはぎやふんと參つた。實は歐洲に敬意を拂ふつもりで、一寸七、三に分けて居たから、そして慄然として反省した。『日本人專賣の質實剛健の美風は獨逸人に奪はれてしまつた』と。



た。そして昔は禮帽以外は大抵無帽で済ましたものだ。精々手拭頬冠り位が關の山だつた。

日露戰役後、日本の勝因調査に來た獨逸人の或者が、田野に働く農夫の状態を観察して、日本人の

「無帽斬髪」を、戦勝の一大原因として報告した事は、有名すぎる程有名な話であるが、今其實實剛健な良風を、他國に奪られてしまつて、本元の日本では油コテ／＼のピカ／＼頭で野良働きをして居る青年を、多く見かけるやうになつた。禿頭隠す爲か、外交儀禮の爲ならいざしらず、また親の脛嚙つて修練最中の書生が途方もない頭髪や服装に浮身をやつしたり、殊更破帽長髪似而非豪傑を氣取るが如きは以ての外だ。アツサリ所謂坊主刈がよろしい、純真がよろしい、古武士の風格を學べ。

附 記

一 大學生がバーに這入つて、ビールをそんなに飲んでゐては、質實剛健なんて、可笑しいわと、次女淑子の質問。日本人の頭から考へればさうかも知れない。併しビールは日本の御茶と同じ様なもので、獨逸では大人は勿論、婦女子供でも誰でも飲む。氣候風土の關係上、生活必需品となつて居るのであつて、又非常に廉價で甘い。單純に考へないで、其國の風俗習慣等を顧るがよいと答へたことである。

二 「欣然」歸朝後嵐山に遊び、保津川上りの舟引男を見た。斬切頭に向ふ鉢巻、流石に明治維新の名残りがあつて、いゝ氣持だつた。

(五) 傑作、ネクタイ省略の發

四月二十九日天長節、伯林の大使館に於て、御眞影拜賀の式を畢りて後、軍服を背廣に脱ぎ換へて同僚と共に偕行社に向つた。途中乗合自動車の二階で、首の廻りが何となく涼しい感じがしたので、咽喉部へ一寸手を遣つてみたところ、失敗々々カラーにネクタイが嵌つてゐない。幸ひ後首はオーバで包まれ前方は例の長い鬚髯の爲に被はれて、お蔭で誰にも氣付かれない。偕行社へ着いた後

欣「オイ、我輩の服装検査をして呉れ

友「宜しい。別に缺點も無いではないか!

欣「駄目々々、是れを見る

長髯をしごき上げて、仰向いて咽喉部を差し出して見せる。

友「やつたく。傑作々々!

と、同僚は掌を叩いて喜んだ。そこで賣店へ行つて、四十三センチのカラーとネクタイとを注文に及ぶ。あれこれと選擇した上

「サア、嵌めて呉れ

と、長髯をはね上げて、ネクタイ無しの首を商人の前に突き出してやつた。「外國人のネクタイ忘却の赤毛布」と、萬々承知して居ながらも、

「サテ／＼御手まはしの善い事で御座います。」

此傑作赤毛布の後日譚があるから、旅はいよいよ面白ものである。

時 五月二十九日

所 英國陸軍の或る集會所

登場人物 英國の茶目中尉、「欣然」、其他兩國の將校十數名。

英茶目中尉、態々鞠躬如たる態度を装つて「欣然」の前に進み出で

茶「カーネル、貴卿は何故そんなに願鬚を長くお申しになるのですか？ 宣教師ですか？」

欣「これか！ ネクタイを省く爲……………」

茶「ウヘツ！ ハ、ハ、ハ、」

茶目中尉、意表に出られた驚きと可笑しさに、頭をかかへて笑ひ／＼逃げ出した。白狀するが、「欣然」は故國出發前、長男からネクタイの結び方を教はつたが、迂鈍な「欣然」には、なかく／＼覺えられない。西比利亞鐵道の長い／＼十數日間も同乗の馬奈木君が參謀長格で毎度教へてくれたが、どう

もうまく行かない。面倒臭いから、結んだままのネクタイを一寸弛めて頭から外づし、そのままにし
ておいて、いざ必要といふ時、頭から嵌めて首の所で締める。誠に簡単な首輪である、所が習ふより
慣れよで毎日々々必要に迫られてやつてゐる中に見事な腕前になつてしまつた。

「欣然」の傑作、ネクタイ省略所謂ノータイの元祖は日・獨・英・三國に跨つて、著名な赤毛布語
になつてしまつたが、豈夫れ「欣然」一人のみならんや。率先躬行のおえらい方が随分あらせられる
とやら。呵々。

(六) 痰唾と糞の量

西洋人は決して街路に痰唾を吐き捨てない、萬一咳をして痰が出た場合には紙なり手巾なりで之を
受取り「カクシ」に入れる。誠に美しい公德心の表はれを見る。それ許りでなく肺病の人で群集の中
に出る時には必ず口覆を掛けて行く。そうして他人に呼氣のかゝらぬ様に注意をして居る。自分の悪
疫を他に感染せしめまいとする美德である。

そこになると日本人は頗る非衛生的で、痰唾を平氣で街路に吐き散らして居る、全く未開野蠻人と
しか見られない。自分は肺病患者であることを隠そうとして平氣に振舞ひ、却て結核菌を撒き散らし

て歩くの觀がある。我國に肺病患者の多いのは理の當然である。

我國の口覆を使用するものゝ多くは却て呼吸器を弱くする位が關の山である。肺病患者は却て使用しないで勝手に病毒を撒布して居るのは甚だ遺憾である。東京の盛り場新宿附近街路の吐痰検査の結果其七割迄結核菌を含んで居るのに驚かされる。それから文明國民中で日本人程、糞の量の多いものはない。それは主として食物の關係から來て居るものと思ふ。随つて胃腸病者の多いのは世界一である。其原因は素人考へではあるが、習慣的に食事の度數の多いと、其食量の夥しいのと、早飯主義に因るものと思ふ。

そこになると流石に獨逸人は衛生的で且つ合理的な食事を探つて居る。それは實に經濟難を克服する食糧統制のドン底から割出されたのである。殊に毎日の晝食に芋を主食として居る點に感服する。芋は安價で空腹を満たす經濟的の價値もさること乍ら、それよりも尤も效果的なのは、芋が腸を通過するとき、腸の蠕動を起して綺麗にその内壁を掃除し吸收力を旺盛にすることである。論より證據、芋を食つた後では大にガスが頻發する。あれは大掃除の濟んだ知らせのサイレン微妙な音楽である。笑談ではない、眞面目になつて考ふ可き否大に實行すべき重大問題である。芋を蔑視するが如き人は虚榮者か否すんば野蠻人である。

衛生上から日本を見ると實に幼稚である。非文明國民と見らるゝを平氣で居るのは甚だ遺憾だ。由來我國人は清淨を誇りとしたものだ、大に衛生思想を復活普及し國力増進に努むべきである。特に榮養を採らんとするも金なく、入院せんとするも資なく、初期療養の機を失して死に行く肺患除隊兵の哀れさ。肺病と云へば死刑の宣告を受けた様に感ずるものが多い様だが「結核は斯くすれば必ず治る」の京都國嶋病院大阪吉田拓生道場の出現により該患者を至極簡單に救濟しある天恵に接して非常に力強く思ふ。「兵は貧家の負擔なり」てふ日本の現況に鑑み兵役税を徵集し各師團に少くも一ヶ所療養所を建て此等可憐の除隊兵の治療其他の救済に邁進すべきだ。兵役税に就ては兎角の議論もあらうが、國民保健の見地より斷乎實施すべきである。文部省や内務省だつて安閑として居つてはならぬ、協力同心して國民の保健に大に努力せねばならぬ。

要するに獨逸が、その國民の保健に關し如何に努力しつゝあるか、殊に母隊たるべき女子の體育に甚大の注意を拂ふ識見と實行力の旺盛なのに敬意を表すると共に彼の長所を採るに敢て吝であつてはならない。

(七) 日本英領!? アメリカ屬國!?

敬日家飛虎氏(當時名も無き山莊の一壯士)と旅亭の一室に語る。談の半に飛氏が慨然たる面持で

『日本、近頃、英領!? アメリカ屬國!? ありますネ

と言つた。國粹黨の「欣然」いかでか軽々に聞き過すべき。奮然として

『怪しからぬお言葉、聞き棄てにならぬ!』

『それ、ちがひありません

』何を以て

『私の友人、神戸上陸あります。東京行く。停車場皆英語あります。それ、英領證據あります。佛領アフリカ停車場、佛語土語二つあります。英領印度また、英語土語あります。獨立國皆、その國語ばかりあります。日本獨立國! 日本語ばかりよらしい。英語ある、國の權威ありません。』

東京神戸ばかりありません。日本田舎、商店看板、英語あります。日本人、ベースボール氣狂ひあります。ベースボール、亞米利加國技あります。獨逸ベースボールしません。日本國技、無いありません。劍道柔道、勇ましい、武士道有ります。それ棄てる、ベースボール氣狂ひあります。』

亞米利加屬國證據あります。まだあります……………」

『もう宜しい、貴方の國粹精神は、十分にわかりました。』

「欣然」は、飛氏の言ふ所を枉げて、話を他へ轉ぜしめざるを得なかつた。領屬呼はり餘りひどいとして、飛氏が「欣然」の主張と寸分違はぬ見解を下して居るのに一驚を喫した。先づ國語問題に付いて見るに、英語が日常國語の領分を犯して來た事に、心付かない者は無からう。否近來國語の振假名に外國語を用ゆるの甚しきに概嘆せぬものはどうかして居る。お父さまお母さままで情味のある所をババーだママードと西洋がる奥さん方。餘りにも心ない國語の破壊者といはねばならぬ。英國産の犬にジョンとかエスとか英名をつけるのは、一理あるとして、銀座の酒場の日本女にメリーやチエリと呼ぶ必要が何處にあるか。

就中野球の放送と來ては丸で御話にならない。直接行動が起らないのが不思議な位だ。咄國語の破壊者共よ。國旗の權威は國家の權威であると同様に、國語の權威は國民の權威である。我れ自ら進んで、其權威を輕んじつつあることにお氣が付かれんのか。外國語の亂用は、官民共に大に注意なくてはならぬ。運動用のシャツや帽子の徽章に情味のないローマ字を使ふより、優美にして弾力性ある日本字を使つたらどうか。

最も甚しいのは、我が紀元を忘れて、徒に西曆を亂用することである。對外的には、三十四年の必要もあらう。浴衣の柄や鬘の型に、三十四年式も無からうではないか。それから尺貫法の事であるが

メートル法を併用する位はまだしも其他の事を改めるとは以ての外だ。神罰を蒙らぬのが不思議だ。田畑の面積を直すのにどの位手間がかゝるか、そんな事して居るから、事務許り殖えて能率が擧らないのだ、世界が統一されぬ以上、各國特異の尺貫法で結構ぢやないか。

又日本をニッポンと唱へようが、又大和島根と呼ばうがそれは良いとして、ジャパンと命名することは絶対に廢止せねばならぬ。理屈は抜いて早く外國に通牒を出すべしだ。銀ブラなどやつて、あの歐化の有様を見せつけられると、蘇峰先生ではないが東京はイヤになる。帝都がイヤになるといふやうな、勿體ない言葉を吐くのは、吐く者の罪か。吐かせるものゝ罪か。飛氏に見せたら如何なる毒舌否苦樂を振舞ふ事か。

日本人の包容力同化力の偉大なることは、素より歴史の證明する所ではあるが、現時餘り歐化否米化が過ぎて居るから其の對策亦大に簡易化し日本復活にすることに努めねばならぬ。否されれば日本人の知識は漸次淺薄となる許りだ。現に昭和十年度徴兵検査の成績が之を證明して居るが、あまりお恥しいので公表出来ぬを遺憾とする。否知識よりも日本の神性を汚すそれが一番重大である。

而して一般外人に對しては飽くまで武士的襟度を以て彼等を愛撫し、優遇し、皇恩に浴せしむべきである。外語の亂用と外人の優遇とは別だ。要するに外語を使はなければ、知識階級でないといふ様



獨逸議會前のビスマルク銅像と



其前に立ちて戰捷記念碑
平和の女神を眺めて居る欣然

(桑名少佐寫之)

な、虚榮心をカナグリ捨てる事だ。虚榮心位其の身を亡ぼし、其の國の威嚴を損おとずるものはない。早く國本に還れ、國粹を發揮せよ。

(八) 總 括

獨逸の特色は何と言つても教育立國機械工業健康第一主義で、殊に萬事が組織的で國民一般克く規律的に訓練されてゐる事である。あの帝政謳歌の國體が一朝にして崩壊し、共和政體に變じたるも、そこに些かも流血の慘事を惹起せず、大戦敗北の結果、東を千切られ西を千切られ、面積に於て四分の一を減じたるも、堂々世界一を誇つた陸軍が僅々十萬の餘喘を保つのみであるも、幾百年経つても償還の見込なき程の多額の償金を子々孫々に課せられて居るにも拘らず、敢て屁古垂れる事なく、自暴自棄な態度は藥にしたくも無い、底力の有り餘る國である。質實剛健を目標として國民一致協力した奮闘努力振り、感嘆に堪へない次第である。衛生省の活動によつて、先づ世界無比の體力を作る方針、文部省の奮勵によつて、精神力の作興を計り次代々代の國民に俟つて、其國力を恢復せんとしてゐる。彼のツエツペリン飛行船を成功させたが如く、獨逸魂は二代も三代も根よく一事に向つて續ける所の粘り強い所にある。教育産業の發達、社會施設の完全せる點など、摺み所の多い國であるか

ら、仔細に觀察がしたかつたが、軍事監督委員の手前、肝腎の軍隊見學さへ思ふに委せず、僅かに普通の學校會社等の一部參觀にしか過ぎなかつた事は、返す／＼遺憾であつた。唯復興獨逸の意氣の旺盛なる事、勤勉力行の花々しい事などは、胸のすく位氣持よく感じられた。特に青年の意氣及び態度の嚴正なること、民間航空の盛大なこと、日本の柔道を國技化して、アメリカ傳來野球等の運動競技に絶對手を付けないこと等が痛快に心を惹いた。獨人の中には、日獨戦争を非武士道的だといふものあれど、日本の神聖なる立場に於て、獨逸國の千切られたる頭首を、其胴體に繼ぎ合はす事に公正なる日本の裁決を仰ぐといふのが、彼等の本音か外交か。千切られたる人體の中でも、東普ダンチヒは特に重要視されて居て、今日中歐の危機は獨佛方面よりも、ソ波方面に於て濃厚なる感がある。ドイツもコイツも構ふものかと、恐らく獨逸人は覺悟の臍を固めてゐるらしい。近來獨逸が外交界に活躍して居る事實の歴然たるものあるは大に注目し値する。獨逸人特有の組織的で遠大なる所、殊に現下の國情に鑑み、茲十數年自ら先頭に立ちて戦ふの愚は敢てせざるも、遠交近攻以て自國を泰山の安きに置きつゝ、再び歐洲の覇を握らんとする雄心鬱勃たるものあるは、察するに難くない。

唯惜しむらくは、對外關係もさることながら獨逸帝政を捨て皇帝を顧みない國民の心裡は、噫！獨逸人には國を賭しても皇帝を擁護する精神はなかつたのか。日本人たる「欣然」にはそれが不思議

でならないが、他の列國の皇帝といふ者は日本の 天皇陛下とは似てもつかぬものであるといふ事に
想到し始めて釋然として其の心境を悟つた次第である。

兎に角政略には負けても戦争には勝つてゐると豪語する所に彼等の眞骨頂はあるのである。好漢自
愛せよと言ひたくなるのは、豈夫れ「欣然」のみならんやである。

六、佛 蘭 西

(一) 軍隊見學

い、開 放 的

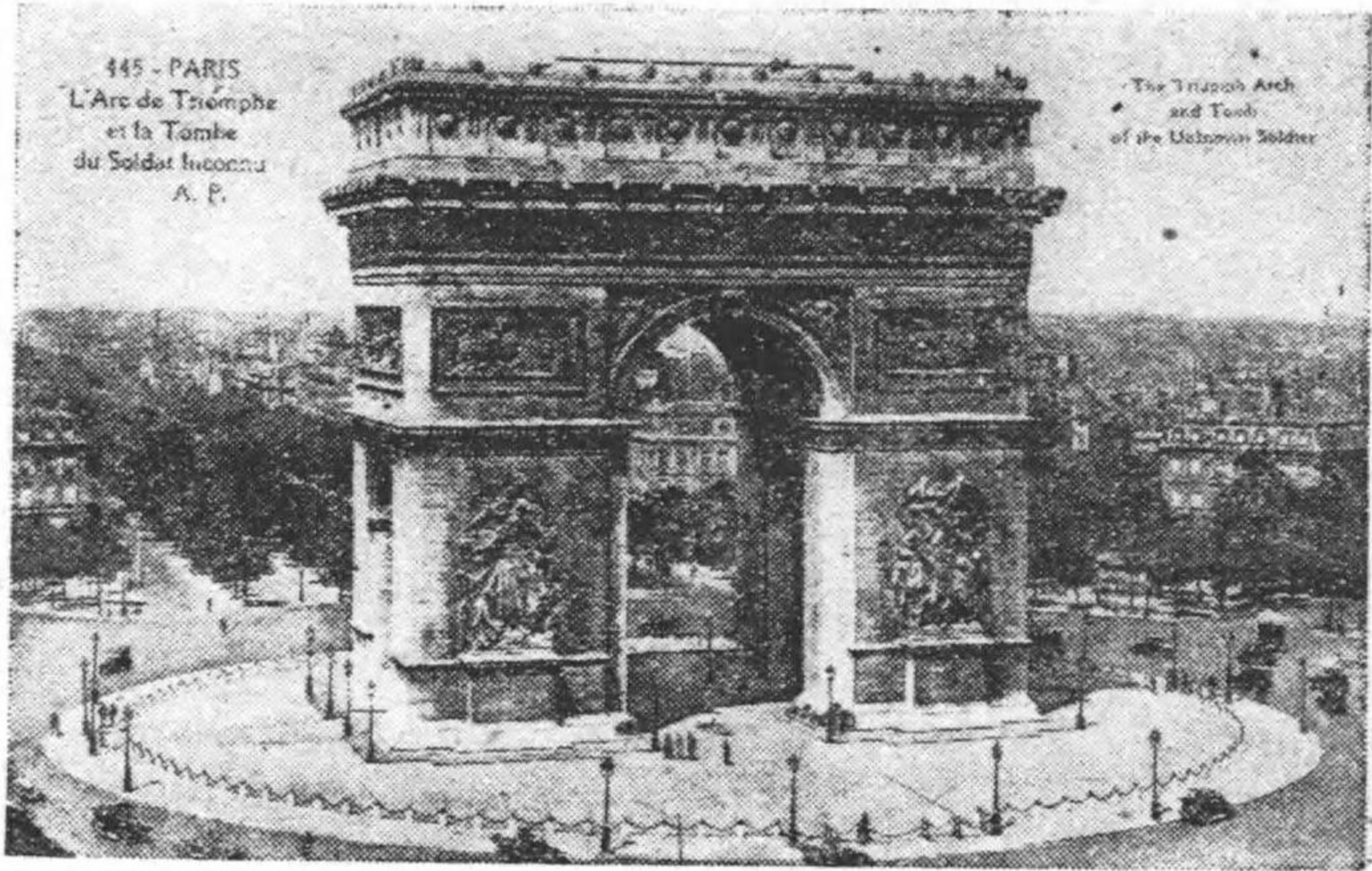
五月十日、巴里に在る歩兵第五聯隊を參觀した。是が歐洲旅行中最初の軍隊見學である。夫れだけ
印象の深い譯であるが、忘れられない快感は、聯隊長以下皆が開放的で懇切である事だ。一般に佛國
人は快活であるが、軍人は一入である。一見十年の知己の如しだ。實に感じがよい。特に日本軍人を
優遇することは争はれぬ事實である。外人觀光團が年々佛國に落してゆく額が五億法フランに上ると聞く。
さもありませんだ。成程門戸開放は觀光客誘引の妙諦!

ろ、思ひきや

營内に於ける小隊教練は戰時の編成裝備を見ている中
先づ眼に付いたのは其軍装の輕快なる事である。背囊は
ない。外套に器具等を附し、防毒面を胸に垂れ、背負袋
を肩から掛けてゐる許りだ。輕々しい質問は慎まねばな
らないが、「欣然」使命の一つに、戰時の軍装といふ一
ヶ條があるから、逸する譯にはいかない。質問の一矢を
放つて見ると、豈計らんやだ。

おゝ！ コロネルこの軍装こそは、日露戦争當時のお
國の軍装を眞似たのであります。

との答、思ひ起す。日露戦争當時、かく申す「欣然」の
部下は、背囊を開進地に残し置いて、外套に兵器・飯盒
背負袋に彈藥・糧食のみを身につけて進軍したことを。
あゝ佛國では、それを最新式の軍装として採用してゐる



佛 蘭 西 (凱 旋 門)

のである。先覺者たる誇りを感じる前に、先づ啞然たらざるを得ない次第である。

戦闘の教練をするに、平時と戦時との二様あるべき筈がない。習ふより慣れよ、平時が常に戦時で無ければならぬ。由來我が軍隊には形式倒れの弊が多い。背囊の如きも實用よりは形式に重點が置かれてゐる。背囊が射撃の命中率に關係する事は、誰もが認めてゐる事である。のみならず負擔量の輕重は歩兵各人の運動能力に關係し、延いては軍の機動能力に重大なる關係を及ぼす。加之、防毒面、手榴彈、鐵兜等、現時の歩兵携帯品は、非常に複雑多岐になつて來てゐる。それにも係らず、あの形式本位たる背囊が其の儘襲用さるゝといふのは何うか。負擔量を輕減する上に於て第一に考へねばならぬ問題と思ふ。要すれば歩兵の銃も劍も、もつと短かくしても構はない。あまり短くして



は刺突に不利だなどいらぬ御心配、劍が短くば一步を進めて長くすれば足る話ではないか。歩兵の運動は鈍重ではいけない。飽く迄神速機敏を要する。それには負擔量の輕減が先決問題だ。敢て改良問題を絶叫する。

附 記 佛軍行軍の折は背囊を負ふが戦闘のためには背負袋に代へる。而して背囊は自動車で運ぶのである。

は、得手不得手

軍隊は割合に敏活である。併し輕装の割合に未だ十分といへぬ。日本歩兵にあの軍装でやらせたらより以上に運動能力を發揮し得ると確信する。神速が理想だ。射撃は確かに巧妙だ。殊に防毒面を裝用しての射撃は手に入つたものだ。而して機關銃との協調がよく出來てゐる。併し火器の威力を過重視する感がある。此の所一利一害だ。之に反して、銃劍突撃と來ては丸で成つて居ない。構備の姿勢と來ては全然權兵衛の種蒔式で、命を捨て、敵を刺殺するといふ意氣、眞劍味といふものは、藥にしかくも無い。敵陣に突入することは、我砲彈の彈幕を追うて百米突三分の速度で、鼻唄歌ひながら行く位の思想だから、比較にならない。或者は時に小銃を腰だめ式で發射して前進する、所謂火力の併用である。所が日本人の思想は根本的に異ふ。理も非もない無我夢中で押し切るのである。二兎を逐

ふ者は一兎を得ず、身を棄ててこそ浮ぶ瀬もあれだ。此の邊の妙諦は萬事を理論で解決しやうといふ思想ではわかる筈が無い。その呼吸を知らないで、ドンと一發、次でブツスリ突くなんて、毛唐の眞似を仕様ものなら、それこそ大變。ドンドン計りで、乾坤一擲のブツスリ白兵戦は起らない事を斷言する。「欣然」は其後各國軍隊の歩兵突撃を見て、心密かに、あゝ！ 之ある哉々々と、茲に必勝の確信を持し會心の笑を漏らした。以信傳心、夢な忘れそ。國軍獨得の戦法、必勝の突撃を。

日 本 の 誇 (轉載)

バチエラー、オプ、クイロソフイー
マスター、オプ、アーツ

笠 井 重 治

私は海外遊歴の際、機會さへあれば諸名士に會見して、その意見を求めた。丁度、世界大戰の直後私が巴里を訪れた時、「老虎」と綽名のある「クレマンソー」翁に會つた。

「日本が世界に向つて誇り得るものがあるとしたら、それは何でせうか」
早速私は翁に對して斯う質問して見た。

「さうだ」

「クレマンソー」翁は、鋭い眼をかゞやかせて私の顔をじつと見つめてゐた。

「日本の歩兵だ。これは世界第一だ」と翁は矢つぎ早に云つた。

「併し、御承知のやうに日本人の體格は歐米人に比較して矮少です。日本の歩兵の身長も五尺二、三寸です。それが世界一といふのは、少し受取れませんが………?」

「否」と翁は力強く否定した。

「體格じやない、精神だ。あの勇敢な氣魄だ。大敵の眞只中に銃劍を閃かして突撃する火のやうな熾なる意氣肉弾だ。わしは、そこに日本人の傳統的な民族精神の現れを見るのだ」と鐵槌で堅釘を叩くやうな聲で翁は喝破した。(下略)

に、トランク持てる青年

フランス聯隊に於ける入營狀況を見學す。見渡せばと言ふと馬鹿に廣さうな感があるが、事實あまり廣く無い營庭に、之は如何？ 一旆の旗無く、一人の見送人無く、將又ざわめき立つる送別者の群集も見當らず、日本の聯隊に於ける入營日の有様を見馴れて居る「欣然」にとつては、是は正に珍景。奇なる事もあればあるもの哉と考へざるを得ない。すると、營門より、ぼつりぼつりトランクを片手に提げて、足早に歩いて來る頼もしさうな青年等を見受ける。是果して壯丁か？ 然しそれにしてはあまりに無雜作過ぎる。あまりに簡單であり過ぎる。如何とも了解し難き事實に逢着して、「欣然」

佛國將校に問うて曰く

「本日入營日ならずや。然るに壯丁のぼつりぼつりと來るは何故ぞ」

佛將校答へて曰く

「然り入營日なり。佛國にては入營日は三日間にして、某は何月何日午前、某は何日午後、入營すべし。との如く命令書を發しあれば、壯丁はこれに従ひて出頭入營するものなり」と。

ぬかつたわい「欣然」佛國の如く、腹背に強敵を受くる國家にあつては、青少年の國家的義務觀念の發達は驚く可きものがある。入營の如きは當然の國民義務として殊更に重大視せず、平常旅行するが如き態度で、トランクを提げ、晴々として營門より入つて來る有様、眼の當りに見て「欣然」佛國未だ衰へずの感を深うしたのである。

日本の如き國家状態にあつて、一線接壤敵國の環境にある佛國の如き入營方法を眞似せよと言よものあらば、それは大なる間違である。我國の如き國情に於ては寧ろ大に激勵發奮さすべきである。但し身分に應じ質素を旨とし決して虚榮に流れざるを要す。宜なる哉、入退營時に於ける我國の歡送歡迎の盛大なる、實に世界の偉觀である。而して其効果は本人が感激の極、積極的には犠牲的精神の發露となり、消極的には不正、墮落行爲の豫防となり、以て完全にその責務を果たし得るのである。麗

はしき人情美なる哉。最近東京驛頭に於ける入營壯丁見送の盛況を無電王、マルコニー侯はどう觀たか流石に侯は最も渴仰せし日本の眞實性を把握したと述べて居るではないか。

(二) 紙屑拾ふ馬車と自動車

「欣然」が或朝早く日曜日の青年訓練を見にゆく爲に、巴里はツロカデロの近傍ベニユース牡丹屋の前に佇んで居ると、一人の婦人が馬車を操縦しつゝやつて來たのを見た。それは各家の戸口々々に置いてある埃ちりのための中から、或種の廢物利用品を拾ひ集めて居るのであつた。其の馬車の馬が非常によく訓練されてゐて、一聲の口笛で以て塵箱の前に立止まる。婦人は箱をさばいて其中から屑紙や布類のやうな物を取出し、車上の一つの箱へ入れる。それから殘麵めん麩殘菜ざんさいのやうな食品は、も一つの箱へ納める。其作業が済むと、又一聲の口笛で馬は動き出して、向ひの家の戸口へ歩み、其所の塵箱の前にびたりと止まる。婦人の作業は前の如くで、次々と廢物が納められてゆくのである。是れは私物の塵ため掃除婦であつて、其收得品は一方は問屋の手に渡つて、或物は製絲材料となり、或は晒し綿となり、一方は直接需用家の手に廻されて、或者は洗淨されて菓子菓子の原料となり、或者は家畜の飼料となる。日の出前僅か一時間程の作業で立派に生活の立てられる程の收得があるといふから大したも

のだ。其掃除婦が一巡した後、市役所の掃除夫が自動車を驅つて来て、塵箱の全部を打ちあげ、車内に於て復た利用し得られる物と得られない物とに選りわけ、焼却場へ送られる汚物は結局ほんの一部だけが残る事になる。そして此塵箱の整理は、必ず毎朝暗い中、人の外出しない中に運ばれて、塵箱は家人が起き出ると門の中へ取り込んでしまふ。そして夜分寝る前に戸口へ出しておくのであるから、穢い物に蓋をしなくとも、公衆の目に觸れる事は全然ないわけで、是を日本の塵箱の汚物が数日間天日に晒されて異臭を放ち、蠅類の群集場となつて居るのと比較すると、實に雲泥の差で衛生上から見ても、廢物利用の利益から見ても羨しい程の整理振である。日本では塵箱あさりをするのは、乞食か野良犬の所業として賤しめて居るけれど、巴里の様に一の職業となつて居れば何等の耻づる事もないわけ、之を實行したら幾萬人の失業者が救はれる次第と思ふ。「欣然」歸朝の途次、宇野停車場で汽車中の辨當殻が車に積まれて運ばれて行くのを見て、驛長さんに其處置法を問うた事がある。其答はあれはあのまゝ焼却場へ運ばれて焼き棄てられるのだといふ簡單なものであつた。それで其汽車辨の残飯が、驚く勿れ一年の統計千石といふのだ。經濟國難を歌はれて居る日本だ。廢物利用の一點に眼を開いて甘く處分して行つたら此外幾多の收得があるか解らぬ。電燈の國家經濟、燐寸の燃えさしの節約等は多くの先輩によつて叫ばれて居る話柄であるが、「欣然」は一頭地を抜いて、塵埃物利用

法の一面こそ、外人に學ばねばならぬ緊急問題である事を絶叫する。

唯一つ「欣然」の目撃した處で、千葉附近の農民が塵埃堆肥を撰り分けるには感心した。又昭和六年の春、沼津驛で聞く處によれば、塵埃物利用法を講じて居るとの事、誠に結構千萬、併し尙徹底を缺く感があるから一層積極的に改善勵行を望む。

(三) 盆 踊 り (和服の大持て)

七月十三、四、五日はフランス革命祭だ。丁度我國のお盆と一致して居るのも不思議である。巴里は勿論どんな田舎でも夜中踊つて踊つて踊り抜くと云ふ大さきわざ。そうして此の三日間は無禮講だ。男の方から手を差し延べて、婦人に握手を求め様と接吻を要求し様と敢て差支へない。眞に此世の極樂世界? 「欣然」此夜の扮装は純日本式、サツマ上布に紹の紋付、仙臺平の袴、白足袋に草履とくれば、満點か知らぬが足袋と草履は間に合はないため、白の運動靴がその代用品ときて居るから振つて居る呵々、そんなところは啞だ盲目だ構ふものか。

馬子にも衣裳と言ふ諺の通り、ブスの「欣然」だつて右の様なのを一着に及ぶとエヘン禮服だ。しかも外人は皆洋服即ち「欣然」の所謂仕事着だ。日本の絹物は斷然高尚な光を放つて居るぞ、群雞の

一鶴だ、堂々たる偉丈夫なんて羨威張りに威張るなど仰しやるかも知れないが、外國に在る間は神國日本人だとの氣位丈は常に世界一の優越感を持つて居ることが必要である。歸朝後、豊橋の西村で撮った寫眞が雄辯に之を物語つて居るエヘンだ。和服は愛妻が月賦でも作つたのか相當なものだ。小包で以て印度洋を経て來て居るから體が生へて居るかも知れない。そこは仕着方の「深津玉一郎」君、用意周到、日に乾したり刷毛をかけたたり、おまけに要所々々はコテイの香水馥郁たり矣。馬鹿にハイカラな御殿様が出來上つたものだ。

正子ノ刻はまだ宵の中、巴里の歡樂境、自動車から降りると、あちらからもこちらからも、握手の嵐接吻の雨、流石の「欣然」も之には驚いた。素面では歩けない。そこで或る食堂に入ると、之は又あちらでもこちらでもバンジヤイ／＼の連發。そうして是非自分達と食卓を共にして呉れ、國際聯盟常任理事國の紳士、日本服のサムライを御迎へに來ましたと、それは／＼大變な持て方である。そこでドーセ行くなら同じくは品の良いシヤンの居る所がよいと、二三家族連れの紳士淑女の席に招ぜられて腰掛けると、豈計らんやハンガリーの貴族だ。成吉斯汗否義經の血の通つて居る、謂はゞ同胞に近い民族だ。勢ひシヤンパンをおごらざるを得んやだ。話がだん／＼進むと、面白いではないか、ハンガリー國王として我が國の宮殿下をお婿養子にしたい。長多いが朝香宮殿下か東久邇宮殿下御年輩

の御方が欲しい。そして我國の御稜威をかりて國力を回復したいといふのだ。實に熱烈なものだ。ちやんとこちらの身元調査まですんでゐる。それから「欣然」が少しく劍道の心得あることを誰かに聞いたものと見え、年俸二萬圓國賓を以て遇するから、劍道師範に來て呉れと、眞面目に出られては、「欣然」も些かてれざるを得ない。去年の聯盟離脱騒ぎの時も匈牙利だけは隠然よく盡してゐたではないか。斯く我國を理解し、我國に縋りつつある弱國の存在を其のまま冷眼視してよい者だらうか。否々一肌抜いで弱きを助け強きを挫くのが吾々義俠國民の本領ではあるまいか。

兎に角和服の持て方それは實に非常なものであつた。又此和服が歸途暑い船中で役に立つた事は夥しい、殊に最上の禮服として食卓で花を咲せたものだ。實用的にも誠に涼しいものであつた。洋行して持てたい否日本人で通したいと思ふお方は、是非一通りの和服を持参すべしだ。

和服は實に日本精神の現はれである。勤勞以外の場合には成るべく和服を著けて明るく清く寛くろくに限る。和服は家族制度を象徴してゐる。二本の脚が仲よく、合さつて一緒に這入つてゐる。洋服は個人主義だ。一本々々孤立してゐる。和服に遠ざかることは、家族制度に遠ざかることだ。そこで年頃の娘さんは勿論學校通ひの少女達には、お正月其他の吉日には優美でなくとも袖の附いた着物を着せて神様やお寺詣りに行かせたいものだ。簡易化も物によりけりで、二重生活は必要だ。國粹保存の上か

ら大に和服を禮讚するのである。

(四) 客 死

あゝ客死、筆を取らんとして先立つものは涙である。而して先づ想起すのは、先年巴里郊外で、薨去遊ばされた、故北白川宮成久王殿下の御事である。噫！ それに又柳島、木村兩大佐の巴里に於ける臨終程、哀にも悲しき思出は外に無い。

一行中の團長格たる柳島大佐は、佛國シャロン演習場に於ける砲兵の實彈射擊見學の折、不圖したことで、頸部に小さい傷をされたのが因で、急に發熱、アンテルホテルの二階で就尊の身となられた。生憎渡英の豫定期日に迫られてゐた一行は、憂慮の雲に包まれながら、若干の看護者を残して出發した。英國に於ける見學も略終り、六月三日天長節の觀兵式陪觀もすんで、客舎に歸つた時、柳島大佐の病急に革まるの悲報に接し、新なる悲痛に包まれ乍ら、一同は愴惶として巴里に歸つた。

是より先、大佐は、在佛武官の奔走に依り、カトリック病院に入院、名醫の手術同僚の看護、完全なる設備の下に療養して居られたので、治療上遺憾の點は無いのであつたが、天命如何ともしがたく一行が歸つた翌日、海山萬里の旅の空で、怨を呑んで不歸の客となつてしまつた。國情の差異はいか

にともしがたく、一二の戰友を通譯として附添はしむる以外、規定時間外の面會は一切許されず、臨終の期至るも、一行は空しく愁悶涙を呑むのみ、末期の水さへ捧ぐることの出来なかつたことは、遺憾の上の遺憾であつた。

天は何故あつて一行にかく迄悲痛を味はせるのか。相次で木村大佐が病死された。一寸した扁桃腺炎に冒されたのが原因であつたが、丁度其時は三好軍醫が伯林から來て居たから、手當萬端懇切の限りを盡し、解熱も腫れの萎みも順調に進んで、一同安堵の胸を撫で下したのも束の間。突然壞疽菌に襲はれて病勢激變、入院治療の餘裕もなく、溘然として他界された。宿舎を隔つる「欣然」などは、駈けつけた所が臨終の間にも合はず、茫然自失悲歎の涙に暮るゝばかりであつた。如何に國情は異るとは言へ、出來得る限りは親身の情を盡さうと、率先清拭の役をつとめ、人手を觸れしめず、入棺の式まで日本流に氣のすむ程度に務めたのであつた。

頑健を以て誇りとする陸軍の武官が、一週日を隔てず、二つの棺を火葬場に送らねばならぬ運命を荷つた事に對し、在留日本人は素より、實際に之を見聞した外人達の同情慰弔、誠に深厚を極め、兩大佐も亦以て瞑す可きの佳話も尠くはなかつた。此際外人に驚異を與へた事は、日本人の友情發露の狀態であつた。彼等は、病氣入院の際は、醫者と看護婦とに任せて安心してゐる有様であるのに、日

本人は、夜の目も合せず付き添つて、病勢に對して一喜一憂する。入院しない程の患者にも、氷を割り熱を計る等、看護婦のやるべき程のことは皆同僚の手でやつて、眞情の限りを盡す。日本に於ては何でもない尋常茶飯事が、彼等の目には感歎の極みであつて、日本軍の強いのは、あの友情の深厚なのに基因するとまで歸納したといふ話であつた。

何は兎もあれ、幾多の希望と抱負とを抱いて、遙々渡歐した甲斐もなく、見學未だ半ならず。空しく異國で客死した兩大佐の心中を想ひやる時、無量の感慨に堪へないものがある。ましてや此二英才を失つた國軍の損失、遺族の悲愁等、彼を思ひ此を想へば、生殘者としての「欣然」今更新なる涙に咽ばざるを得ないのである。

遺骨を護つて歸國された「伊田」大佐、「田北」中佐の遭遇された幾多の悲歎なる情景、就中歸朝第一歩其遺族に直面さるゝ、兩官のつらさ切なさ、偏に御察すると同時に、其辛苦に對し厚く御禮を申上げる次第である。

右に付いて一つ遺憾に思ふ事は、大使館内に納骨堂の無いといふ事である。大使館の一室を借りて一同が御通夜を勤め、武官事務所へ御届けするまでの間、あたりに氣をかねて、秘密に事を行つてゐるやうな感じは、佛ほとけの爲めいかにも相すまぬやうであつた。國情の異同は兎に角、何とかならぬもの

か。戰時兵站司令部に於ける納骨堂の選定の如き程度でないまでも、其筋の御一考を望んで止まぬのである。

終りに臨んで、故山に安眠せらるゝ兩大佐の英靈に告げる。「欣然」は御蔭を以て、滯歐半年間、一貫目以上の體量を増して、恙なく歸朝しました。兩大佐の抱負は無き迄も、旅行の徒然に兩官より承つた識見は、今尙耳底に新である。不肖なれども頑健は日に勝る。冀くば三人分の努力を以て、軍事界に貢獻し以て昔日の知遇に酬いんことを。

手を取りて軍いくさの道に盡さんとかひしこともゆめとなりけり

附記 兩官の葬儀に際し途中靈柩車に對する外人の敬禮の正しきには感服の外はない。我國一般國民も是丈けは是非陸軍禮式の通り死者に對する敬禮を嚴守し禮儀の國日本國民性の特色を發揮したいものである。

(五) 交通整理

交通整理は國民性の反映である。柏林市街の交通整理を見ると、それが電氣装置の信號に依つて行はれ、秩序整然、一絲亂れずである。大概な十字街に、巡查も居らなければ、目障りな立札も無い。

人間は勿論自動車など、停止線にかゝるとびたりと止る。進めの信號を得て秩序正しく進む。全く器械的で、如何に獨逸國民が規律正しき國民であるかを、如實に指示してゐる。之に反して巴里の交通整理は、恐ろしく放任的である。整理機關の設けられてゐるのは、數ふる程しか無い。自動車の運轉手は交通狀況を觀察して、巧みに速力を加減し、何等他から撃肘せらるる所なく、自己の判断と創意とによつて見事に整理して行く。他から見ると非常に亂雜なものであつて、何等の規律も認められない。全く獨逸と正反對である。嘗て不秩序を詰り問ふたに對して、佛人は怫然と色を作し、釋明して曰く。

獨逸人は元來が愚鈍だから、何かの指揮命令が無くては、自ら動くことが出来ぬのだ。交通の如きもあの式で、止まれ進めと命令しなくては、殆ど交通が出来かねるのだ。吾々佛蘭西人は機敏であるから、決して他の干渉を受けずとも、自ら判断し自ら決行して、何等誤る所が無いのである。交通整理は整理の爲の整理でなくして、事故無からしむる爲の整理だ。生きた人間が、機械の様な動かし方をされてたまるか。戦争に就いても其通りだ。獨軍は指揮官が指揮を執つて居る間は強いが、一朝指揮官が斃れたとなると、忽ち土崩瓦解の状態で、一たまりも無く負けてしまふ。吾が佛人は、平時から指揮命令を俟たなくも、各自が自由の境地にあつて、判断創意で事

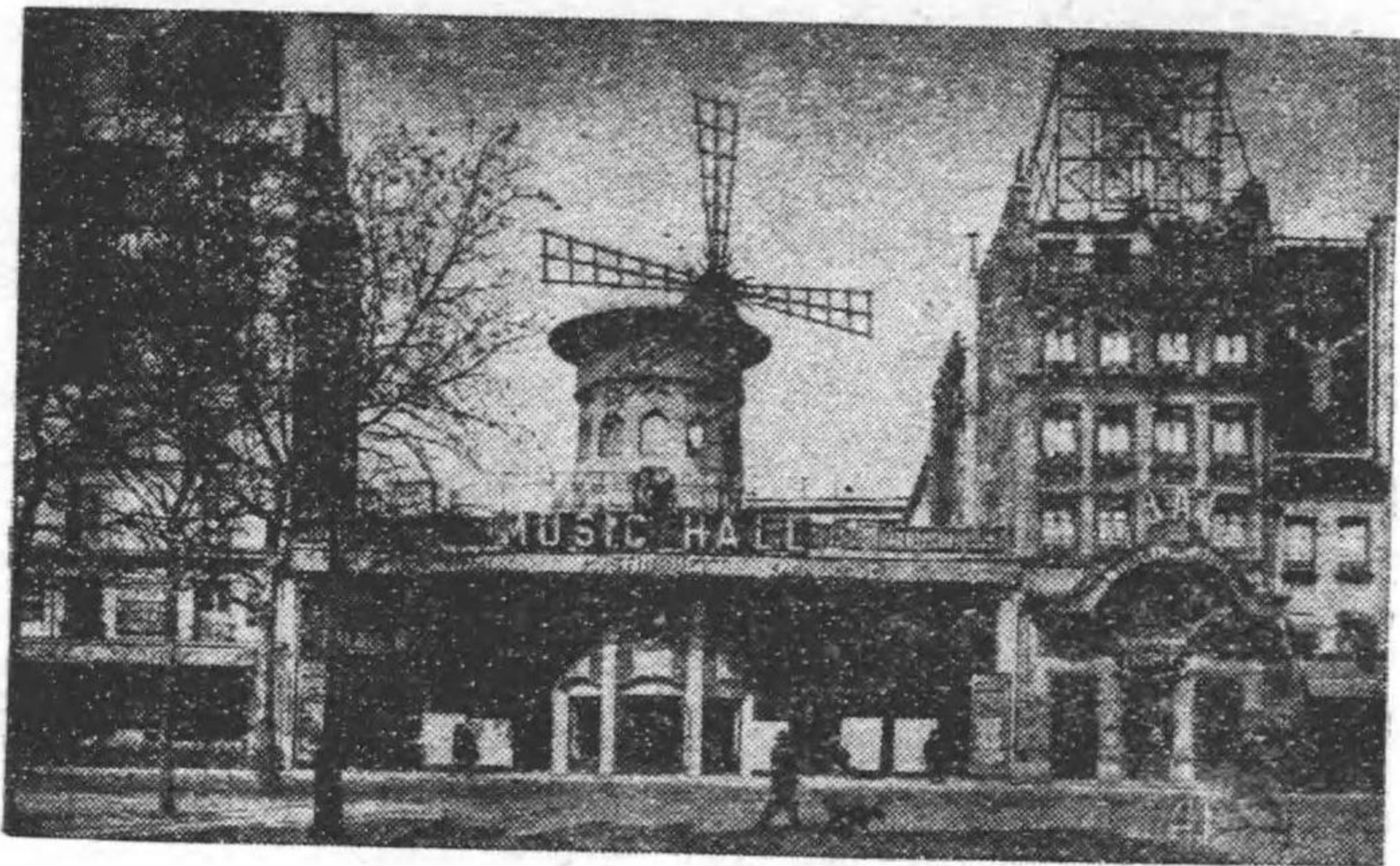
を行つて行くから、戦場で指揮官を失つたからとて、獨軍の如く壞亂することが無い。如何で御座る。

いかで御座るは「欣然」の添へ物だが、兎に角、佛國の國民性は、此釋明の通りで、獨逸と全く正反對の位置にある。所で、日本の現下の交通整理は何うだ。あの交通巡查の眞剣さ、忙しさ、丸で戦場の様だ。眞に涙が出る様だ。併し又一面から考へて餘り干渉し過ぎ威張りすぎる整理の方法は、歐洲各國の何所にも見當らぬ。ピリ／＼呼子を鳴らすかと思れば、進め止まれ其上大きな手を急速度に振りまはす。イヤ骨の折れた御苦勞さまな事である。今少しく冷靜に輕妙にやれぬものだらうか。あの狂氣じみた大げさな動作に釣られて、田舎者などは氣おくれしたり走つたりして、却つて事故發生の因となることが多い。交通者に油斷と無理とをさせねば、事故は簡単に防遏が出来る。横斷歩道の標語は、「沈着^{おちつ}け走るな」の六字を特別一等賞とすべしだ。我國の現行交通整理は全く獨逸式だが、欣然は寧ろ兩者を折衷しそれに日本の創意を加へたい。即ち歩行者を主として整理すべきである。

尙重要な問題は我國都市の路面電車を廢して地下鐵とすべき事である。蓋し市民の安寧と健康殊に防空対策上極めて緊要であるからである。獨逸飛行機の空襲に對して、倫敦巴里の地下鐵が如何に役立つたかは餘りにも有名な話である。今一つ目ざはり耳ざはりな事は、交通整理の點燈における G。

Stop 運轉手車掌の稱へるオーライ・ストップである。何所の國へ行つたつて、他國語で交通整理をやつとる所があるか、人命を預つて居る交通業者が外語を使つて居る間は事故は益々増へる計りで決して減ることはない、統計が示して居るではないか、速に省令を以て取締る必要がある。

現にそんな事に禍されて起つたのが、大阪天六の進、止事件だ。一體あの様は何んだ。一兵士と巡査との交通事故に警察部長と參謀長とが聲明書などを出して喧嘩するが如きは沙汰の限りだ。抑々軍隊教育の責任者は中隊長ではないか、宜しく中隊長と署長と膝突き合はして、赤心を吐露し、雅量を以て面接すれば問題は至極簡単に片付くのである。尤もあんな風に大袈裟になつたのは特種競争の新聞記者におだてられた関係もあらう。何れにしてもこれらの事で軍部と警察側に多少たりとも意志の疎通を缺いたり或は反目する様な傾向があつてはならぬ。一方は國を護り他方は民を護る、共に治安維持文武一途の仲ぢやないか。お互太腹で行け。先頃名古屋で、市營乗合自動車に乗つた時、凛々しい服装をした少年車掌が、「ヨロシイ」「ススメ」「トマレ」と明晰に相圖を稱へて居たのを聞いて、涙の出る程嬉しかった。眞に日本の自動車に乗つた氣持で寛いだ。「進め」「止まれ」がゴツイと云ふなら「發車」「停車」「通過」でよろしい。主動であれ、國粹であれ。



ムジル・ンラーム

(六) 黒ンボと白ンボと櫻ンボ

(い) 黒ンボの踊りムーラン・ルージュ

當時水産講習所に居つた長男から、面白い通信があつた。その一節に、「お父様! ムーラン・ルージュを御覧になりましたか。レビューは?」そこで蟹カラの親父一矢を放つて曰く。「ムーラン・ルージュは女中の見に行く所、我々紳士はオペラだよ、エヘン!」とやつたものである。後で聞けば同室の學生達がそれを行進曲に唄ひ囃してゐたとのことである。さてムーラン・ルージュといふのは巴里の淺草にある劇場で、その看板が赤い風車で有名である。一度は話の種に見に行かすばなるまい、そこで晚餐を済まして出かけた。

一寸歐洲各國の劇場は大概夕食後に開演して十時半か

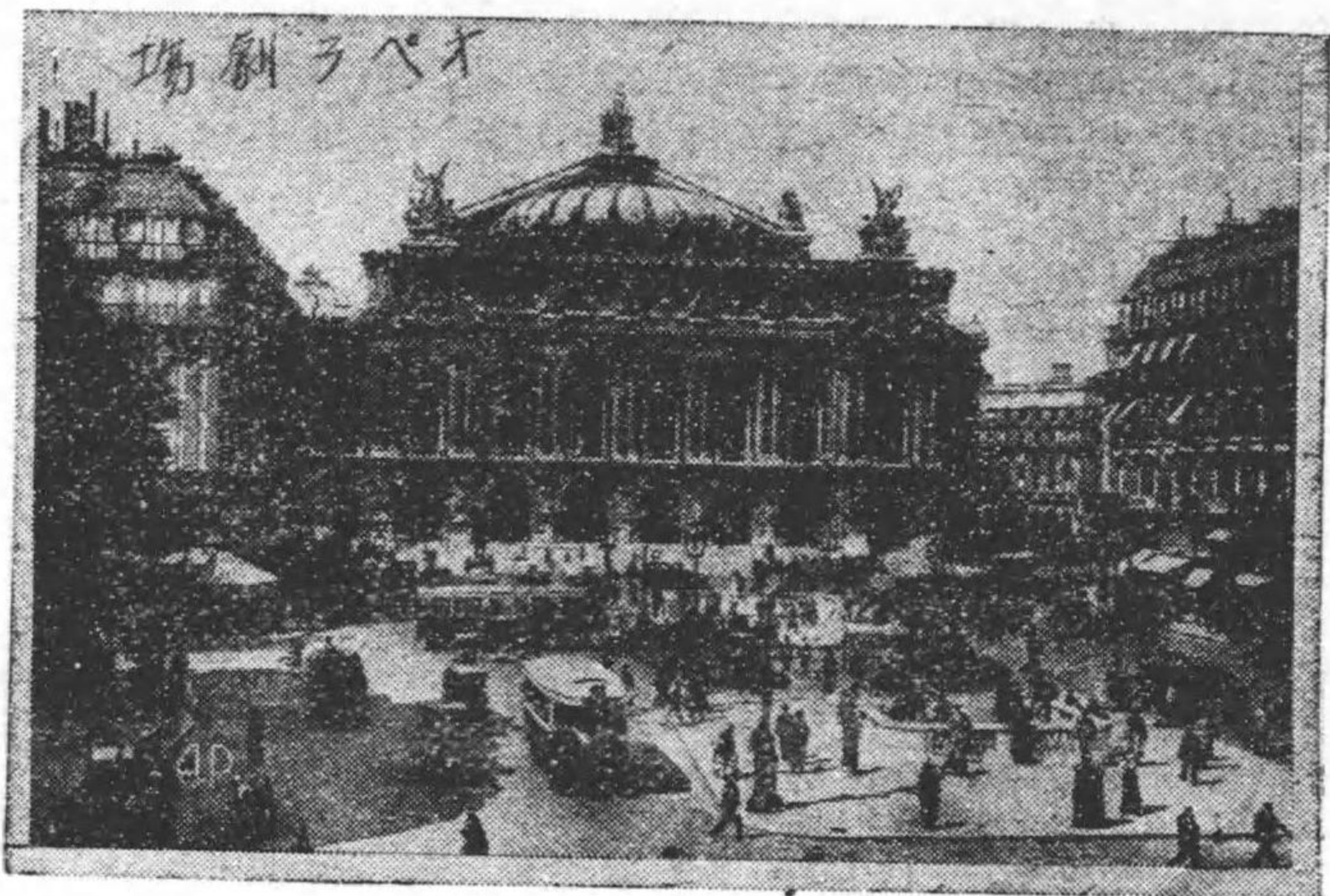
ら十一時頃に終る。眞の演藝時間が通常二時間半乃至三時間位であつて、その間に休憩時間が一時間内外ある。

その夜の出し物、六十に近い老嬢が座長Ⅱ之は白人Ⅱで一座は全部黒ンボの尻振りダンス、何處が面白いのか。これには流石の「欣然」もうんざり。併しこの出し物を半年も續けて居るとか。それに観客がオペラに較べると大分落ちて居る。下品といふ程でもないが、そんな劇場が日本の學生仲間の話題に上つて居るから、いやになつて仕舞ふ。そこでムーラン・ルージュなんて餘り威張れるものではないといふ寓意から、女中の見に行く所と書いて返事を出したのである。

その又黒ンボと來たら黒いことく、まさかお黒粉をつけて居る譯でもあるまいが、但し眼球の白味と齒の白い事は格別眼に付く。聞けば米國では黒ンボを非常に虐待するそうだが、巴里では平氣で黒ンボの女とダンスをする白ンボの男、又は昂然と白ンボの女の手を取つて散歩する黒ンボの男を見ることは敢て珍らしくない。茲にもフランスの開放的な無差別吸引力の現れがある。

(ろ) 白ンボのお芝居オペラ

有名な國立劇場オペラとオペラ・コミック。日本でいへば歌舞伎座と帝劇。劇通の永持・西原兩氏に伴はれ、一夜宛觀劇としやれこんだ。流石にフランス第一流の劇場丈けあつて、宏壯雄麗眞に社交



佛 蘭 西

場としての體裁設備、誠に完全なりとなづかさされる。殊に防火幕があつて、舞臺と客席との間を密閉し、火事があつてもこの幕で防ぎ止める事が出来る装置になつて居る。そこでお客に安心させるためか、上げたり下げたりする。防火幕は「マダム・バツタフライ」の幕と代る。朝日に波の模様、日本字で上に大きく「蝶夫人」左下に「ふちた」と染めてある。

第一幕、英國の海軍中尉ピンカートンが長崎の遊女屋でお蝶を見染める。

舞臺や人物、日本の昔風である。我々日本人の眼から見ると變なもので、噴き出したくなるものがある。肝心のお蝶夫人の着物は、左前に合はしてゐる。下駄を穿いてゐるのは一人もゐないスリッパを引つけてゐる。

第二幕、舞臺はお蝶夫人の部屋、數年の後、軍艦が港へ

入つて来る。お蝶夫人は唾液で障子に穴を明けてのぞく。

此時親日家F氏は、あゝ！と嘆賞する。後で其譯を聞くと面白いではないか、あれが西洋婦人であつたら障子を明け放して、「夫よこゝですく」とハンカチを打振る。果ては伸び上り跳び上つて表情を暴露する。そうやられては、男の氣持はどうでせう、お蝶夫人の含蓄ある表情、しほらしい！日本婦人の特性好きあります。現今でもしほらしいあります？と聞かれた時は聊かギャフン！

第三幕、前と同じ部屋

お蝶夫人は離縁せられて、憂愁のあまり、奥の室にあるとき、ピンカートンは美しい新夫人を連れて来る。小間使が氣をきかせて面會させぬ。ピンカートンは怒氣を帯び靴穿のまゝお蝶の室に這入ると、自分の寫眞を祀つてあるのに胸なで下して去る。入れ代つてお蝶夫人が来る。小間使から話を聞いて全く狂する、そうして想夫戀歌を聲を限りに唄ひつゞける。

見物席の西洋婦人はハンカチで眼を蔽ふもの續出、恐らく同情の涙を拭いて居ただらう。幕となる。見物席から拍手が盛んに起る。するとお蝶夫人再び現れて同じ歌を唄ふ。其劇で一番よいところは必ず二度やる。武士に二言無しの眼から見ると、餘り感心せぬが、所望されたから再演するといへばそれでもよかよか。

最後に、お蝶夫人は、懷劍逆手に咽喉を突いて自殺する。

流石に日本婦人だ、言ひ交はした仲、子までなしたる夫、立つる操を破らじとか。噫！よくぞ死んで呉れたと「欣然」も思はず落す一筆。欠伸にまぎらはして涙を拭く。

此劇は別として、一般に西洋の劇は奥行が浅い、そこになると日本の劇、特に淨瑠璃の這入つた歌舞伎は素敵だ、就中腹藝と來ては世界獨歩である。歌舞伎が現代に適しないなど云ふ奴の頭は少しどうかしとるぞ。観客は總て上品な紳士淑女。従つて服装も至つて清酒なものである。大戦前はタキシードに限られたとか。今は大分大衆的になつて特別の日を除く外、背廣でも構はぬ。それから女の服装となると、まるで女湯をのそきに行くやうなものだ、といふ人もあるが、そんなにまで露出ではない。殊に「欣然」等が行つた時は恰度お蝶夫人であつたせいもあらうが、大概の婦人が日本の繪羽織ひなだに大きな紋付それに華美な裾模様のあるしを一著に及んで居る。然も其手を袖口から出さないでヤツグチから出して、酒々としてこれみよがしにやつて来る。一寸賞めてやると、大いに喜んで折紙付の紋をお友達に誇り顔に話して居る。

此等の婦人は感心にお化粧をしてゐない。元來西洋の上流婦人は、純白よりも少しく日焼の跡し薄紅粧状態しを誇りとする傾がある。唇をハート形に色どつたり、眼の縁を黒く隈取つたりするのは醜

業婦の類であるとして下賤視さげすむものである。「欣然」はこのお化粧しない婦人の氣品丈は非常に氣に入つた。それよりも尙ほ氣に入つたのは劇場の規律である。入場時刻に遅れて這入るのも少いが、退場に先きを争ふが如き事は全然なく、劇の大團圓迄忠實に觀覽するのは胸の透くほど氣持がよかつた。日本のそれ等は履物を取ると言ふ手數もあるが藝術家に對して禮を厚うする爲め其終りまで觀聽することにしては如何。それから日本では室内にあるものが劇場と言はず、食堂と言はず、平然として帽子を冠つて居ることである。殊に列車の食堂で甚しく服裝を紊して居る似而非紳士の多いのに驚く。他より脱帽などと注意せらるゝのはその人の恥辱であると言ふ事に氣を付けて欲しい。否、東洋の禮儀國民の價値を落すこと夥しい。公私を區別して外人に蔑視せられぬ様にしたものだ。

(は) 櫻ンボ——世界一

滴る様な漆黒の髪。櫛目の跡の鮮かな、桃割、島田、丸鬚それを親日家のF氏は無限曲線の美の極致と激賞する。櫻花の顔。肌目きめこま纖かな純眞の肌と西洋人の肌、恰度油繪で見る様に遠目では奇麗に見えるが、實際觸つて見ると肌の毛穴がザラ／＼して居る。とはダンチである。その肌色は温帯地方魚菜食者特有のものである。「欣然」はその太陽色を禮讚する。そして羞恥の心、それは女子の花である。花は櫻木豈武士のみの専有物ならんや。櫻ンボとは即ち羞恥の代表色として黒ンボ、白ンボに優

越してゐることを誇とする。「欣然」式命名であるのである。

總模様の振袖、白襟黒紋付、調和のとれた丸帯、裾捌き床しく、ちらりと見ゆる長襦袢、白足袋の優美さは勿論、七分開きの蛇の目傘、すつきりした襟足、素足に高足駄と言ふ粹な姿態！それは實に繪であり、美術である。是が世界一でなくてどうする。ラグザーお玉さんの言分ではないが、洋装した日本の女の銀ブラ姿は巴里邊の女中と同じだらうと想像して居たが、「欣然」の目に映するところでは巴里の女中と同じ所か、一升徳利見た様なあの脚ときたら嘔吐へどはきさうだ。高貴の御方の御禮装は別だ。又小供や女學生、或はその先生方の洋服は運動及體育の上から採用してよろしいが、人生の花、羞恥を包むべき時代に世界一優美の日本服裝を捨て、何であんな徳利足を露出して歩くのかほんとに、とつくり考へて欲しい。又腕まくりや、薄物を透うして見ゆる姿態は暴露式で日本人には不向だ、下品である。

それから女の斷髪。あれは西洋の女囚が髪にシラミが発生したところから櫛き取る煩に堪へず、それを斬切りにしたのが創はじまり。又髪に饅こを當てるのは、元來西洋人の髪は玉蜀黍の毛見た様に、縮れ毛である。上品に言へば小波さざなみが打つて居る。それを伸ばして大波を打たせて居るのである。それに氣付かすして、枝垂柳の様なそうして癖のない黒髪を、態々縮らせるお方の氣が知れぬ。又西洋の女が

帽子を冠るのは、みにくい髪の毛を隠すためである。歐米崇拜もここまで来ると寧ろ滑稽である。とはいふものの「欣然」の女房や子女も、その流行を追ふ。果ては髪の毛の結方で、「丸髻に結はなければ離縁する」など犬も食はぬ喧嘩が始まる。イヤハヤ。

併し我國古來の道德律に従ふ夫婦の愛情、實際日本男兒程その妻を眞に愛する文明國民は、決して他に其類例を見ない。日本の夫婦道は神聖莊重なる愛情に基くものである。父母の血液靈魂を後昆萬世に擴充する孝道の大精神に於て、渾然融合する至高至深なる愛情は、日本人夫婦の間にのみ存することを忘れてはならぬ。實に世界に誇るべきは日本に於ける夫唱婦隨の愛情である。

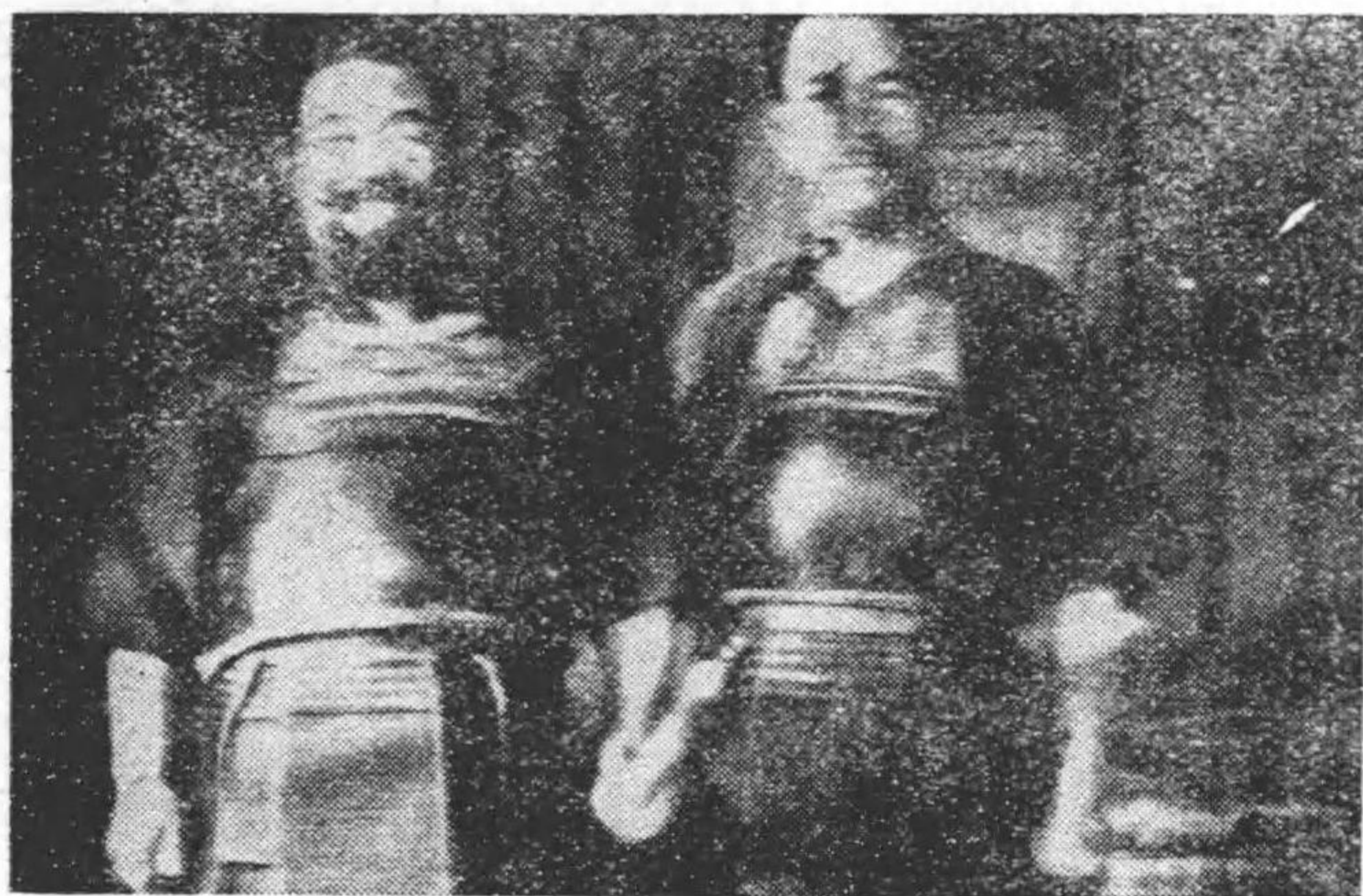
西洋の夫婦は、主として經濟的結合である。彼等が經濟的負擔を免るゝ爲めに産兒制限をなし、男女の情慾を充す爲めには到底日本人の了解に苦むことを平氣でやつて居る。日本の有閑マダムといふ奴、西洋の悪い所のみ真似たがる。飛んでもない毒蟲だ。小人閑居して不善をなすだ。或人が世界諸民族の貞操道德を、痛快に行軍序列に喩へて居る。日本婦人を尖兵とし、白人男子白人婦人を最後尾に置き、其後には犬猫が隊間距離なしに續行する。實によく真相を看破してゐるではなからうか。西洋の結婚を戀愛中心とし、日本の結婚を宿命的結婚と論ずるが如きは、其淺見寧ろ笑止千萬である。

唯、結婚に方りて過度に封建時代の形式に捉はるゝはどうかと思ふ。父母の相互の諒解を第一條件

として、將來夫婦たるべき者相互の諒解^{II}神聖なる交際文通等^{II}を或程度に加味することが、却つて純日本の精神に合するのではなからうか。それから、西洋人の女を尊敬する習俗は、全く外形的である。文明國民中、日本人程、其精神に於て、婦人を尊敬寵愛する國民はなからう。現に「欣然」の如きも銀婚式とやらを濟ませた今日まで、物質的には人並以上に苦めた事を自覺して居るが、精神的には人並以上愛妻家を以て自任して居る。「欣然」の今日ある全く愛妻の内助の功であると感謝して居る。おのろけだなどと冷評して下さるな。

要するに、日本の女は日本の女らしく、羞耻第一に、相似^{トキハ}しい良風美俗を保存することを最も賢明とする。就中天性の麗質たる櫻ンボ。柔和で貞淑で優雅で謙讓で、而して強く固い日本女性の美點長所を發揮して行く事に覺醒^{めざ}めて、斷然西洋かぶれせぬ心掛が肝要である。西洋婦人の直立姿勢より、九條武子夫人の百六十五度前傾きが上品である。男女の状況に於て西洋の風俗を模倣せんとするが如きは、愚中の愚と謂はねばならぬ。日本女性の長所美點、就中心と髪かたち服裝の保存が必要だ。殊に廢たりかけた日本髪は、お正月は勿論少くも月に一度の誕生日には是非共結はせたいものだ。

來朝の外人が日本婦人を研究し、其眞髓を知るに及んで異口同音に「日本が露國と戦つて、勝利を占めた理由が分つた……家庭に於ける婦人の力である」さういつて日本婦人を日本の誇の中に加



巴里劍道大尉松吉と「欣然」眞師素よ素人

へて居るではないか。「欣然」式女哲學、是を以て終りとする。

(七) 武者修業

「欣然」の七ツ道具に劍道の道具がある。しかして此荷物が税關吏を面喰はしたのも笑話の一つである。露・波・獨は無事に済んだ。それは外交官たる「馬」大尉の荷物と同一視せられた關係もある。然るに佛國へは全く「欣然」一人旅、荷物同様である。併し道具丈は「欣然」の身邊を離さず持運んだものである。ところで佛國税關吏が抽出検査をしたのに此道具が當つたから敵はない。甲手を捕へて之は何かと問ふ、そこで其用途を片言手眞似で説明しても判らない。それは判る筈がない。彼等は全然見た事もない道具であるから、そこで日佛會話の本

から探し出して之は防寒用手袋であると遣つたところ、始めて會得したらしい。而して日本人であること、獨逸製品でないと言ふ事が判明してからは非常に親切に色々の世話をして呉れた。胸は防寒用チヨッキ竹刀はステツキで税關を通過したのは、流石の「欣然」も微笑の極、酒瓶に手が届かんとしたとき、すかさず握手（謝禮金を握らせ）無事に検査を済ました。

巴里牡丹屋の奥の食堂が道場である。始めは吉松大尉や松原君等と日本人同志の相手であつたが、或日物好き否彼地ではフェンシング術腕自慢の先生と試合に及んだ。兩者共に道具に身を堅める。彼は彼國の劍術即ち正劍を以て、「欣然」は竹刀を以て相對す。最初の試合だ。「欣然」は問合を遠く、而して大上段に構へ、氣合を充實してシリ／＼攻め寄つて、眞二つと跳び込み面美事に命中、對者思はず兩手を以て頭を押へて、ヘタ張る。其様異様と云ふか、滑稽と云ふか、迎もお話にならぬ姿態であつた。併し笑ふ譯にも行かず。異状なきやを確め失禮の意を表して、更に一本立合を求めたが、面は御免を蒙ると言ふから面を打たぬ事にして試合す。彼の正劍「欣然」の腹に觸れて彼氏の勝。三本目には「欣然」正眼に構へて追ひ込み機を失せず跳込み胸、續いて體當り、言ふ迄も無く六尺豐の彼氏、後の壁にドン。

個人と個人と兩々相對立して鎧を削る時、眞に電光石火、寸分の隙も許されぬ。斯くの如くにし

て正義・果斷・機敏・克己・廉恥等の勇氣、眞劍的の氣分及之に伴ふ動作即ち精神と體力の不可分關係「氣力」が鍛鍊せらるゝのである。

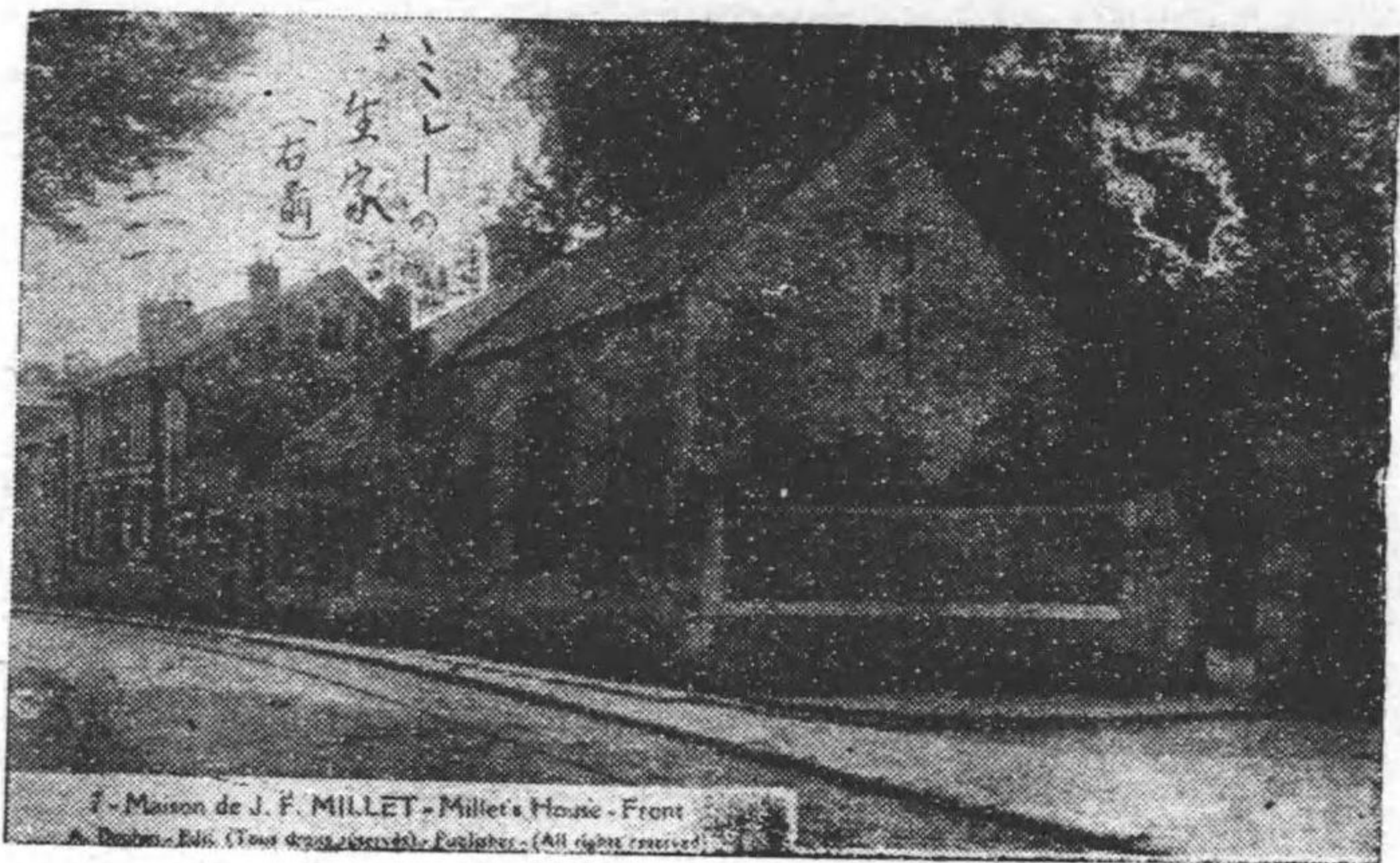
然るに、近來日本人同胞間の武道試合に於て、勝敗の末技に走る様な傾向のあるのは頗る遺憾だ。競技ではない、鍛鍊である。宜しく正々堂々渾身の勇氣を出して戦ふ可きである。而して勝つて誇らず、負惜みを言はず、勝者は敗者に同情し、敗者は勝者に隨喜して所謂嬉しいやら悔しいやらの心境から漸次無我の境に入るべきではなからうか。此の外チヨイ／＼外人と試合し、殊に香取丸の船中ではお蔭で四十日間の航海を徒然でなく過すことを得た。

御承知の通り、柔道は歐米各國で段々流行し出した。就中獨逸では非常なもので、青年などは柔道は獨逸の國技の様に考へて居るものさへある位だ。併し何と言つてもまだ／＼日本の矮少な軀幹の持主（日本人の腰が強いそれは起居習慣から来る）が六尺有餘の大男を手球に取り、或はギュー／＼絞め込んで參らせる（外人はオチル事を非常に怖がる）のは痛快である。だが柔道聯盟など餘りハイカラがつて、秘術の安賣も構はないが、要は日本の武道はスポーツを超越して居る神技である事を忘れてはならぬ。柔道素より世界一である。併し日本人に對し全く齒が立たぬ事はないが、劍道になると、眞にそれこそ全く又が立たぬのである。「欣然」は大なる信念と趣味とを以て劍道に精進し、獎

勵の先頭に立つ事だけは、敢て人後に落ちぬ積りだ。劍道は實に世界獨歩の觀がある。然り、眞に世界無敵であり、世界平和の魁である事を痛感體得した。

(八) ミレールと春山

ホンテンブローに遠乗し、有名な畫家「ミレール」の生家を訪ふ。時は七夕たなばた、星祭の夕である。「ミレール」の晩鐘、彼の兩親ニ百姓の仕事に至極眞面目に精出して働く、やがて遠くの杜の教會から夕暮の鐘が、野を越へ丘を渡つて響いて來ると、父も母も、靜かに頭を垂れて「感謝」の祈を捧げたニその敬虔な姿を描き上げた名畫だ。日本流で言へば敬神と親孝行の現はれである。實に感慨無量だ。素より「ミレール」の繪を觀賞出來る様な「欣然」ではないが、親しく其畫室に入り、又其郊外に立ち、彼の構想筆致が眞善



佛蘭西

美の極致に達して居る所、實に其環境と、彼の天才とに加ふるに、努力の如何に大なりしものありしやを三嘆せずには居られなかつた。「欣然」は晩鐘は勿論落穂拾ひと母の愛情、綿羊の群が好きだ。殊に汀なみさきの小波の如きは、我國の畫風を取り入れて居る觀がある。而して彼の自畫像に接するに及んで茲に愕然たるものがあつた。それは「ミレー」の風貌が如何にも「欣然」の敬友春山八木岡畫伯に酷似して居ることである。「欣然」の事であるから、思はず「八木岡さん」と發聲した。

春山畫伯は、下條桂谷先生の高弟にして、唯一、而も師の長を學んで捉はれず。古典に新味を加へて創作す。所謂大器晩成今では押しも押されもせぬ南畫の大家である。「欣然」渡歐に際し、畫伯より猛虎（古來千里を走り千里を歸るとの縁起もの）の繪の驢はなむけは勿論、欣然の御土産用として、得意の破墨山水數點を戴いたのであるが、流石にフランス人である。激賞垂涎措かざるものあり。之を與ふれば、彼等眞に狂喜して家寶の隨一と誇る。

「欣然」守護神の一つに、桂谷先生の文珠菩薩あり。先生の長男禎一郎氏の驢はなむけ。至誠と意氣の籠つた佛畫だけに「ミレー」の眞善美を超越したる氣品、得も言はれぬ畫趣、否其尊さは洋畫の遠く及ばざる所と睨んだは僻目か。武人たる「欣然」の喧嘩腰なるに反し、東西の畫伯は彼の世で御互に握手して、畫界に國境なしとは、笑むで居られる事であらう。欣然歸朝後更に關西の菅楯彦畫伯を知るに

及んで其風流雅懷を味ひ得て大に喜んだ事であつた。

(九) 滅却心頭火亦涼

時 七月十九日

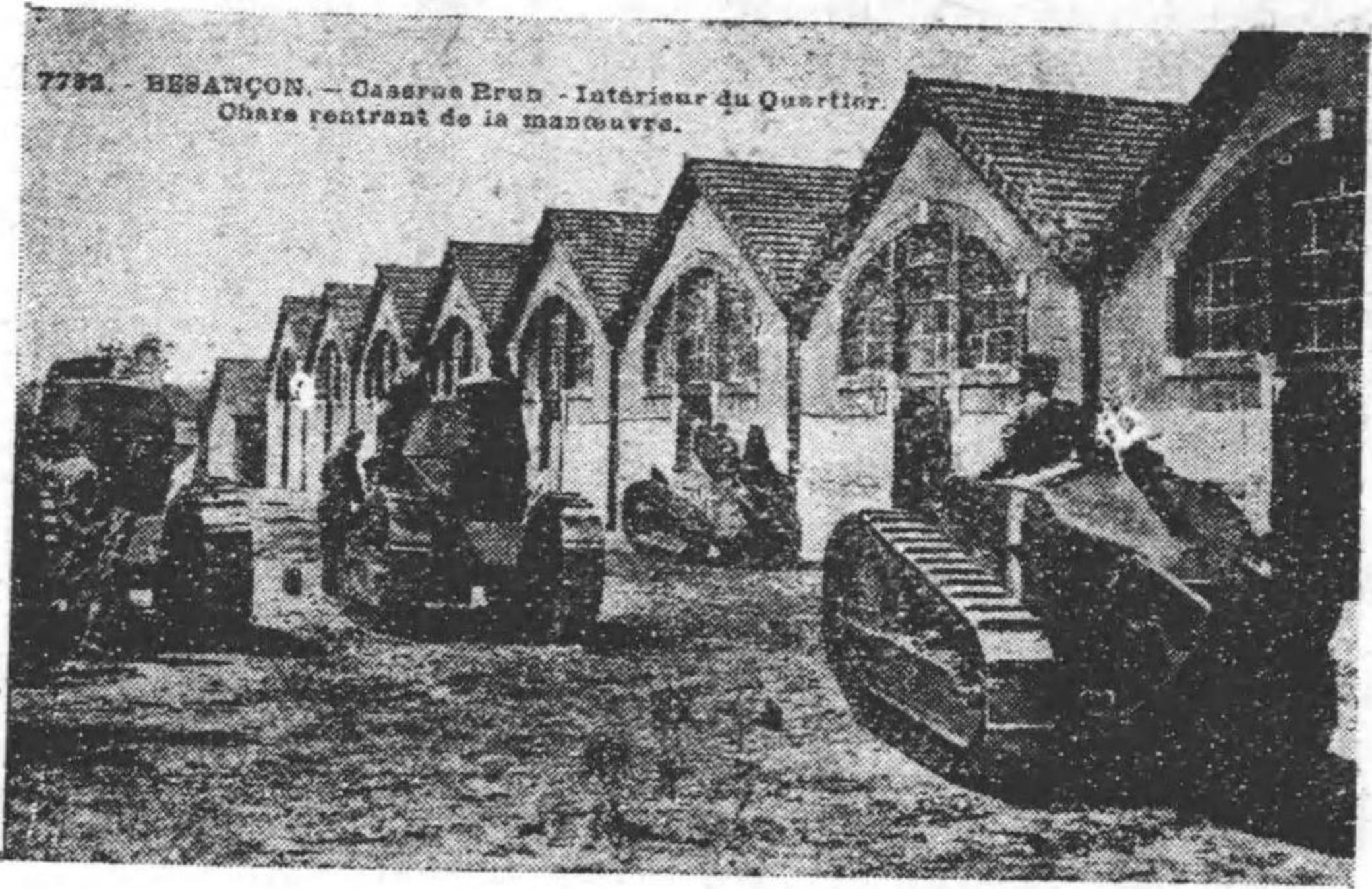
場所 佛國武山村戰車聯隊長宅

人物 主人役 聯隊長、接伴役將校數名

來賓 「欣然」吉松大尉、墨其哥將校

大陸の七月は盛夏である。況や武山村ブザンソンは佛瑞國境にあるので、佛國としては最も暑い地方である。而も風通しのよい上等の室は、勿論夫人用として占領されてゐるから、客室などは暑苦しい室に極つてゐる。一寸日本人には解しかぬる點であるが、そこが歐洲の風習であるから仕方が無い。午後の四時を期してお茶に招待されて來たのである。

「欣然」は武田(秀一)夫人から頂いたお人形を手土産とし



佛 國 西

て、持参に及んだ。勿論日本服を着けた可愛らしい舞姿のものを持つて行つた。聯公夫人の欣び方は一寸瞥へやうも無い程で、客としての第一印象は、先づ満點といつてよい。

お茶の會と言ひ乍ら、男の席の方には、凡らゆる飲物が出て来る。冷いもの、熱いもの、アルコールの有るもの、甘いもの、次から次と運ばれる。その給仕は兵隊即ち従卒だ、室内は風も通はず、扇風機の備付も無い。一體に涼しがるべき山地ながら、午後四時の氣温は相當に暑い。おまけにアルコールが腹の中でドン／＼燃える。身體はうだりさうである。是が日本なれば、團扇なり扇なりが出されるのであるが、それすらもない。聯公は客に對して、遠慮なく涼を納れよと言はん計りに、己れ先づハンカチを打ち振つて咽喉の邊を煽ぐ。何の事は無い、日本の田舎人が頼冠の手拭を取つて、團扇代用にしてゐるといふ状態だ。メキシコ君は、居ても立つてもゐられないといふ風で、窓際に立寄つて乏しい風に有り付かうとあせつてゐる。達磨式の「欣然」暑くない筈が無い。流汗淋漓として順に傳はるといふ次第。併し乍ら其所が「欣然」流の存する所、ハンカチを取つて顔を拭ふでも無く振り廻して風を起すでも無い。體胖たがに氣平に、欣々然として無言微笑、蓋し汗は拭へば拭ふ程、あとからあとからと出て来るものだ。唯飲むことを怠らなればかり。聯公此態度に眼を止め、「コロネルは日本武士道の權化か」といふ一問を飛ばしてよこした。「欣然」微笑を以て之に酬い吉松大尉に向つ

て『心頭を滅却すれば火も亦涼しと誨かへてやつて呉れ』と是は日本語だ。大尉曰く『そぎやん六つかしかこと、判らん』佐賀辯で押問答が始まつた。其所は交際上手の佛國將校だ。「オ、武士道！ 武士道」と大聲連呼して、以心傳心、武士道の問題は立所に解決してしまつた。

日露戦史や武士道の研究に多大の興味を有つてゐる歐洲人、殊に佛人の中年以上の將校が、武士道の眞意を解すること、仲々隅に置けないもの多い事は、隨所で驚かされた事である。然るに本家本元の國內に於ては、自國の長所を忘れ果てて外來の惡思想に迷はされ、或はカプト・ピールが毛嫌される様な現狀を顧みて、武士道の復活を絶叫する者、豈夫れ「欣然」のみならんやだ。聯公等の懐しがるやうな武士道の精神といふ大長所を、世界に發揮するに、何ぞ語弊だなどとケツの穴の小さい事に拘泥するか。

封建時代の武士道！ 至高至大の日本精神の精華！ 豈武士の専有物ならんやだ。國民全部が皆此武士道を體得し、此の精華を發揮することが、所謂「正を養ふ」眞意義であつて、隨て皇道宣布の大使命の遂行も此の長所の發動に待つべきではあるまいか。

(十) 遁げつ隠れつ

佛國武山村戰車第五百六聯隊に隊附中の吉松大尉を訪ひ、該聯隊勇士の美談を聴く。その計畫の周密にして、實行の大膽巧妙なる、流石に佛軍勇士の面目躍如たるものがある。「欣然」は特に彼が飽く迄捕虜たるを肯んぜず、死を賭して逃走を敢行したる所に甚大の敬意を表し、特に大尉を介して、本人の手記を乞ひ、左に其全文を掲ぐ。

ドイツよりの逃走

ブーサル中尉手記

第一 捕虜となる

一九一五年一月上旬 601 はソアッソン附近の第六軍右翼に増援の爲到着す。筆者は當時 601 の第三中隊の軍曹にして小隊長の職を執れり。

一月十三日午前一時、聯隊は第一線の 2041 と交代し、午前三時半第一線散兵壕に就き、午前四時攻撃前進の命を受く。

大隊は直ちに攻撃前進し、暗黒内の戦闘をなしたる後、大隊の攻撃目標を奪取す。此の戦闘に於て大隊長は戦死す。

然して攻撃成功せしは第一大隊のみにして、大隊の左翼には部隊なし。

大隊は十三日中其場に止まり、ブーサル小隊は後方への交通壕構築に任ず。

十三日夜は獨軍の攻撃盛にして、十四日朝より状況益々不利となり、其大隊及右翼の歩兵第四十四聯隊の一大隊は敵より包圍せらるゝに至れり。

大隊は我軍の逆襲を待ちありしが、遂に來らず後退の命令來れり。然し時既に遅く、大隊は死力を盡して戦ふ外手段なし。十四日夕、大隊は殆んど全滅し、一部人員のみ退却に成功す。筆者は十四日夕胸と踵を撃たれて人事不省となり、獨軍に捕へらる。

此の時より捕虜の生活は初まりし也。

601 は聯隊長大隊長を初め殆んど戦死す。

第二 監禁の生活

獨逸に送られて、カツスエル野營地に至る。

自分の傷がだん／＼治るのに従つて、自分の心は益々暗くなつて行く。

死よりも苦しきこの苦しみの生活を逃れんが爲、斷然逃亡を決心し、それが爲め先づ眞面目に働くと共に獨逸語（既に經驗あり）の勉強に熱中す。

四月に至り、同志二名を發見し、約束す。

歩兵第四十四聯隊の兵卒 クレツテイ

砲兵第一聯隊の兵卒 マルク

兩君共、勇敢沈着の者なり。

然るに五月に至り、チプスに罹り身體衰弱甚し。

病氣全快後、語學の出来るの故を以て、特に收容所醫務室附の書記となる。

收容所醫務室にてアルサス兵の捕虜と知り合ふ。此のアルサス兵は此の醫務室に働く佛軍の捕虜にして、其弟は獨逸兵となり居り。然かも偶然にも其醫務室の看護卒となり居る不思議な運命の兄弟なり。

此のアルサス兵と知り合ひて、特に仲よく務めありしが、交り愈々深きに至つて思切つて逃亡用材料を五十マークを與へて買つて貰ふ。

夜 光 磁 石 一 オランダへ至る道路用地圖 一

懷 中 電 燈 一 同 電 池 一

右の材料は二重底の箱に秘匿して保存す。其後エイセンボルン村の農場の收容所に移轉せしめら

る。

一九一六年末より一九一七年始へかけての冬季間は、専ら逃亡計畫及準備に努力す。

オランダ國境迄の三百二十軒を十七日間にて踏破するに決す。——夜行軍にて、晝は眠る——出發を五月三日と決定す。これ豫定の國境通過の夜が月の關係上丁度暗黒なる夜なればなり。

背囊携行の食糧品として準備せしもの

ピケット(戰用パン) 百二十 板チョコレート 十枚 罐 詰 八個

アルコールビン 一瓶 水 筒(二立入) 一個

服装は労働者の如くす。帽子は盗みしもの。靴はロシヤ人より買ひしもの也。

約束の五月三日夜の十一時、先づ背囊を二階より庭に紐にて下げ下ろし、自分は階段を下りて、約束してゐる約一軒離れた石切場に至る。約十五分許りの後、他の二名の兵も逃亡成功してこゝに集り來る。犬は盛にほえて不快なり。

愈々三十一ヶ月間の監禁生活より逃れんがため、今よりオランダに向ふ事を思ふと元氣百倍するも亦心配なり。

逃亡第一日

五月四日午前〇時、石切場を三人連れ立ちて出發す。月は雲の爲隠れたり。森の小鳥の羽ばたきにも歩行を止めて耳を立てつゝ夜行軍す。

午前四時半迄に二十軒離れた地に到着、直ちに日の出前に隠れる爲、道路から離れた小さい縦の林に入り、先づ寝る前に食事をとる。

ビスケット 七 チョコレート 三 罐 詰 半分。

不寝番を設けつゝ晝寝をなす。

逃亡第二日

夜十一時出發、成るべく道路を避けて鐵道線路を前進。

朝となりて、叢内に寝ねしに、雨降り始めたり。木の枝にて臨時の屋根様のものを作りしも、何の役に立たばこそ、ズブヌレとなる。

逃亡第三日

晝の雨は止んで風吹く。月照る。夜行軍途中農夫二人と遭遇す。隠れる暇なかりし爲、止むなく行き交ふ。晝は深く森林内に入る。

逃亡第四日

ツエツペリン飛行船の西方の繫留場たるパーデンボルンを特に避けて前進す。之れドイツ軍隊が夜間演習をなすのに出會はぬためなり。又北方の二村落の寺院の塔が明瞭にして方向維持に便なりし爲なり。

然し亦林がなくなり不安となる。晝は麥畑内に寝る。

逃亡第五日

夜十二時出發。途中、村の若人連と遭ふ。向ふより「今晚は」と云ひし爲、止むなく答へしに、我等の發音及態度等に依りて、怪しまれたと見え、行き違ひたる後、内一名は自轉車にて村へ急報に行く。他の二人は恐れてか、村の方向に行かんとす。我等も逃ぐるに若かずで急いで離れ、道路外に出でて逃ぐ。次に村より多數の人が追かけ來る。我等は路外の地物に依つてかくれ、約

三十分間停止す。續いて靜かとなりしに依り、恐るゝ路外を歩行し目的の行程を終る。朝となる頃森林の中に入り、一日中何等食する事なく、酷く疲れて睡眠す。

逃亡第七日

夜、國道を前進中、労働者と遭ふ。依つて國道を棄てて小道を行く。川の橋が守備されてはゐないかと躍進しつゝ偵察せしに國境より離れたる此の附近は未だ警戒せられ非ざる也。晝は疲れ小屋に入りて眠る。

逃亡第八日

本夜は土曜の晩なり。故に特に遅く出發せしが乗馬の二人連れに追かけられて、路外を逃ぐ。河の線にて、幸にも馬來らず安心す。晝は何等異狀なし。

逃亡第九日

足の踵が痛む。戦闘の時、撃たれた處なり。然し連れの兵が自分の背囊を持つて呉れたのは涙がこぼれる位有難かつた。翌朝は森林内に隠れてゐたら、獵師が獵犬を連れて晝頃附近で鳥打ちし爲、何時見つけられるかと心配にてたまらざりき。

逃亡第十日

大した事なし。本日より大膽となりたり。

逃亡第十一日

愈々ボルケンを目標として前進するに決す。運河を渡るに際し、橋は守備せられありし爲泳いで渡る。

逃亡第十二日

少しづつ目的地に近づかんとす。今や百軒を残すのみなり。夜行軍の途中、牛乳屋が路側に牛乳

箱を置きたるを盗みて飲む。

逃亡第十三日

ヂュルメンの衛戍地を避けつゝ前進し、夜間演習部隊に遭はざる如く特に注意す。一人が昨夜の牛乳の爲腹痛を起す。依つて晝は特に温食を二回も執りて腹を温む。

逃亡第十四日

ノルデイツク迄は道路に依りしも、危険を豫想して野外行進のみとせり。

逃亡第十五日

捕虜として、カツスエル野營地に居た頃、同僚中の逃亡不成功者の話に聞きし前哨線を突破せざるべからず。其前哨線には騎兵や自轉車兵及傳令犬を連れたる歩兵が、歩哨の位置を連絡し、且つ巡察しつゝあるなり。天然障碍物のない處には、特に人工障碍物が設けられ、電流鐵條網迄設けて、國境守備をなせるなり。

我等は右の如き不運なる失敗せる友人の話を利用しつゝ夜半前進を起す。途中、獨兵が路上を行進しあるを認めて、麥畑内に伏しつゝ逐次前進す。愈々國境は近づきたり。日出の前に、樹木をつみ重ねたるものの中に隠れたり、之れぞ自由へ向ふ最後の出發位置なり。而して晝間十分に國境通過點を見得る良好なる觀視所たるなり。

然るに雨は降り始めたり。晝間地平線上にオランダを見つゝ充分に地圖を研究す。國境迄五軒なり。

逃亡第十六日(最後)

夕刻、最後のビスケットを食し、身體を輕快にする爲、不用のものは全部其場に棄て、以て敵より誰何され、追かけられても逃げ得る如く準備完了す。

出發後大雨至る。單に夜光磁石を頼りに路外のみを躍進す。小川を用心しつゝ渡りしが犬にほえらる。

午前一時半頃、歩哨の交代を見つけし故、充分注意しつゝ距離十五歩にて匍匐前進しつゝ道路を横斷す。次で左方二百米に歩哨を見つければ不安なる躍進を續く。背迄水に浸りて苦し。一生中

こんな氣をやみ、且つ苦しみし事を覺えず。
愈々濕地内に入る。國境の濕地なり。此の濕地にて前進中、夜光磁石がぬれて、よこれて動かぬ様になりたり。然るに、其後鐵道線路を見つけて、大いに安心し、其方向を眺めつゝ方向を維持して、濕地を前進す。

夜は明けかゝる。自分達は國境を越えしや否や不明にて不安なりしが、其中、鐵道線路にぶつかり、標杭に獨逸語と異なる書き方をなしありし爲、愈々オランダ領に入りし事を確認したり。其嬉しさは例へん様なし。次で午前九時、ウインテルスヅクに到着し、町の入口の歩哨に話し、警備隊の哨所に伴はれて、大いに歡待せられ、ロツテルダムフランス總領事に通知せられん事を願へり。

第三 歸 還

然るに其場にて病氣にかゝり、七月十日迄保養し、十二日ロツテルダムに至り、二十二日、船にて潜水艦を用心しつゝ、英國に渡り、ロンドンの大使館附武官に報告し、二十五日ブローニーニ（佛國港）に入り、次で巴里に至る。

巴里にて一通り調べられたる後、二人の兵と別れて、軍司令部に至り、逃走要領及獨軍内部の事

に關する詳細の報告をなし、八月五日聯隊に歸り、二十五日故郷に歸り得しめらる。（休暇）
一九一七年十一月、見習士官候補者に任命せられ、一九一八年九月二十六日、現役見習士官に任命せらる。

逃走の爲め受けたる賞

一、感 狀 第二軍 一〇三八號

一九一七年十二月一日

アルチルシユ、シヌルホーズ、プロイアルト、マルヌの戰鬥に拔群の功ありしが、一九一五年一月十四日ソアツソン附近の戰鬥に於て負傷して捕虜となり、三十一ヶ月間監禁せられ逃走に成功して歸來す。此の逃走間、敵地三百軒を十六夜にて徒步行軍し、敵に關して有益なる報告を齎せり。

二、金 鵞 勳 章 受 領

三、逃 走 者 記 念 章 受 領

噫！其苦心、その難行誠に驚嘆に價するものあるではないか。加之該日記と感狀の簡にして要を得て居ること眞に名文、「欣然」隨喜の情に堪へないものがある。

(十一) 悲壯なる愛國歌

獨逸軍が永世中立の白耳義を突破して進軍し、佛國名物シャンパンの原産地である。シャンパニユ一に到達した時の光景、それは實に何といつてよいか。一寸形容に苦む事程左様に戰醉合作の状態で否寧ろシャンパン酒造會社の倉庫目掛けて突進したかの觀があつた。

「欣然」がその酒造會社を見學に行つた時、煉瓦塀には未だに銃砲彈痕實に慘澹たるものを見た。がそれよりも尙悲痛悲壯なる一少女の愛國談に泣かされた。シャンパニユ一が獨逸軍に占領せられた時目星しい家は其宿舎に徵發された。而して一富豪の邸宅に宿れる獨逸の青年將校、祝盃に次ぐに祝盃、勿論シャンパンだ。ビール育ちの獨逸人には聖酒一滴價千金の味がしたことだらう。それが又口へときて居るからたまらん、飲むはく、それこそ眞に鯨飲痛呑、想像に難くない。

酔の廻るに従つて詩吟だ、劍舞だ、イヤそれは東洋流。彼等は西洋人である、さればタンゴだ、ヘレケだ、シャンパンの効果は著しい。得てして斯ういふ連中があるものだ、何時の間にやら、その宅の娘、年は二八か二九からぬトテシャンを引張り出して來てピアノの前に立たせ、無理矢理に獨逸の國歌を歌へと強要肉薄する。ああ彼女は正に屠所の羊か、將た又ルイ十四世の王妃か。

可憐なる彼女は、泣く／＼^{キョウ}鍵を打ちはじめた。彈じ出されし曲は何ぞ。獨逸國歌にあらずして、壯重なる祖國佛蘭西の國歌ではないか。血氣の將校達、怒髮天を衝くの勢を以て總立ちとなり、中には拔劍する者さへある。おゝ危い風前の燈火！ 止める／＼、獨逸の國歌を歌へと怒號したが一心不亂



可憐なる彼女の髪髻にたもるのあがる

の彼女はそれに耳を藉さばこそ、指の運びも鮮かに聲高かくと歌ひ續けるのであつた。劍光一閃、無慘にも彼女は背後より突き刺され、鮮血淋漓として最愛のピアノを枕に、あはれ此世を去つたのである。突き刺した男それは言ふまでもなく上官に代つて激怒した一從卒であつた。

ああ戰禍の犠牲、悲壯の國歌、純情の少女よ、愛國の烈女よ、一死國歌に殉ぜし御身の健氣さに誰か泣かざるべき。あはれ戰禍の巷に散りし可憐なる一輪無名の花の香は、幾千萬年の後までも馥郁とし

て薫るであらう。然り心ある國民の景仰の的として。さるにても人皇第廿九代欽明天皇の御宇、敵刃の下に立つて新羅王我が臀肉を啖へと怒號したる忠烈調伊弉儼、「韓國の城の邊に立ちて大葉子に領布振らすやも大和へ向きて」と、聲も悲壯に歌ひ終つて同じ劍に斃れしその妻。古今東西祖國愛にもゆる意氣は血よりも紅く、火よりも熱く千載を照すではないか。

(十二) 廠 舎

標高六七百米突、連綿として起伏してゐる岡阜地を占めて居るのが、ヴァルダオン演習場。其の一角に建てられたる廠舎に行つて驚いた。堂々たる煉瓦造りで水道あり電燈あり、と言つたら、誰でも其れは當り前だと一笑に附するかも知れないが、まあ黙つて聞け、ブザンソン市といへば、佛瑞國境に近い人口約十萬を有する都市だ。軍團司令部の置かれてある國防上要害堅固の樞要地だ。それであつて其所の兵營には、電燈の設備の無い所があるから驚くでは無いか。佛蘭西は質素の國である關係もあらうが、存外に見え坊で無い所が氣に入るではないか。其他各衛戍地に於ける兵營は、概ね建物が古くて而して皆至つてお粗末だ否質素だ。其質素に對してヴァルダオンの廠舎が素晴らしい設備だから話になるのだ。佛國は音樂好きの國民だ。夕方になると其廠舎で演奏會が始まる。地方の老若男



佛 蘭 西

女が押しかけて、一緒になつて嬉々として歌ひ楽しむ。こんな風だから、兵隊も廠舎行の演習を非常に喜ぶといふ有様。

之を日本の廠舎に比較したら何うだ、「欣然」は、決して贅澤な事を望まぬ。廠舎に行つたが爲に赤痢患者が出來た。チプスが流行した。それが爲に 陛下の股肱たる兵を不歸の客とならしめた。檢閲も中止して歸營した。といふやうな不祥事の無い丈の設備をしてほしいといふに止まる。將來の歩兵は疎開戦法と夜間戦闘とで勝たなければならぬ。衛戍地の練兵場では、狭くつて明るくつて到底重要な演練をする事は出來ぬ。いやとも好演習地へ出張して、絶えず訓練を實戰的に施す必要が有る。今日より以上に、もつとく斯かる演習の度數日數を増さねばならぬとする、さて非衛生的な不完全極まる今日の廠舎が問題だ。

廠舎の改造は眞に急務中の急務だ。之が爲には多少の軍縮を行つてもよい。否それまでしなくても建築營繕の緩急取捨いくらもある。一日も早く、兵隊が廠舎行きを楽しんで待つ位の程度に快よい面白い演習地たらしめたい。敢て此事を高唱して當局に對する苦言とするのである。

尙此ヴァルダオン演習場で見學した歩兵と戦車及砲兵との聯合演習で著しく我國と異なつて居る點

は

一 攻撃砲兵が最初に敵の第一線陣地と障碍物と抵抗地帯とを木葉微塵に破摧しあることを設想せること。

二 攻撃歩兵と戰術單位の大隊戰闘で通常第一線に二中隊豫備隊に一中隊は敵の第一線に突入するに敢て自力を以て障碍物を破壊することなく又突入の際、白兵を揮ふでもなく、言はず鼻歌歌つて彈幕に付いて行くといつた状態である。

三 敵の機關銃巢と第一線陣地と第二線陣地との中間に點在すは攻撃の際、戦車が始めて顔を出し直接歩兵と共同して戰闘する。此間豫備の一中隊が戦果を擴張し、損害の多い中隊が豫備隊となる。此際歩兵が時々銃剣を使用して敵を奇襲する。遠距離砲兵が陣地を變換する。

四 第二線陣地に對しては多くは攻撃第二線大隊が超越して戰闘する。前記砲兵が陣地變換する頃、敵の逆襲を顧慮して歩兵と戦車は連繫を失せず一時停止して敵の第二線陣地に對して攻撃を準備する。

五 敵の第二線攻撃に際し歩・戰・砲の完全緊密なる協同戰闘をなす。而して敵の第二線陣内逆襲又は第三線よりする攻勢移轉に對する訓練を行ふ。

右の内敵の攻勢移轉の假設敵が豫定通り行はれなかつた外、殆んど理想的に行はれたのに感心した。要するに佛國の攻撃戰法は物質的威力を重視し最後の五分間に精神的威力即ち人的要素を認めて居る様に感じた。又シヤロン演習場で行はれた砲兵の實彈射撃は流石に世界一と折紙を付けて激賞するを憚らない。特に野營演習間は歩兵は何時でも砲兵と聯合演習が出来る様に演習の日割が出来て居るのに感心した。我國に於てもドシ／＼實行が肝要だ。

(十三) 總 括

佛國全般の空氣は勝ち誇らずの一語に盡きてゐる。語を換へて言へば密かに獨の復仇を恐れて居る。自覺に基く愛國心、理解正しい權利義務觀念、傳統的勤儉尙武の風、その上創意工夫天才力に富

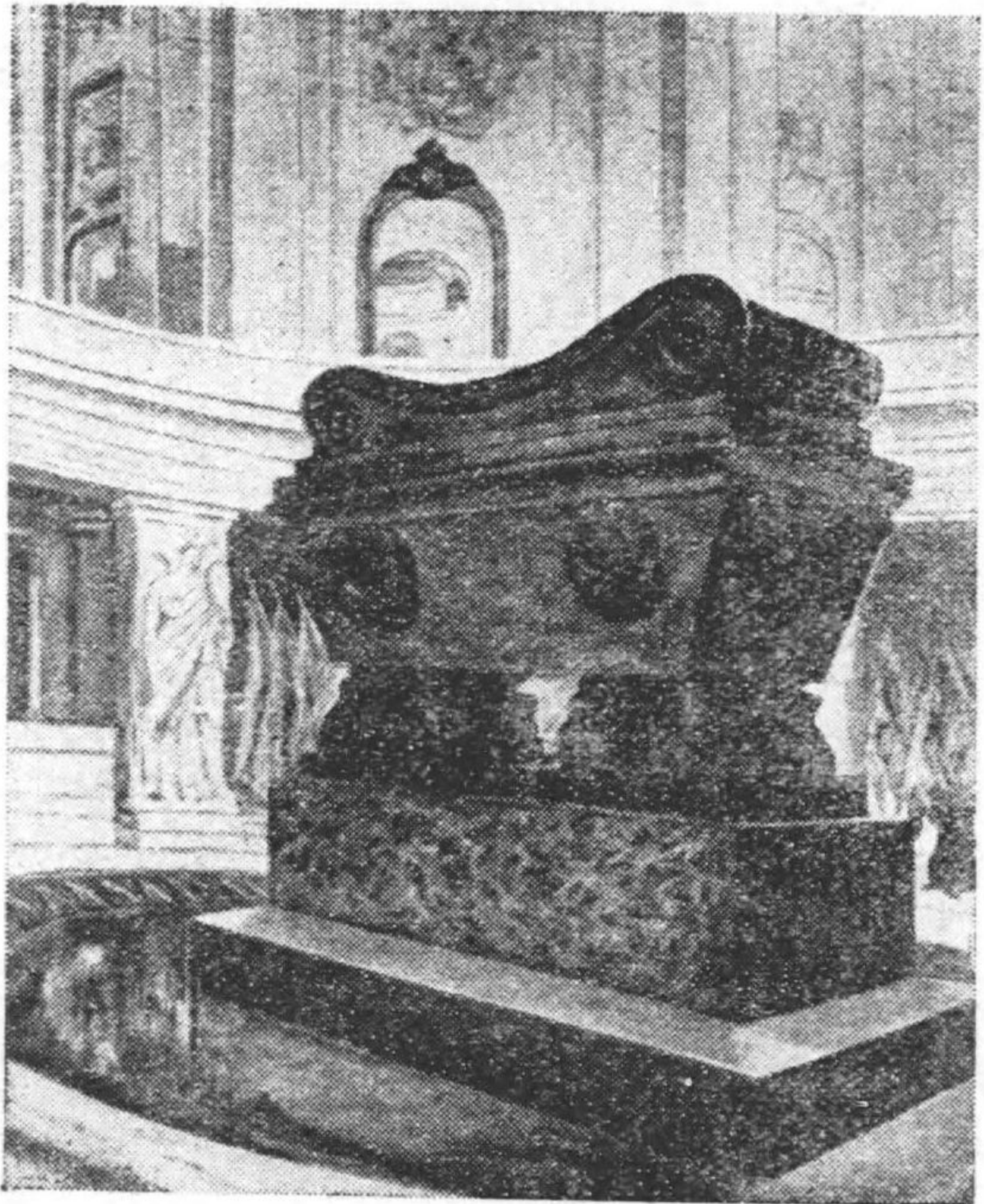
むといふ特色鮮かな國民である。纔かに巴里歡樂の一面のみを見て、佛國の空氣を推斷するのは、大なる觀察の誤りである。而して、何と言つても陸軍國である。砲兵は世界一優秀であり、戰車飛行機の數は他國の追隨を許さぬ。機敏精悍にして感激性に富む所は、總じて我國民に似通ふ點がある。忠君といふ尊い觀念の持合せの無いのが、大いに異る點であるが、一方祖國愛の熱情が燃えて居るので償つて居る。或は一衣帶水を隔てて或は連亘丘嶽を境して、虎視耽々たる敵國と、相向ひ合ひ、背中合せに立つ國である事に因つて、愛國の精神力を高調し、頗る緊張してゐる。敵國外患無ければ國乃ち滅ぶといふのは、^{あなが}強ち支那人の寢言と思つてはいけない。佛國は勿論歐洲各國の狀態は、常時敵國外患を有たない時は無い。だから想定敵國に對して明日の戰鬪を準備する戦法などは、隨分露骨無遠慮なものである。我國の平和愛好の極、假想敵國などの公表を憚るものとは、丸でかけ離れてゐる。謙遜は美德だが、その爲に明日の戰爭に間に合はぬやうな事があつては大變である。肥後の加藤が來るならば硝煙香に何とやらの心準備は平時が大切である。接壤國が敵と成る公算の最も多いのは當り前である。我に接壤する國は言ふまでもなく、ソ・支であるが内地に居る日本人は接壤の味を知らない、常に何とかして刺激してやらねばならぬ。

佛國民は一般に日本人に對して好感を持ち、優遇する。殊に其陸軍は、我國に對してのみ絶對開放

で、決して先進國振らず、何でも皆觀せて呉れる。世界大戰に勝つたのは、日露戰爭に於ける日本軍に習つたお蔭であると口々に言つてゐるのは、強ち外交的辭令とのみ受け取る事は出來ぬ。又、米國

米人を憎むこと度に過ぎてゐる。

彼の大戦の末期に際し火事場泥棒式の出兵と言ひ、而して最後の佛國の戰略的追撃を制肘した事、戦後佛國の婦女子をかつ拂つた事、フラン紙幣を紙屑と同視して料亭などで焼棄して興じた事などは、佛人の忘るべからざる憤慨であり成金風を吹かせて、富力で押へ付けやうとする米人根性が蛇蝎の如く憎惡されてゐる。此點「欣然」



ボナレオンの靈櫃

の豫想以上で、痛快を感じた一つであつた。いかに憎まれ子世にはびこるとも、正義人道は何時まで

さうさせて置くものか、と佛國の識者は叫ぶ。然り大に然り。

それから今一つ佛國の大なる惱は、産兒制限の結果急速に人口増加の出来ないで困つて居ることである。これにはフランス人も大に弱つたと見え、近頃では子福長者に賞金など贈つて多産を奨励して居る。併し産兒制限など天理に背いた事をやつた罰は觀面、オイソレと容易に恢復するものでない。一時の虚榮に驅られて、國家百年の長計を没却してはならぬ。殷鑑遠からず佛國がイイ手本？ である。それを今頃、日本では新らしき事の様考へて、産兒制限などを口にする否現に實施する奴があるが以つての外だ。日本の今日あるは、全く優生多産の御蔭であることを忘れてはならぬ。最後に佛蘭西の誇りは何と言つてもナポレオンである。棺を蓋うて定まる諺に従ひ、その棺を掲げて茲に萬腔の敬意を表すと爾云ふ。

七、戰場見學

「欣然」の戰場見學は、戰略戰術上の見地よりする戰史の研究もあるが、主として、(一)精神氣力の發露と、(二)小部隊の指揮及教育に及ぼす關係を見學したのである。そこで個々の見學を記す前に一般的地形の概要を説明して理解を易からしむる手引としやう。

(一) 地形

歐州の戰場——主として西部戦線は、一帯に連綿たる岡草地であつて、運動及射撃に最も便利である。四五千米から一萬米内外に亘つては砲兵陣地、五六百乃至千四五百米に亘つては重火器陣地、近距離には輕機關銃の陣地に適する如く、大中小の波狀地在るのだから、火器の威力を發揚すべき理想的の地形である。であるからして、交戦各國は射撃即ち鐵量を以て戰場を支配しやうとした傾向があつた。所謂物質的威力を最高度に發揚して勝敗を決しようとしたのである。勿論此戰場に於て最大威力を逞うしたものは、機關銃と鐵條網とであつたことは言ふまでもないが、あまりそれに膠着し過ぎた爲め、乾呻一擲的痛快の大勝負の無かつたといふ事は、忘れてはならない一大緊要事である。

(二) 土質及交通

土質亦適硬で、道路は完全、雨量少く、交通至つて自由である。加之鐵道が四通八達してゐるから前後左右に兵力の轉用意の如くである。此點東亞の戰場とは雲泥の差がある。

(三) 河

河は洋々として幅一杯に流れてゐる。日本の如く、平時は半以上積となつてゐて、一朝降雨の際汎濫するのとは、全然異つてゐる。日露戰役に、鴨綠江の戰鬪、沙河の會戰として名高かつたが如く

一の大障碍として完全に利用せられ得る。夏期の大陸作戦として徒河の準備訓練は緊急な一要件である。

(四) 村落

村落、殊に煉瓦造りの家屋は、敵砲の弾巢となり、忽ち破壊せらるると言ふので、戦後非常に忌み嫌はれる傾向がある。最も有名なのはベルダンのフルリー村落である。影も形もなくケシ飛んでしまつて、残つたものは敷石許である。其他西部戦線に沿ふ市街村落の惨状は實に豫想外である。併し精神的優越の部隊を以てすれば、堅固に守備し得らるべき事は、佛軍歩兵第五百一聯隊の第一大隊が千九百十八年八月下旬、クルリー附近に於ける戦闘で好適例を示してゐる。日露戦役に於ても、蘇麻堡、沈且堡及李官堡等の戦闘が亦先例を示してゐる。要は心目に照映し來る惨状に打ち克つの剛毅に在り矣だ。

(五) 森林

森林は各所に點在して、或は戦場の據點、或は支據點となり、或は上空に對して遮蔽に利用せらるゝ等の價值が頗る多い。従て之を利用し善用したるものは勝ち、悪用し拙用したる者は負けてゐる。東方戦場に於てタンネンベルと附近の森林を獨軍は徹底的に利用したに係らず、露軍は無意味に恐怖

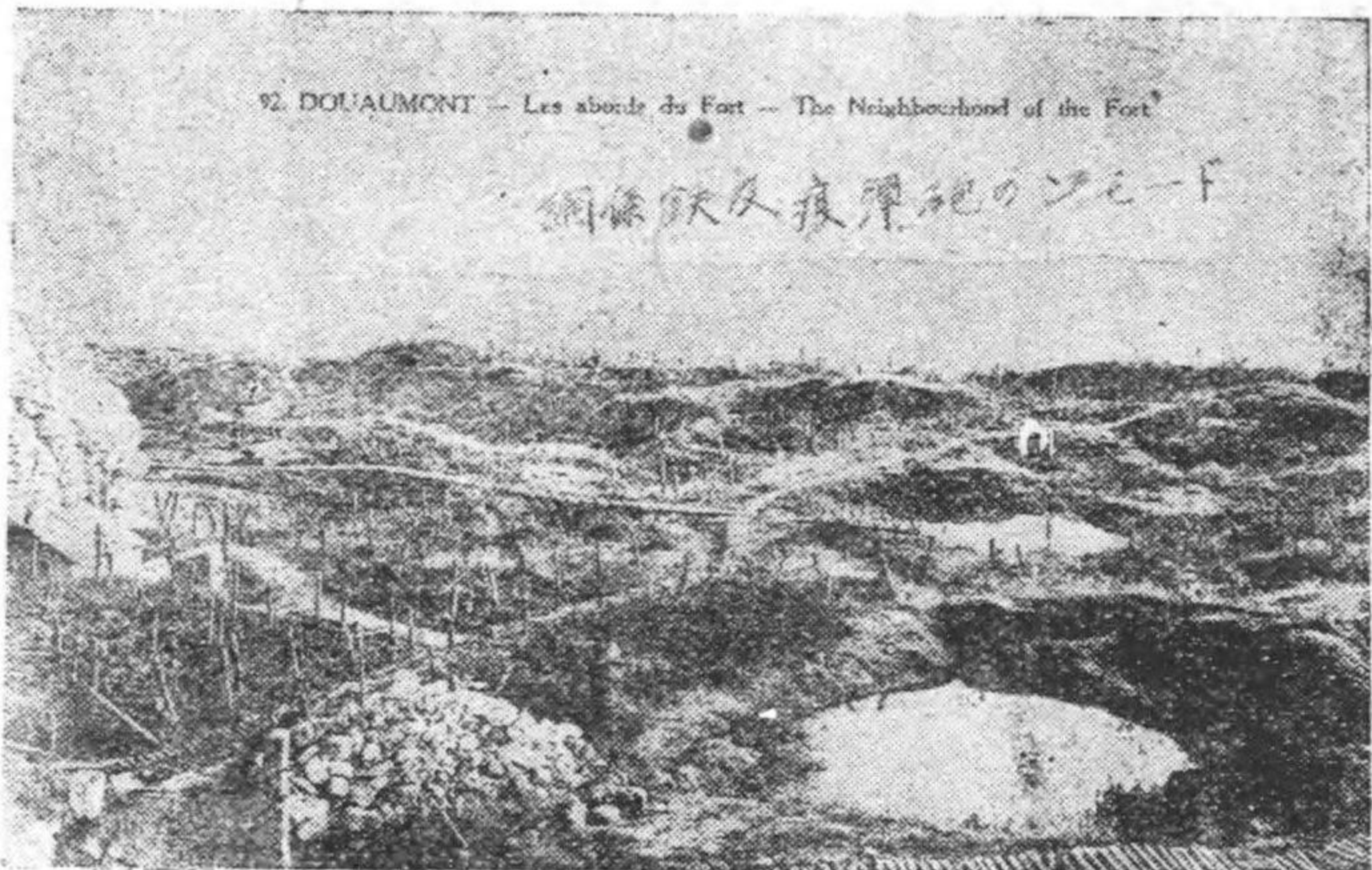
したるが爲め大敗してゐる。

唯毒瓦斯と焼夷弾とに對しては、大に研究する所が無くてはならぬ。さて、以上概述したるが如き地形を有する戦場に於て、彼我兩軍が、五ヶ年の長年月に亘り、惡戦苦闘一千萬以上の死傷と三千億の軍費とを費したことは今更夢のやうに思はれるのである。代表的戦場の二三を見學の順序に略述してみる。

(一) ベルダン

(い) あゝ！ 無慘

ベルダンは巴里の死命を司る要害の地、獨佛兩軍鎬を削つて勝つたり負けたりした最大激戦地、世界戦史記録破りの猛烈な砲戦を交へた戦場である。そこに立つと誰しもが先づあゝ！ 無慘なる哉と感ずるのは無理もない。實に戦



佛 蘭 西

場は蜂の巢の如くに弾痕爆址を止め、中には狸の罌丸八疊敷以上の大穴に血が流れ水が溜つて池をなしてゐるのもある、狸池は「欣然」の命名だ。

「欣然」はライン下りの後、コブレンツからモーゼル河に沿ひてメツツに出で、軍歌で覺へた『メツツの城の下りしは、永く青史を汚したり』の古戦場を吊ひ、直路巴里に歸る豫定を變更して、伊田(常吉)大佐と共に、ベルダンの新戦場を訪れる事にした。「伊」大佐は端麗紅顔の美丈夫、陸大の兵學教官、おまけに佛語はお手のものといふ三柏子揃つた秀才、行くとして持てざるを得んやだ。其「伊」大佐が凡べての交渉にあたる。背廣服三角鬚の「欣然」は素より啞のごとく黙つて濟してゐる。

お蔭を以て持てること夥しい。將軍と尊敬されるコソベたさ。ベルダンで有名な堡壘はドーモンとボオーとである。眞に最良の陣地丘陵上に築かれたる鐵筋コンクリートの砲臺、掩蓋機關銃坐、給水設備等、之を廻らすに十重廿重の鐵條網、破壊の跡。獨軍が攻撃した方の斜面地や谷底には白骨、錆びた鐵兜、貫通痕ある飯盒等が壘々として今尙残つてゐる。凄慘の風が血醒い感がする。

獨軍がベルダンの突破を敢行し得なかつたのは、砲彈の威力を過信したが爲であらう。急がば廻れだ。あれ丈けの曠野で充分なる餘地があるに拘らず、何故外翼包圍を行はなかつたか。一年の惡戰苦闘、何百萬の砲彈、七十五萬の犠牲は、餘りに高價過ぎる。併し兎に角最後に一度は陥落させたから

偉い。

(ろ) 名譽の魁小隊

ドーモン堡壘に先頭第一獨軍の足跡を印したのはラツトケー少尉(獨軍歩兵第廿四聯隊第七中隊)の率ゐる歩兵の一小隊である。壘前から退却する佛兵の後にくつついて、濛々たる砲煙と搖曳する朝靄とに紛れて、のこくと跟いて行つた。と眼前咫尺の間に鐵筒、只双眼鏡中に見現はれた堡壘監視哨の鐵筒が在る。夢か、非ず。驚喜、狂喜、考慮の違もあらばこそ、神速敏活、夢中で敵壘に突入した。其瞬間兩軍共、ボオーとなつたといふ事である。それではドーモンならぬか。吁！名譽の魁小隊。是が小隊であつたればこそ。

(は) 最後の一人と通センボー

守る佛軍、レーナル少佐の堅忍不拔には、同情の涙を惜まない。殊に最後の三日間は、全く飲まず食はず、加之毒瓦斯の襲來に依つて氣息奄々、心身共に喪失の状態で、最後の一人になる迄惡戰苦闘鳩の使命も空しく援軍至らず、力盡き進退谷まつて遂に捕虜となる。活動寫眞で見ると、レーナル少佐が敵に劍を渡す所があるが、まさかそうでもなかつたらう。併しあの状態となつて捕虜にされるは、寧ろ名譽とでも考へて居るだらう。國民性の相違と言ひ乍ら、我が國の武士道から見れば、あ

の最後迄の奮闘も其價值「零ナル哉」と言ひたい。東西相觸るる世の中とは言へ、捕虜降伏は飽く迄も耻辱として排斥しなければならぬ。「欣然」の如きは欣然として自決する。部下を虎穴に入るが如き特別の場合には密令一札を授ける。萬一の場合には悠々披見して處決すべきである。決して早まつてはいけない。

名譽の魁小隊が楔子となつてドーモン堡壘に龜裂を生じ、一擧に之を奪取、續いてポオーの占領となり、其所からフルリー村落を砲撃して、全部を破摧、歩兵はドシ／＼ベルダンの第二線に進撃したが、相手もさるもの砲戦では世界一を以て任じてゐる佛軍だ。四十糎の精銳砲を引張り出して反撃に次ぐに反撃。ペタン將軍の所謂 *on ne Pass Pas* (此處は通れない) と絶叫した時である。佛軍の精銳を遺憾なく發揮して、遂に獨軍を喰ひ止めた。そこで、獨軍の屁太張つた地點に建てられた記念碑が『獅子登る』である。要所々に建てられた記念碑が、西部戦線百八十哩に亘つて、形體こそ違へ實に二萬許りあるとのこと、攻勢も旺なり、防戦も努めたり矣。

獅子止めの碑標二萬や百合の花

(に) 番兵問答

ベルダン戦跡の衛兵は一ヶ月交代だといふ。歩哨以外の非番者は案内者を兼ねる。

問「一ヶ月交代は大分長過ぎるではないか。

答「長くてもいゝです、ベルダンの衛兵は。

問「何故

答「観光客が多いから、居ながら各國の美人を見ることが出来ます。それに案内の心付が大分這入りますから。

如何にもあつさりした答辯だ。

兵「貴方達は日本人でせう。

欣「どうして

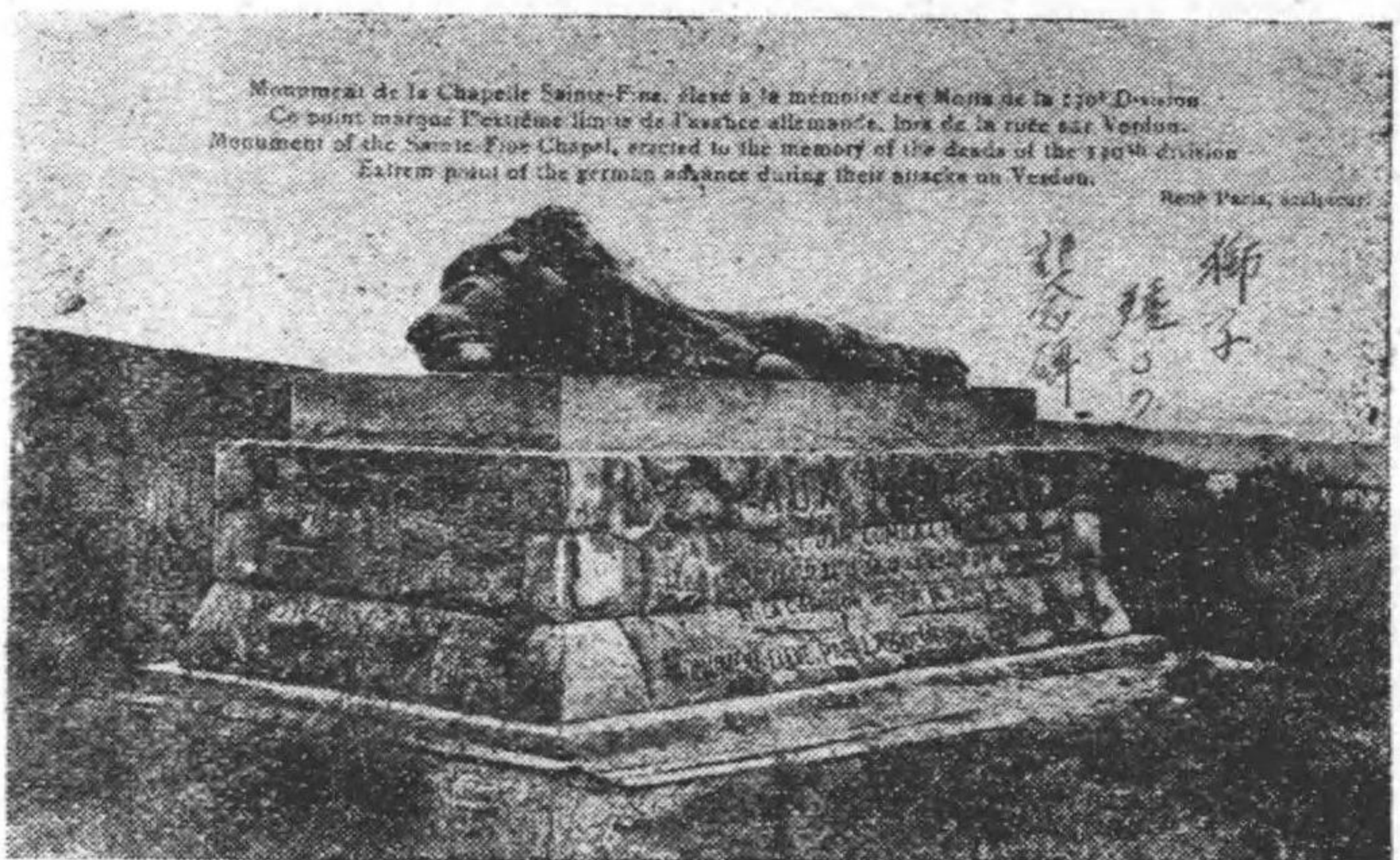
兵「日本人は、東洋人中で一番締りがある。

そして眼光に威力があるからわかる。

欣「お前は如何にも觀察がうまい。其の通り吾々は日本人だ。

兵「日本の將軍でせう。

と俄に敬虔の態度を加へ、懇切丁寧に案内してくれる。さ



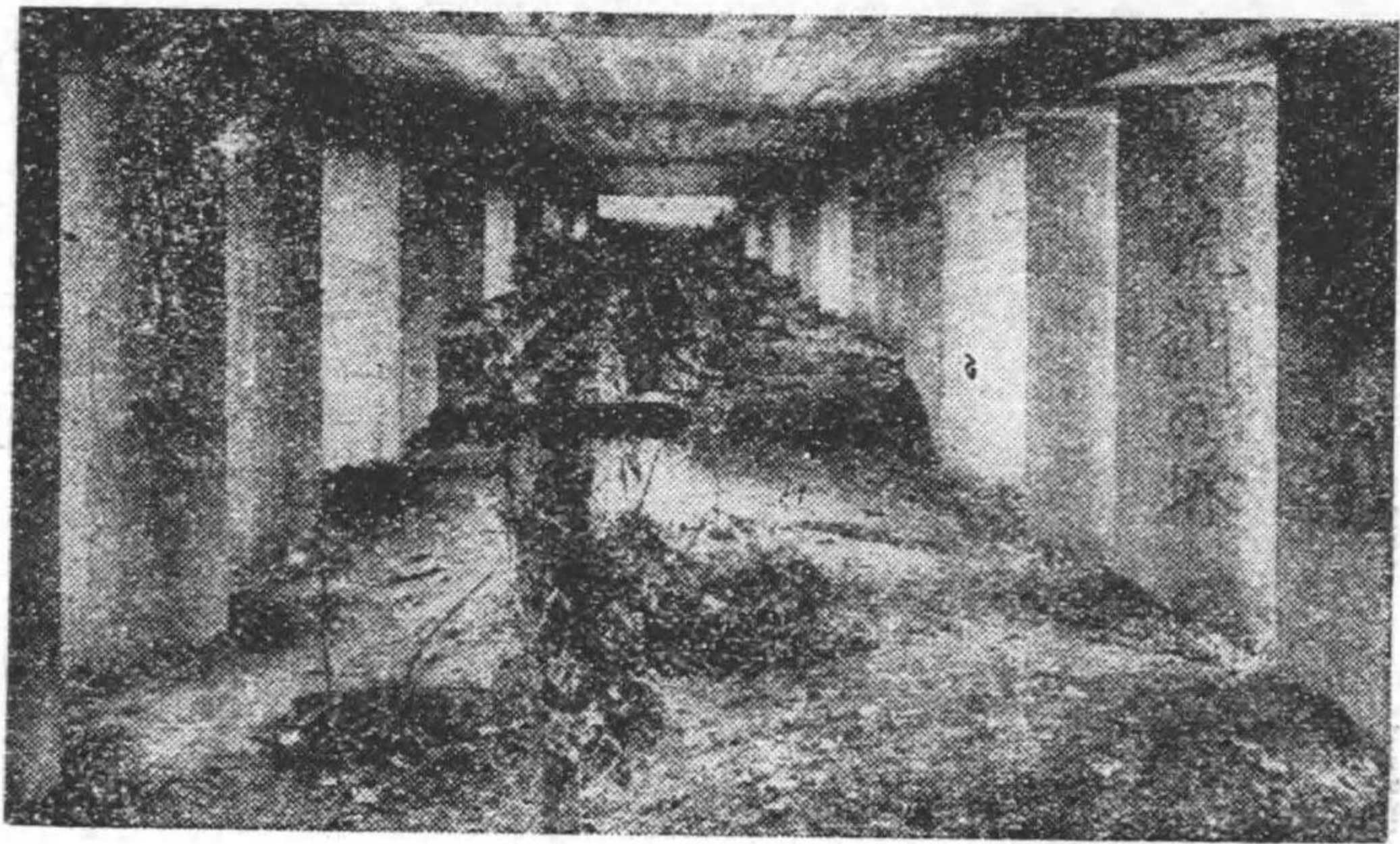
佛 蘭 西

うして彼は日本の軍人は銃剣術が強いといふ事を、身振よろしくあつて激賞する。お土産にと言つて發掘した銃剣を呉れる。心付を奮發せざるを得ない機轉のきいた愛嬌。

(ほ) 銃 劍 の 塚

「欣然」の悪文を振り舞す迄もなく、櫻井肉弾先生の『土の上水の上』を拜借して、蛙の説明を拜聴した方が大に助かる。

急ぎ足に蛙(先生の一時的ペンネーム)は「女の谷」(ラバンダム)の方へ行つた。コンクリートの大きな角い柱に平たい屋根が乗つかつてゐる。柱の間から中をのぞくと、何本もの銃剣が土の中から突き出てゐる。眞直に立つてゐるものもある。斜に傾いてゐるものもある。銃身が長く突き出てゐるものもある。銃口のみ見えるものもある。弓なりに曲つたものもある。折れたものもある。土の上に寝てゐるものもある。骨があたりには散らばつてゐる。十字架がところ／＼に立つてゐる。銃剣に花束を結んだものもある。萱が髪の毛のやうにのびて柱の外にのぞいてゐる。虞美人草の赤い花が嫋々した莖のさきに震へてゐる。手に銃を持ち立てるまゝ眠れるフランス兵——それは歩兵第三百三十七聯隊の二個大隊であつて千九百十六年六月十七日獨軍の砲彈の時雨を浴びて、塹壕の下に埋まつたのである。そして銃剣のみが土の上に取り残された。山のやうな土が飛んで來た。



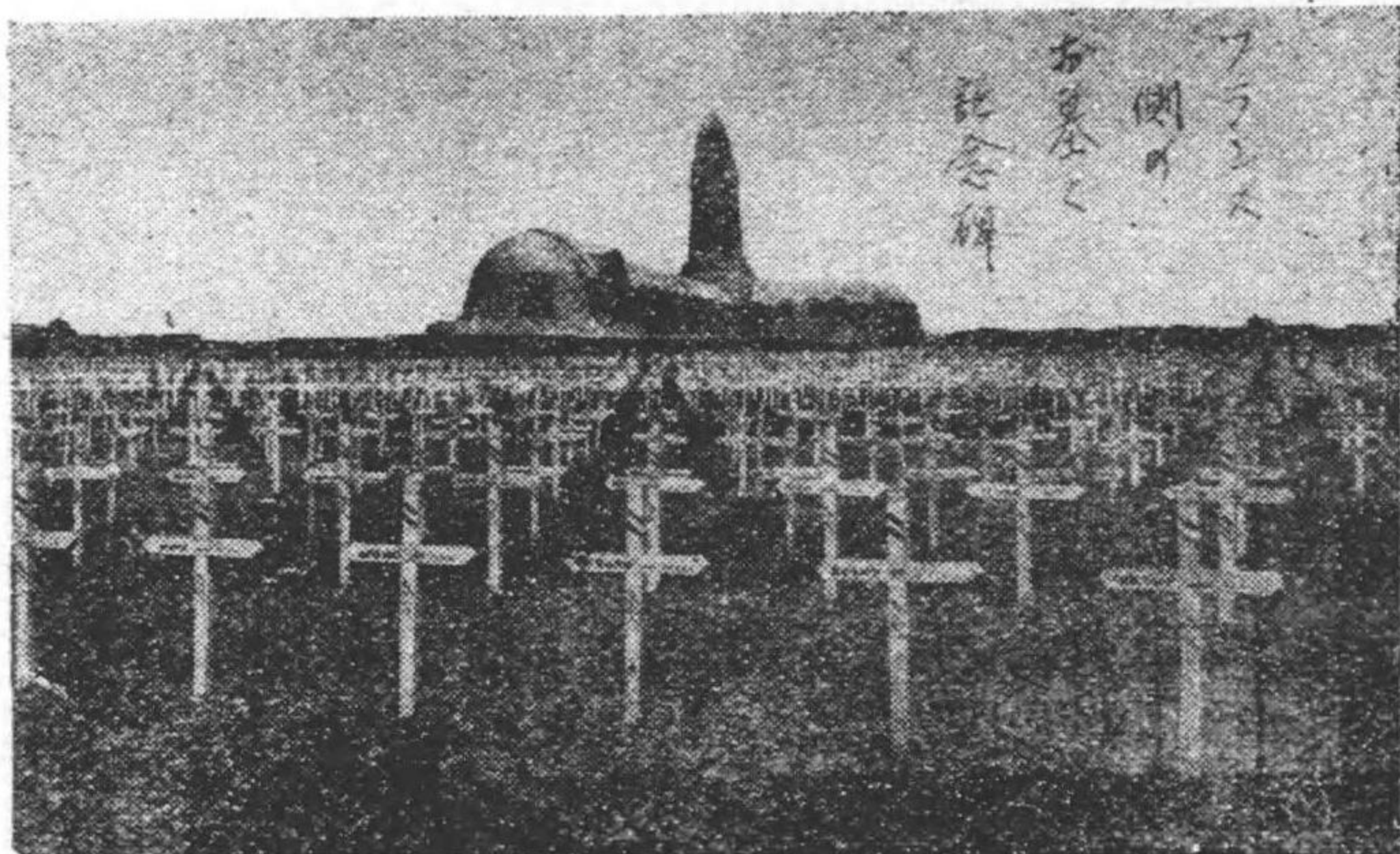
佛 蘭 西

その下に何人もが壓しつぶされた。しかし銃剣はその上にニヨキと突出た。屋根のやうな土が冠さつて來た。しかし銃剣はそれを破つてピカ／＼と笑つた。ちやが芋をぶつつけたやうに、彈片が鐵兜の上にはねかへつた。兜も隠れてしまつた。たゞ銃剣のみが土の上に薄の穂のやうに光つた。赤く錆びた銃剣の眞下に、銃を固く握つたまゝ、眼を閉ぢてゐる人がゐるのだ。蛙は、まはりながら、銃剣の一つ／＼に頭を下げた。塹壕は僅かに傾斜を持つて登つてゐる。塹壕といつても壕らしいものは残つてゐない。却つて地面より高くなつてゐる。昔ここに塹壕があつたといつても受取れぬほどである。この建物Ⅱといつても雨覆なのだがⅡの外の草叢の側に、十數個の小石で丸い輪を作つたのがある。その中に一寸ほど頭を出した二つの黒いものがある。見ると、それは銃のさきであつた。淋しきうに二つ

の銃が寄り合つて、銃口を空に向けてゐる。地下で二人は抱き合つてでもゐるのだらう。その二つの銃にも銃剣があつたのだらうが、アメリカの兵隊どもが抜いたのだとのこと。そして剣のない二人は雨覆の外に野晒しにされてゐる。雨の日は水が銃口から傳つて地下の人の胸を浸すだらう。地下の人が銃口から外をのぞいてでもゐさう。蛙はかがんで銃口へ眼をつけて中をのぞいて見た。眞暗だ。銃口からものをいつたら下から返事でもしさう。「オーイゐるか！ 何とかいへよ！」地下のフランス兵は、もう何もいはない。そして、十年も銃口を上に向けたまゝ立ちつづけてゐる。この二人だけが離れて淋しく立つてゐるのが可哀相になつた。大粒の雨が降つて來た。肉弾先生は軍人中の第一文豪、情景兼ね備はつた名文である。謹而恩借の高誼を謝す。偶然だが「欣然」も、野晒しになつてゐる二つの銃に對し、痛く同情に堪へず、あたりに咲いてゐた名も知らぬ草花を採つて銃口に挿して心ばかりの手向けをした。

無名の戦士よ、古今東西、戦友の情誼は厚いものだ。安らかに眠れ。安眠！ 佛國の戦友にはアメンと聞えるだらう。噫！ アーメン。

(へ) 記念碑と高野山
ベルダンに於ける、佛軍の記念碑と、お墓のある其の反對斜面には、今尙獨軍の骸骨が晒されて居



佛軍の記念碑とお墓



反對斜面の獨軍の惨狀

る。佛人に言はせると、手が廻らぬと言ふだらうが、我々日本の武士道から考へて感心出来ぬ。秀吉朝鮮征伐後、高野山の朝鮮人合葬墓、それは實に我國武士道の發露である。強い計りが武士でない。武徳なる哉。佛道我武士道に依りて益々光を放つ。南無大師遍照金剛。

(二) ランス

西部戦線異状ありだ。其異状の中心地たるランス附近は慘劇の痕跡鮮かに未だ放棄されてゐた。砲弾痕の地獄穴は蜂の巢のやうに並んで居る。半壊廢物の戦車は其所此所に轉がつて居る。銃劍の藪、兜の山、破壊燒棄された村落森林等々十里風醒新戰場の感、轉、戰慄を覺へしむるものがある。此日の戰場見學統裁官は、砲兵戰術の權威者細川忠興少佐、戦車の權威者吉松喜三大尉で痒い所へ手の届きすぎる指導振り。

シユマンデダムの高地「欣然」式命名による島田鬚流石は島田鬚嬋妍たる十八娘、佛獨兩軍必死の爭奪戰古今未曾有の慘烈を極めて、幾十度取つたり取り返されたりした事であらう。怪物戦車が歩兵砲機關銃を連發しつゝ、鐵條網を蹂躪し、塹壕を跳び越えて猛襲健闘する暴威、四十餘挺砲彈の物凄き爆裂、眞に天地を震撼し宇宙を暝濛ならしめた機械化戰の大威力が遺憾なく發揮された唯一の野

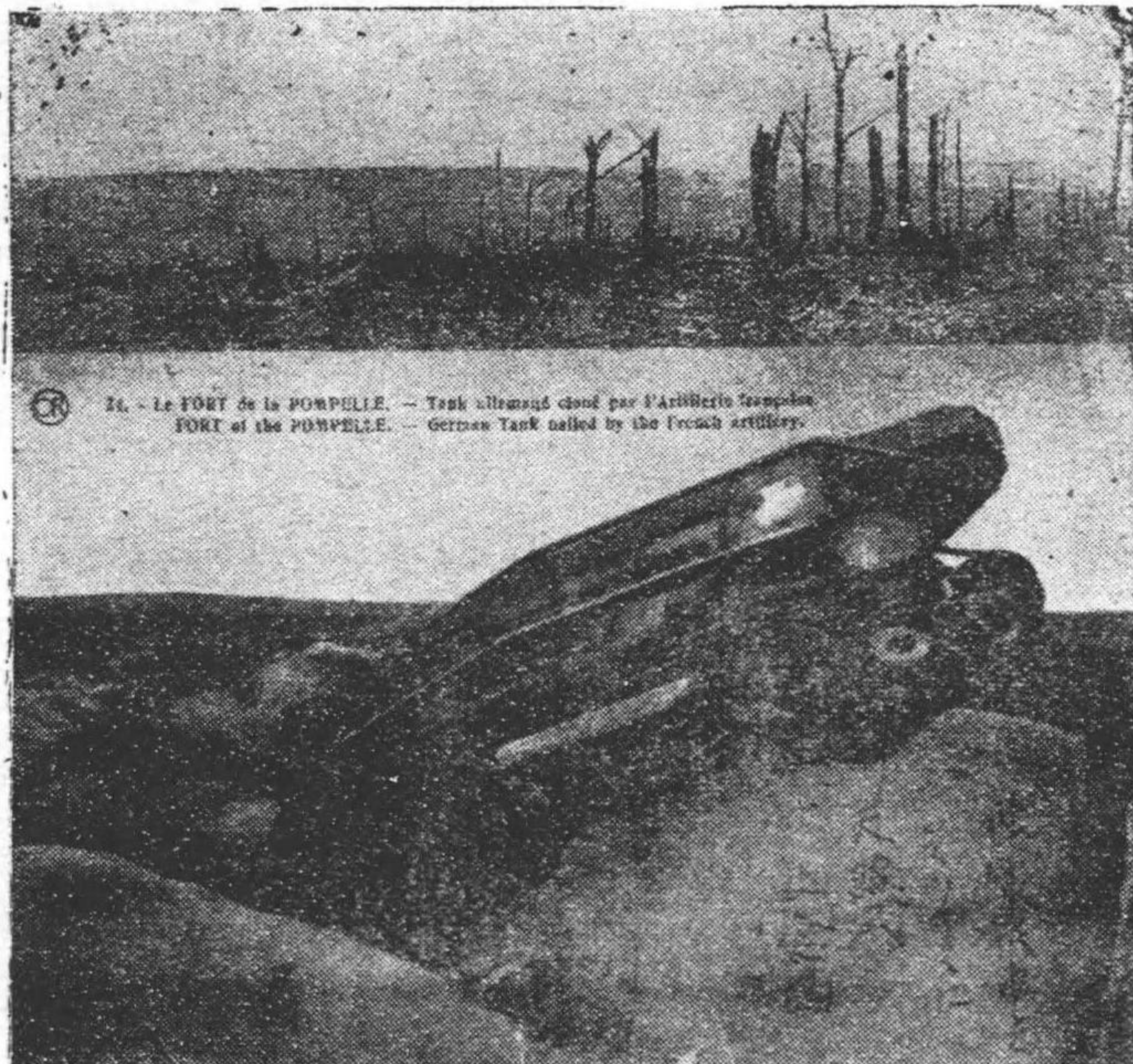
戰場として感慨無量である。

偶然にも獨逸の戰場見學者と火藥庫爆發跡の漏斗孔内に於て遭遇す。色こそ少し黒いが、清酒な貴公子然たる細川少佐は日・佛陸大の卒業者丈けあつて、流暢な兩國語使ひわけで現地講話の鮮明な事歩砲協同の極致は精神的和親、その現はれは肉彈と砲彈の連鎖だと喝破し又砲彈は幾十萬發射つても決して同一彈痕の所へは行かぬ。そこで攻撃歩兵は敵の砲彈痕を利用することを忘れてはならぬ等獨特な見地、本家の獨人達が吃驚仰天して居る様な次第であつた。

又ソワツソン「欣然」式命名總破産に於ては吉松大尉から戦車に關する現地講話を聞き、得る所頗る多かつた。就中戦車は攻防共に日本人に適して居るといふは動かす可らざる鐵則と心得た。即ちこちらで之を使



佛 蘭 西



用する場合は敵を徹底的に撃滅し盡さねば措かぬし、敵戦車の攻撃を受けて、即ち受身になつた場合には、日本人でなければ出来ない一大特色の肉弾戦で彼を捕獲破摧することが出来る等、彼と比較しての話に日の暮るるのを覺へなかつた。三人合作の駄句三つ

島田鬮^{シユアノダ}鐵砲も打つただる

枯木立^{コキタテ}こゝに寂しく十五年

總破産^{ソウハツサン}戦車空しく立往生

(三) イーブル

(い) 毒瓦斯

歐洲戦の新産物としてあまりに有名なる毒



碑 念 記 場 戦 毒 瓦 魯 ー イ

瓦斯を第一番に使用されたイーブルの戦場は、我邦に於ける最初の毒瓦斯研究體驗中隊長であつた「欣然」に取つては、見遁すことの出来ない關係に有る土地だから、吉松大尉に東道の勞を煩はして入城したのは當然の事であつた。

イーブルは佛白國境に近い白耳義の一小都市であつて、千九百十五年四月二十二日、獨軍が始めて毒瓦斯を使用して、英佛連合軍の約三ヶ師團の兵を慘殺した創意と急襲の好戦例を戦史の上に永遠に印象づけた、忘れんとして忘れることの出来ぬ新戦場である。

イーブル附近に於ける兩軍の對峙は、一年有半に亘り、膠着した陣地戦であつて、殆ど機動の餘地の無い程、兩軍が接近してしまつて居た。敵味方の距離は近きは僅々八十米、遠きも三百米にのぼらない。「欣然」の視察した頃は散兵濠の跡はすっかり取り拂はれて、所々重火器機關銃

歩兵砲等IIの掩體が頑丈な鐵筋コンクリートの殘骸を横へてゐるのに依つて纔に陣地の線を想像し得る程度であつた。問題は一寸外れるが、歐洲戦争で最も猛威を逞うした機關銃の陣地が、此掩體の配置から觀察して、最良の位置でなくして、第二第三位の場所に築造せられて居るといふ事である。言ふ迄もなく、最良好陣地は勢ひ砲兵の目標となり易くて、逸早く撲滅の憂目に遇はねばならぬから、極端と思はれる程射撃第一主義を放擲して遮蔽第一主義を取つたものであらう。恐らく實戦上より得た教訓で、陣地にある射撃専門の機關銃としては蓋し當然な歸着である。

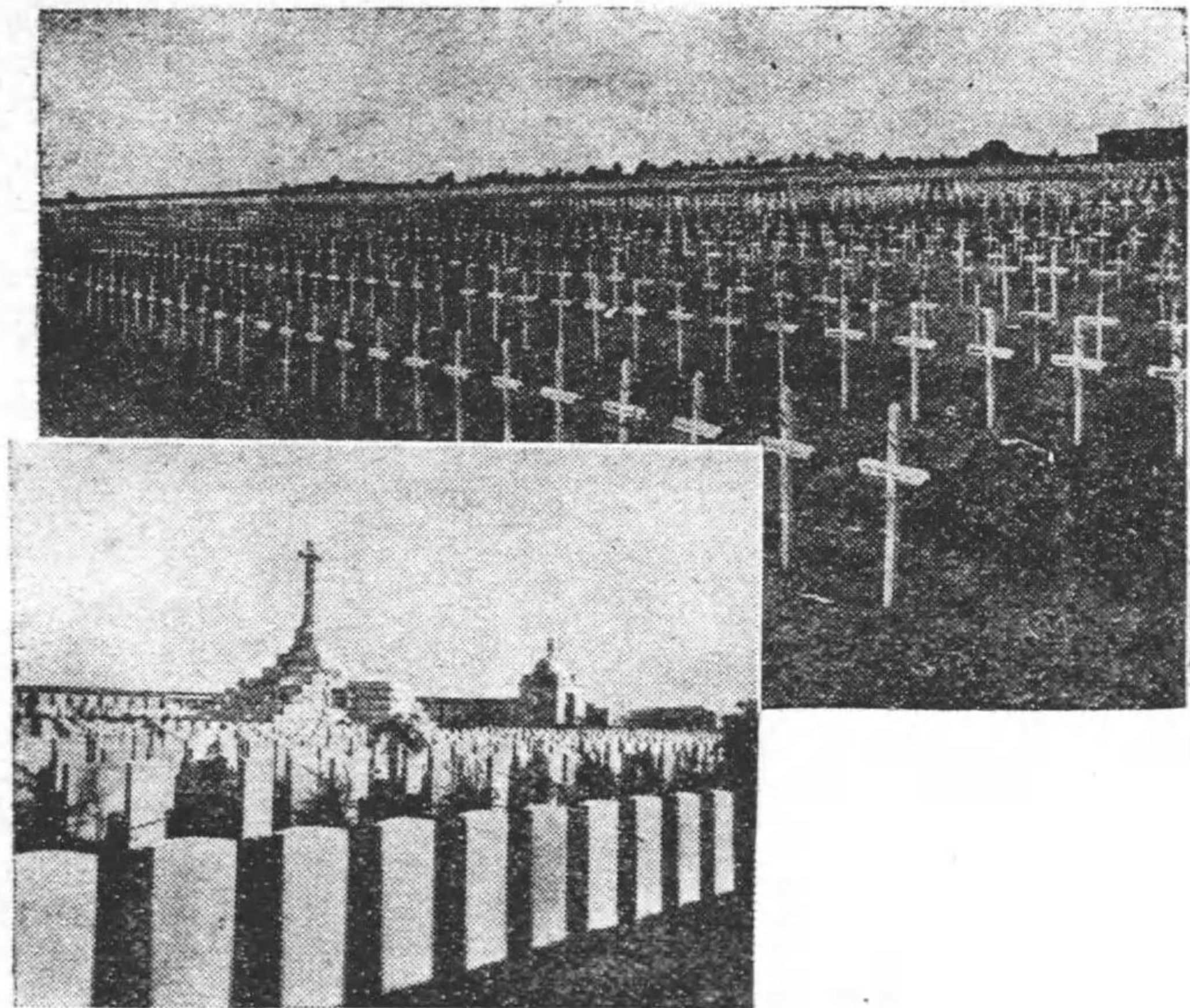
さて、毒瓦斯の話に立戻つて、最初獨軍は風速、風向其他の氣象を研究して放射筒を以て敵軍に毒瓦斯を送つたのである。聯合軍の方では漫然と好きな煙草をよこすではないか位に考へて傍觀して居るところりくと窒息慘死すること、銃砲以上の威力を逞しうするので、驚愕の極志氣忽ち阻喪してしまつたのである。併し流石に英軍だ。毒瓦斯の何物であるかを調査研究の結果、五月七日といふほんの二週間後には防毒面を被らせて之に對する防護の方法を講じてゐる。

一方獨軍の方では風向の如何によつて使用を制限せらるるやうな放射筒に頼つて居ては駄目だといふので、砲弾に毒瓦斯を填めて敵陣へ送る迄に發明の地位を進めた。所謂瓦斯彈である。將來戦に於ては飛行機による瓦斯彈投下が想像され得る。現にソ軍では盛にその練習さへしてゐるのである。嗚

呼！毒瓦斯彈の投射、いかに其慘害を極める事であらう。瓦斯の種類について言へば、最初使用されたものは窒息性、催涙性、催嘔性等であつたが、之に對する防護の術が段々完全に講ぜられるので、最後には被服を透して皮肉を糜爛せしめる様な猛烈な瓦斯をさへ發明した。世之をイーペリットと稱するのは毒瓦斯最初の戰場イーブルから來た名前である。

斯やうな毒物性のもを使用して敵を殺傷するといふ事は國際公法上に於て勿論禁止せられ居ることであるが、其禁止が何の程度まで守られ得るものであらうか。「欣然」が視察した歐洲の軍隊の何れもが皆、將校以下夫々防毒面を携行して教練演習に出場してゐる。特に甚しい訓練振を示して居るのはソの軍隊である。毒瓦斯を使用する敵國を豫想すればこそ、防毒面を携行するのだ。外交的辭令上、わが國は毒瓦斯を使用すると公言する國は一も無いが必ずや使用するであらう事は公然の祕密である。否昂然として研究し公然として訓練してゐる國がソ聯である。忘れてはならないソ聯は我國の接壤國であるぞ。毒瓦斯は勿論、傳染病の微菌を撒布するとか殺人光線を發射するとか、極祕裡に研究さるる化學戦は實に獍猛を極めてゐる。そして其等の實施が可能性あることを否定し得るものは誰もあるまい。

そこで將來戦に對する覺悟は、いよく益々科學の研究を進めて、化學の戦闘に於て一步も譲らぬ



墓 地 ノ 一 部

優秀さを保つと同時に優越せる精神氣力の鍛練が肝要である。毒瓦斯記念碑の前に佇立して、以上の冥想に耽ること多時。その毒瓦斯の犠牲となつた將兵の靈を吊ふ可く墓地ある方へ重い足を運んだ。

(二) 墓地の整理

イーブルの戦場を見學して、最も感激したものに墓地の整理が有る。戦場の墓地は何所へ行つてもよく整頓されてゐるが、特に此處のは交戦各國の墓地が整然として言はゞ墓地博覽會の一部でもあるかのやうに清く美しく列んで居る。祖先崇拜を誇りとする我邦人として、此墓地に對して如何の感を有つか。

お墓は恰度耕地整理を見るやうに、直線美を發揮してゐる。墓碑の前の段が花壇、其前が芝生、芝生の前が通路である。純白な墓標の前に、手向けの花の紅を漲らし、緑布を敷いたやうな芝生と相對して、何とも言へぬ感じが浮ぶ。配合といひ手入れと言ひ、殆ど間然する所なしだ。お墓は陰氣なものと習慣づけられてゐる日本人の眼には、けばくしい感があるかしらぬが、先祖の佛壇は金色燦爛としてゐるではないか。此所に父兄が眠り、此處に戦友が休らつてゐると考へた時、此壯嚴華麗な極樂淨土に、そぞろなる涙を禁じ得まい。

各國の墓地には夫々其國人のお墓守が居る。多くは母國の廢兵達である。父を夫を吊ふ可く、近い佛白は申すに及ばず、野越え山越え海越えて、遠く加奈陀あたりから墓參するものが來るといふ。『父よ安かれ、子は名譽ある戦死者の遺族として尊敬せられつつあり』『最愛なる我が夫よ、安らかに眠り給へ』等いづれ涙の種ならぬはなき吊辭の切々たる哀音を聞けば、花も涙を濺ぎ、芝生も鼻をすするであらう。

明治天皇御製

かぎりなき世に残さんと國の爲たふれし人の名をぞとどむる

國の爲命をすてしものふのたまや鏡にいまうつらん

お墓の區域の極めて廣大なること、而して何萬といふお墓の集團がザラにあるのだから、驚かされる。お墓は靈地として永遠に保管せられ、父祖の功勳は長久に光を放つてゐる。そこに、戰場と母國とに微妙な因縁が結ばれ、切つても切れぬ關係にあることを眞劍になつて熟考してもらひたいのである。繙て日清日露の戦役に名譽の戦病死を遂げた將兵の、海外現地に於ける遺跡如何と想到する時、遺憾の情禁する能はざるものがある。旅順安東其他に於ける數基の表忠塔のみでは、皇威を發揚し國權を伸張せしむる爲、屍を滿洲の野に曝らした勇士を遇するに於て、あまりに貧弱過ぐることは無いだらうか。

要所々々の表忠塔も宜しいが、戰場々々に墓地の三十三や八十八位あつても好からうではないか。滿洲の地に、歐洲のそれの如く戰場毎に墓地即靈場が設けられ、西國巡禮、四國通路の子孫國民が、絶えず足跡を印すると仮定して見よ。接壤國に對する國防觀念を養成する上に得る所多きは勿論、旅順大連の回收などいふ増長心を、今日の支那人に起させないですんでゆかうではないか。大陸發展の上に弘法大師の徳にだも及ばなかつたことを遺憾とする。大陸發展といふと言辭が穩當で無いといふかも知らぬが、未開無告の民に對して、先進優秀なる國家が、誘掖保護を與へて其開發を促し民福を増進せしむるを指す意であつて、所謂皇道の宣布である。臺灣朝鮮が我國の光被によつて如何に平和

を謳歌してゐるかを考ふる時、原始以來滿蒙の土着民が侵略に喘き横暴なる軍閥の苛斂誅求の爲め塗炭の苦惱に沈みながら、未開のままに蠢々たるを憐まぬものがあらうか。此無告の民を進化せしむべき天の使命を帯びてゐるものは果して誰であらうか。日本が滿蒙に於ける既得權を得てから何年になるか。滿蒙民の進化が一年遅るれば一年十年おくるれば十年、天の使命を苟且にするの懈怠を免がないでは無いか。正義人道の爲に彼の無援の民を救ふべく、彼地に於ける僅少の志士の活動にのみ委して置くべきであらうか。國家として進出の機會を得なければ個人として二男坊三男坊共、大に彼地へ進出して、或は教化の上に或は産業の上に、活動すべきではあるまいか。支那人と肩を並べて商賣をしたり、労働をしたりといふ生濫い方法では駄目だ。特種とか權益とか、犬の遠吠だけでは何の役にも立たぬ。人道の爲には先づ主動の地位に立ち、彼等を指導して着々實行の實を擧げなければならぬ。是を妨げ是を損ふものがあるならば、人道の敵であり、文明の仇である。國家は宜しく之に對して交戦をも回避せぬ覺悟が無くてはならない。天の使命を怠るものは、天の責罰を免かれない。(滿洲建設前)の感想

大分協道へそれたから、話を本筋へ轉回する。從來日本軍くらゐ戦地に於ける戦病死者を丁寧に取り扱ふものはない。時には屍體收容の爲に戦鬪をも回避しないこともある現状だ。而して其遺骨を分骨

して故山へ納めるといふことも、國民精神上棄て難い美質である。それには日清戦争後滿洲の野に残したる遺骨が支那人により發掘された苦い経験もあるが、それはそれとして遺骨の大部分は其戦地に合葬して、イーブルの墓地のやうに、各其戦場に立派なお墓とお墓守を置き、戦友子孫等の巡禮通路の要地としたならば、其土地に對する親しみの情が、佛道から見て又將來の發展に對して如何に役立つ事であらう。かくてこそ祖先の流した血が無益でなかつたことになる。否永遠に其所に止る祖先の靈は大陸發展の魁として、永遠に處を得ることになるであらう。

滿洲國建設第一次の全權として臨み、生を任地に畢りたる。人格神の如き武藤元帥、上海軍司令官として不逞の凶弾に瘞れたる。可惜英傑の白川大將に對し、各其任地に神社又は銅像を建立することは國民感謝の表徴として、最も恰當且つ緊要の事と信ずる。「欣然」は、日本國民感激の一時的空騒ぎを敢て拒否するものではないが、反面に於て、眞摯に或者を憫むことを忘れてはならぬと要望して止まぬものである。附記。櫻井徳太郎中佐提唱の「一日戦死」忠靈顯彰は全然同意である。

(は) 模範的な墓の準備(玉松臺の墓)

青森市の北六里、外ヶ濱に蓬田と云ふ一小村が有る。此處の在郷軍人は明治三十五年以來、在郷軍人團を組織し、心竊かに萬一の奉公を期してゐた。越えて三十七年二月、日露開戦の幕は切つて落さ

れ第一次の動員が令せられて後は、手ぐすね引いて召集の日を待つたが彼等の順番は中々に來ない。併し最早師團の出征も遠くはあるまいと思ひ、舊三月二十五日(新曆五月一日)菅公祭の日を卜して村の海岸、玉松臺と云ふ姿雄々しき松のある臺に集る團員六十七人、副團長豫備騎兵軍曹久慈政吉(團長は村長坂本與作)颯然起つて疾呼して曰く、吾人身を軍籍に置く者、國家有事の秋、一命を鴻毛の輕きに比して粉骨碎身盡忠報國の赤誠を發揮するの覺悟なかるべからず。動員令降下は目夕に在り、依つて本團則「總動員の場合は本團を解團す」との條項に基き茲に本團の解團式を舉行す。と劈頭先づ宣言し、更に語を進めて曰く、吾人は今日に至る迄本團の向上發展を計りしも、要は今日あるが爲に外ならず。されば軍人の常として、戰場に臨み生還は斷じて期せざる處、我等は固より滿洲の露と消ゆべきも、魂魄必ず此處に歸り來り、永遠に國家を鎮護するの念なかるべからず。滿洲の野を洗ふ江河の流も、外ヶ濱邊の渚に通はん。老松の翠滴る玉松臺は正に天下の勝地なり。吾人の最後は既に決する所、此處を我等の墓地と定め、魂魄永く此樹下に眠らんは如何と發議した。衆一語を發せず。唯松籟の颯々たる血涙の潜々たるのみ、最後の決心は無言の裡に定つた。解團即生別の式は終りを告げ一同南面して遙に皇居を拜し 兩陛下の萬歳を三唱したる後、滿場一致副團長の提議を可決した。工事は旬日にして開始せられ、三日にして終つた。即山を削り堤を築き道を開き、木石

を布置して墓地の基礎を作り、不期生還の誓を現實にした。在郷軍人は各々自己の墓所を選定して、其意氣の悲壯悲烈當るべからざるものがあつた。村民も亦其至誠に感動し、坂本村長の發起で毎戸手製の料理を携へ一人残らず蓬田小學校に相集り、一大送別會を催した。席上久慈副團長は謝辭を述べて曰く。

我々は既に誓約して不期生還の墓地を選定した。併し敵は世界の大国である。吾人が滿洲に死骸の山を築くとも、最後の勝利は期し難い。國民は宜しく擧つて軍隊を後援すべきである。北米合衆國の獨立を見よ。敗甲疲兵と雖も、全國民の團結は國家獨立の因を爲したではないか。我國小なりと雖、老若男女、擧國一致して對敵行動に出んか露國の強大も恐るゝに足らない。況や二千年五百年來、嘗て外國の侵略を蒙らざる我大和民族の樂土に於てをや。

と言々句々人の肺腑に徹し、軍人は勿論、村民も總立となり、中にも正法院の住持は七十餘才の老齡にも拘らず、我も士族なりと法衣を翻りて躍り上り 陛下の萬歳を唱へた。

斯くて六月七日動員の令せらるゝや。一同意氣天を衝き、村の青年は白鉢卷、白袴に身を固め、六里の行程を大旗押し立て、青森驛に送り、世人の耳目を驚かした。越えて明治三十八年一月二十五日黒鴻臺に於て、久慈軍曹は重傷を負ひ、軍旗を拜して戦線を退いたが、途中附添の兵を強いて戦線に歸

へらしめ、空しく黒鴻臺邊の露と消え、其他六十有餘人、或は死し或は傷き、無事に凱旋せし者は一人もなかつた。實に前代未聞の壯烈事にして、和魂の結晶、士道の精華、殆ど稱讚の辭を知らない。大正十年、村の有志者相謀り金を醸めて玉松臺墓地を改修し、之を永遠に傳ふるの道を講じた。而して此處に葬らるゝものは久慈軍曹の鬚と其他の遺骨とであつて、村民は事有る毎に此處に會して其士氣を鼓舞し、其士道を砥礪して居る。「欣然」は之を實行の魁として禮讚するの外、他に辭を知らない。戰場と故山の模範的墓地、あやかりたいものである。

(四) 兩將軍の握手

「お父さま、兩將軍の握手、知つてる？」

「何を言ふかい、お父さまは軍人だよ！」

兒の愛に浸り乍ら、稍嘲笑的の面持で、其質問に對する「欣然」

「では話して頂戴

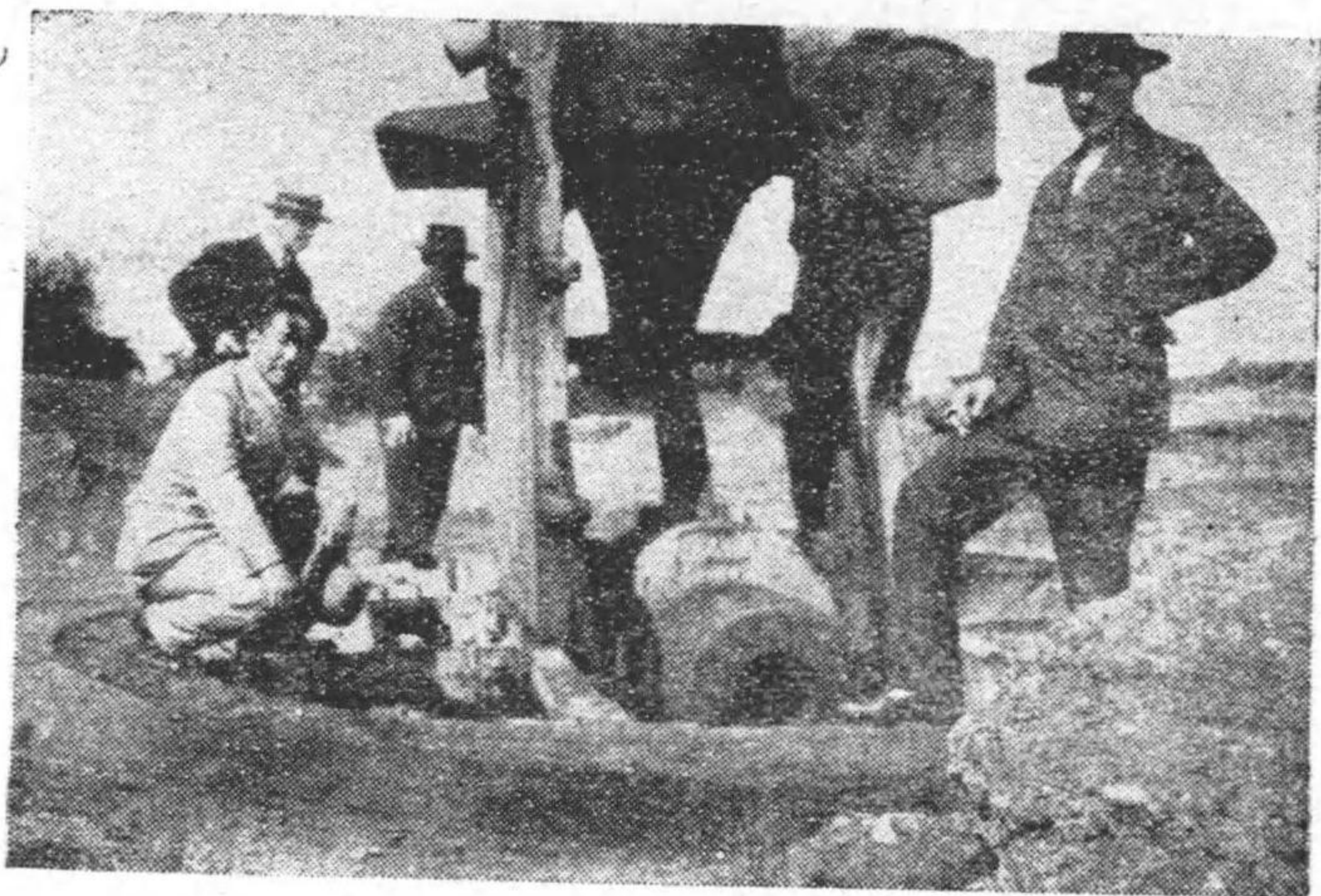
」ウム話してやるから靜かにして居なさい。

兩將軍と言ふのはネ、一人が乃木大將で一人がステツセル將軍……………。

「違ふく、夫れは水師營の會見だ。
 「違ひはしないよ。その水師營で乃木大將とステツセル將軍とが握手したのよ。
 「お父さまは舊式！ 兩將軍の握手と云ふのはネ、エンミツヒ大將とレマン將軍とが握手したの
 「ナニツ、生意氣な、イヤ偉い事を知つてるじや無いの、誰に聞いた？
 「聞いたんじやない。國語讀本の第九課で習つたの！
 「そうかい、見せて御覽

「成程、是れは參つた。お父さまは舊式だつたナハツハツハ……………」
 家庭でこんな問答をした記憶が動機となつて、一日白耳義のリエージュ要塞見學に、吉松君を誘つて
 出かけた。佐藤白耳義大使の紹介でリエージュ駐在名譽領事が熱心懇切に案内して呉れたのは感謝に
 堪へない。

さて此戰鬪に於ける獨白兩軍行動の概要は、省略するとして殊勳者はエンミツヒに非ず。其參謀長
 で、第十四旅團を指揮したルーデンドルフである。ルーデンドルフは、嘗て獨軍の作戰課長をしてゐ
 た時代に、リエージュ市の中央公園内にある指示標（各砲臺に至る距離方向が明示してある）を調査
 して、手牒に記入してあつたか如何か知らないが、永世中立の平和國白耳義の事である。今日も是が



獨軍のめつた破壊せられたるP砲臺

ちやんと残つてゐる。ルーデンドルフは當時旅團長と
 して、他の旅團長が愚圖ついて居る間に率先入國、此
 公園に大砲を据へ付けて指示標に因つて砲をぶつ放し
 たのである。命中^{あた}の命中^{あた}らないのつて、文字通り百
 發百中、就中其一彈が火藥庫に命中して、其爆發によ
 つて、破壊顛覆したのが、あの有名なP砲臺である。
 而も其遣り方は、日本海軍の旅順背面攻撃計畫を踏襲
 したのであるといふ話である。

戰術上の批判は別問題として、「欣然」が茲に一大絶
 叫したいのは、我が國語讀本の編纂形式である。國語
 讀本卷の九第九課に『兩將軍の握手』として、エンミ
 ツヒ・レマン兩將軍の事蹟が記され、第十課に『水師
 營の會見』として、乃木、ステツセル兩將軍の會見が、
 韻文で綴られて居る。前者は難解の文字の多い文語文

後者は比較的易い韻文。そこで兩者の事蹟が殆どよく似て居る。だから小學兒童の單純な頭には、多數の時間を費して、綿密に教へ込まれる前課にのみ深い印象感銘を得て、次に來る平易な課は存外あつさりと済ましてしまふ。年代の相違は教へられても、直觀的に乃木大將がエンミツヒ將軍を眞似たかのやうに、單純な頭で解してしまふ傾きがある。是が乃木將軍を誇りとする大日本帝國の小學校の教科書だから驚く。「文部省の馬鹿ツ」と、どなりたくなるのは「欣然」一人ではあるまい。況や戰鬪の難易から言つても、旅順とリエージュは兎ても比較にならぬ程度である。何を苦んで、エンミツヒとレマンを態々持ち出して來て、日本の兒童を苦しめるのか、怪訝に堪へない次第である。敢て西洋崇拜熱を煽るのだとより外見られぬではないか。

願くば宏量なる文部省よ、速に本課其他の歐米ものを削除し、代ゆるに奉天戰と日本海々戰とを尋常小學讀本に加へよ。日本の今日ある全く日露戰役の御蔭ではないか。然り國粹保存の大局より見て斷然改善すべきである。

八、英 吉 利

(一) 背 虫 の 學 校



ウインザア―宮殿の近邊である。古いく舊式の建物である所の學校を、出つ入りつする學生らしい、モーニングにシルクハットを冠つたのが、何れも背丈の低い、いはゞ背虫男といふ風に見える。英國は軀體男せひしの多い國だ。「欣然」が背虫の學校と早合點したのも無理はあるまい。だが近づいて能く見ると、背虫所か皆、紅顔清爽なる少年學生であつた。制服が制服だから、遠く眺めた所、背虫の紳士とお見受け申した迄のことであつた。第一印象がそれであるから、好奇心を

そゝられて參觀する氣になつた。何ぞ知らん、それが有名なイートン學校であらうとは。「欣然」たるもの迂濶千萬といはなければならぬ。

舊慣を墨守し、因襲に活きる英國に於ても、此學校ほど徹底した保守的な所は珍らしい。創立は貧家の人材を養成する目的であつたらしいが、英才傑物が輩出した所から、追々に富豪顯官の子弟が多くなり、従つて入學競争が劇甚で、今日では誕生當時から申込んで置いて尙且つ入學が出来ないといふ盛況。劍橋ケンブリッジや牛津オックスフォードの秀才は、殆ど此イートンの出で、現今英國各方面に活動してゐる經世家は大半此學校の産出であるといふに至つては、背虫の學校の權威も驚嘆に價する。

イートン學校はキング、ヘンリー六世時代（一四四〇年）の創立にして今より約五百年前である。本校は歴代皇室と深き關係を結び、恰も我國に於ける學習院の如くして、其格式や英國隨一に擧げられて居る。

校舎の建物が古いと同時に、内外部に於ける備品什器何一つとして新らしいものは無い。机腰掛など、一々其製造購入の年月が記載されて居るが、皿が一五一五年、机が一五四七年と言つた様な次第で、二百年三百年以前の者が頗る多い。従つて整頓調和など殆ど成つて居ないが、教授上の便不便利も、此机では吾等の祖先誰々が學習した、此腰掛には先人誰々か腰かけたのだといふ、歴史的背景

の有つ精神的感化の力の方が貴いものだとする此學校特色の第一。

學校の周邊には小寄宿舎が散在してゐる。一舎に十人以内の學生を收容してゐる。そして寄宿舎の舎主は何れも老教育家の隱居仕事といふ格で、寄宿舎一つ一つが完全な家庭的學校になつてゐる譯だ。丁度我國で言ふと維新前の吉田松蔭先生の松下村塾、昭和の今日で言へば「欣然」の知つて居る所で、豊橋の丁子市川先生の時習舎の如しだ。而も寄宿舎の壁畫に、日本の歴史繪小楠公像が尊重されて居るが感心の外はない。寄宿舎といへば數十數百人を收容して監督不行届の惡習見習所であつたり、營利的下宿で教育の何者たるを知らぬ俗人に、可愛い子弟を預けて安然たる、我國の現況を之に比較して見ると、肌粟を生ずる次第だ。寺小屋式の長所を採用せる之が特色の第二。

學生間の各自制裁が峻厳で、學校といはず寄宿舎といはず、鐵拳の制裁が行はれてゐる。イートン學校は、紳士の養成所であり、國內唯一の權威ある學校であるといふ自尊心を中心として、それを傷けるやうな學生若くは行動に對して、彼等が加へる制裁は神聖なものと信じられてゐる。嘗て一學生が在學間一度も鐵拳の制裁に遭はず、平穩無事に卒業の期が近づいた。一日其學生が泣いて教師に訴へた。私が今日迄一度も制裁を受けなかつたのは、私が到底本校學生として巢立つに足りない鈍物であると思はれてられた爲であらう。一度も擲られなかつたといふ事は、私の在學史を傷けるものと悲し

みに堪へない。願くば、私に鐵拳の御見舞を與へられるやう、御諭示に預りたいと、嘯啼鳴咽すずりなきしたといふ有名な話もある。「欣然」は軍人だから殺伐でいふのでは無いが、ブン擲るといふ事は、理解以上の權威を有つ場合のあることを信ずる。自分が悪かつたと其懺悔を感じるのは、諄々と長い御説諭を頂戴するよりも、太涙一滴コツンの方が簡單明瞭である。教師の毆打事件や、鐵拳學生の諭示退校問題が新聞紙上で云々されるやうな幼稚な事では駄目だ。親切の鞭や、自重自尊の拳が、誤解されて世の問題となるのは、擲ぐる方が眞に出來上つて居ない反響かも知れないが。

憎うては叩かぬものぞ雪の竹

是が特色の第三。

教育上此學校が日本に紹介されてゐるものはあるだらうから、くどくは言はないが、古典的な雅致ある學校丈に、日本の寺小屋式教育の美點・長所を克く吸収同化して居るものと觀察して嬉しくもあり、又情なくもある。劃一主義の我國の文部省よ、營利的な軟弱の學校よ、早く！一日も早く！國本に歸れ！

(二) ベリー・グウ(征英空)

英國陸軍中央飛行學校は、主として教官を養成する學校だから、英人は世界一の飛行學校と誇つて居る。設備萬端實に堂々たるが上に其見識の高さ、校長が吾々見學團に向つて説明して呉れる語調から態度、懇切を通り越して、まるで幼稚園兒の扱ひ、「少々風は強いが、オンリー・ワン」ただ御一方でも搭乗希望者があれば」などといふ調子なので、「欣然」聊か癢かゆくにさはつた。何狗鼠なぐねツ、日本だつて設備及機械の點に於ては幾十歩を譲るか知らないが、操縦法其者に至つては、氣を以て之に當る。一朝有事の際、決して汝等に負けるものかと、例の敵愾心がむらくと頭を擡げて、率先同乗飛行を志願に及んだ。ふと、飛行中所感を書いてみやうと考へ、繪葉書の有無を尋ねた所、無しといふ。そこで集會所の印入便箋を頂戴して衣囊に收め入れ、飛行服を著け、パラソル否落下傘を背負つて座に着いた。搭乗席は、教官用被教育者用の二つに別れて居て、「欣然」は其教官用の方へ乗せられた。英會話の權威古城(胤秀)大佐が、操縦中尉の言を取次いで。

此教官席に在る操縦桿は、今操縦者の用ひつつある操縦桿と同一の作用をなすものであるから、萬一飛行中此操縦桿に觸れやうものなら、兩桿混亂して、機は非常の事變に陥る懼がある、即ち墜落の原因となるから、決してく此桿に觸れてはいけない云々

と説明して呉れた。サア面白くなつて來た。先刻來ちりくして居た癩の蟲が、斜ならず御機嫌を直

して来た。

往時、シベリヤ出征軍歩兵第十六聯隊の渡邊二等卒が、敵飛に搭乗して、操縦者にピストルを擬しつゝ、我が目的地向つて飛行せしめた……

成程ナ。主動の地位に立つべき妙諦は、此に潜んで居る。よしツと「欣然」は操縦中尉の肩を叩一叩して、例の桿に手を擬し、前後左右に廻轉する状態を真似て見せた。中尉驚の眼を見張つて、哀願的態度口吻で以て、必ず觸れて呉れるなど、拜むが如き頼みやう。此所だく、先づ彼の〇〇は確かに握り得た。

「大日本帝國 天皇陛下股肱の臣權作。大英國の飛行機に搭乗す。」と先づ此一句を用意の紙に記した。よし出發、やがてするくゝと滑走が始まつた。何時死んでもよい。〇〇如何？ 度胸はきまつた。今や宮本武藏の所謂「首の座」に直つたのである。滑走距離も僅かで、機は殆ど直上の飛び上る。數分の後には早三千米上空の人となつた。操縦中尉、半ば振返つて、何事か頻りに談しかける。敢て爆音に遮られてといふ譯では無いが、さつぱり解らぬ。小學時代より始めて、英語の教科書に接すること二十年。獨、支語に指を染むること十幾年、三兎を逐ふもの遂に一兎を得ず。況んや此中空爆音裡に於てをやだ。黙つても居られず、答へもならず。一寸困つたが、愈「欣然」式を發揮して、

大聲に「ペリーグウ」と奴鳴つてやつた。「欣然」の總體が吸ひ付けられる様な、妙なカーブ感。すると忽ち右方に大きな山が現れ出した。ハテ此邊に山など無い筈だがと、訝いぶかる中、ヤツ横轉だナ。すると中尉が又何か言ふから、馬鹿の一つ覚えで、又候「ペリーグウ」とやつた。今度は身體が俯向くやうなカーブ感を感じた。次いで又ペリーグウ。仰ぐが如きカーブ感。聾者の「欣然」には、その何といふ名稱の飛行をやつて居るのか、さつぱり解らぬ。水平飛行間筆を執つて、

「此日天氣晴朗なるも風強し、下界を見れば、蛇々長蛇の如きは河、黄葉めるは麥畠、茶褐色なるは耕せる地。」

中尉また何か言ふ。「欣然」に於ては、唯々「ペリーグウ」の連發あるのみ。

丁度此時分、地上に於ては、飛行學校長が、古城大佐に向つて、

カーネル辻が注文すると見え、あらゆる高等飛行術を行つてゐる。中尉の操縦も巧妙ではあるが、カーネルもカーネルだ。流星に日本の軍人だ。

と頻りに讚美したといふ。是は後に古城大佐から聞かされた話だ。嗚呼、何が注文だ？ 注文するが如き横着な精神は毛頭無かつたが、唯一つ持合せの「ペリーグウ」が、とんだ奇功を奏して、此秀逸傑作。

「英機高等飛行の快味筆舌に絶す。 Very good! Very good!」
と書き終る頃、飛行機は下降を始め、三十分の飛行も無事着陸。「欣然」名前の通りニコくして機を降りると、學校長が跳んで来て、固い握手を交はした。「欣然」又しても「ベリーグウ」くここで、高等飛行注文の、種開かしが解つて、一同哄然として笑つた。彼の空中記述の便箋は、古城大佐に譯讀されて、大に校長を驚嘆せしめたものも愉快だつた。

高等飛行の談の序に記す。横轉・逆轉・宙返り・木葉返し等々、何故かゝる危険な事を行ふか、決して見せる爲の輕技ではない。否もう危険でも何でもない。高等飛行の用所は奇襲にある。攻撃の爲にも、危険脱退の爲にも缺く可からざる放れ業なのだ。

我國軍の現状果して如何。よし飛行機の數や裝備に多少缺けて居つても、機上の人は今や先進國の人を凌駕して居る。特に航空報國の度胸に於て然りである。神出鬼没、體當り肉彈、鐵骨以て必勝を期しつゝあることを信ずる。而も同胞は浦港を中心として重爆二千五百斤の半徑内にある我邦たることを忘れてはならぬ。而して歐洲列強の飛行場の戦用格納庫は殆んど總て地下室になりつゝあることを見遁してはならぬ。

近來防空演習が國民的訓練として各地で行はるゝのは誠に時宜に適して居る。併し一般に眞劍味が

缺けて居る。又民間航空となると、日本はまだ幼稚園だ。大發展と猛飛勇躍を望む。

序に劍舞一番、英將を驚かした事を附記する。英國の戦車師團所在地の偕行社で、會食後英國の茶目連中に押立てられて、「欣然」劍舞一番、素より腰間の秋水は日本刀、抜く手も見せず前後左右その太刀風に、英將達跳び下つて壁にピツタリ。而して慄へ上つた、否武者慄ひ宜敷く、碧眼を見張つた。その英將達の驚愕振り聞いた外交畑のケツの穴の小さい誰れかが、「英國は紳士國であるのにそんな亂暴な事をやられては困る」と獨語したとか聞いたが、豈圖らんや、その英將達は倫敦に出て來て、是非今一度「欣然」に逢つて、東洋殊に日本の眞髓を味ひたいといつたそうだ。流石に英將である。「欣然」の武士的ダンス、否日本精神の一端を味ひ得たものと私ひそかに敬意を表する。

(三) 觀 兵 式

六月三日英國の天長節に於ける觀兵式參觀の光榮に浴した。それは市内の大して廣くもない練兵場で、型の如く閱兵分列式が舉行されたのであつた。此日王様御不例の爲め、王子様代つて臨御になつた。流石に儀禮を重んずる國だけあつて、順序といひ動作といひ、如何にも整然として一絲亂れず、秩序と規律の量器の中にはまり込んでゐる工合、感歎に餘りがある。併し「欣然」の目から見ると、

遺憾乍らそこに開けたる者の多くを發見する。それは何か？美化された形式があるのみで、潑刺たる元氣、鬱勃たる士氣、氣力の現はれの何者も見られない。器械的に動いて居る澤山の人があるのみで何等彈發力を有して居る状態に接しない事である。遲舉動速歩の分列は特に能く訓練されて、器械より以上によく揃ふ。之を見て一種秀麗な感はある。併し壯烈の感は些も起らない。



英皇帝と近衛兵

又王室に對する國民崇拜の状態に於ても、其崇敬が如何にも器械的で表面的だ。一步割引してそこに多少の精神的の現はれを酌み上げて見れば、親愛

とでも言はうか、親しみを感ずる心である。親しげな表情それだけである。立憲君主國の典型を以て誇つてゐる國であるけれども、王室と國民との關係は、唯一抹の親しさのみである。是を我國民の、自然と頭が下り自然と涙を催す敬愛の至情に比べると、實に雲泥の差を認める。是は全く國體の彼我懸隔せる現はれであつて、我國の皇室の有難さが、他國の觀兵式を觀て居る中に、つくづく胸に迫つて來て、覺えず涙を催した。

外遊やよくぞ日本に生れたる

父母に離れて、父母の有難さを悟り、外遊して、しみぐ日本の有難さを悟る。誰だ日本の有難さに馴れて、西洋かぶれして歸る外遊者の馬鹿者は。

英國の分列式の遲舉動に比して、佛國の分列式は、如何にも輕快だ。胸の透く氣持がする。特に巴里凱旋門で行はるゝ戦後の分列式に於て、廢兵の分列程凄慘なものはない。盲の手を引くピッコの隊に至りては、熱涙で正視出來ぬのは豈「欣然」一人のみであるまい。

歸朝後千葉の招魂祭でも、傷痕軍人の一團が參拜したのを見た。仲に最左翼に在つた盲兵の手を取る少女のいぢらしい姿には、満場皆目をしばたいた。

「欣然」も聯隊長になつてから、軍旗祭當日傷痕軍人團の分列を行ふ事にした。ところが其悲壯な勇姿に接した若き武人達は非常に感激して、大に分列に力瘤を入れるやうになつた。其後聯隊の分列が評判になつたのは全く傷痕軍人のお蔭である。

英 吉 利

分列は有形上の儀禮と無形上の團結を鍛鍊するに最も有效である。豈夫れ軍隊のみの專有物ならん

や、學生・生徒・青教諸子のみに努む可き訓練である。

(四) 居 眠 り

獨と言はず、英佛と言はず、何所の國の婦人でも皆能く小まめに手細工をして居て、何も爲ないでぼんやりして居るといふことは殆んど無い。談話をしながらでも、子守をしながらでも、店番をしなからでも、凡そ手足に隙さへあれば、必ず毛絲を取り出して編物を始める。汽車電車の中でも、一寸落付いたと來ると、屹度編物である。尤も座席がちやんと定まつて居て手仕事のために他人に迷惑をかけない便利もある。相手の無い場合は勿論、相手のある時でも、話しく手を動してゐる。支那の百峰和尚ではないが、彼女等は「爲さざれば食はず」の眞理を實行して居る。之を日本人の汽車電車中と比較して見る。時には讀書などして居るもの、多くは小説かキザな外國語の本又編物などの簡單な手藝をしてゐるなどを、見かけるが、おつに氣取つてすましてゐる方か、或は多くは居眠りだ。長途の汽車が夜分ならいざ識らず、白晝の車中で、鼻から提燈出したり、涎を垂れたりして、而も途方もない大駈で隣人を驚かすに至つては「全く愛想が盡きて仕舞ふ」と言つて仕舞へば夫れ迄だが、ドッコイそうは問屋が卸さない。扱て以上の様な外觀で以て一口に「ハア成程ナ」と西洋人を謳歌さ

れては堪らない。と言ふのは西洋人と日本人の起居、風習を考へてみませう。西洋の婦人は小兒を生んでも、多くは母乳を與へないで牛乳等で育てる。そうして其與へ方が時間でも分量でも規則正しく與へる。夜半などイクラ泣いたつて決して與へない。そこで小兒は所謂泣寝入になつて仕舞ふ。しかして小兒は母親と別寝多くは別室である。小兒は小兒、親は親と區別して寝るのが西洋人の個人主義の發露である。そこで母親は夜間小兒に對して全く無關心で熟睡が出来る。要するに西洋の婦人は規則正しく充分に眠つて居るから車中などで眠らないのである。そこに至ると日本の婦人は小兒が生れると母乳で育てる。どうしても乳の出ないと云ふ人がそら貰ひ乳、或は已むなく牛乳で育てる。夜寝る時は添へ乳だ。正に聖母の姿である。母は晝の疲にウトウト眠り始めると、小兒が泣く。直ちに目を覺ましてお乳を飲ます。それが一夜の中に數回である。お乳吞ます計りでなく、夏は蚊に刺されはせぬか、お腰一つで蚊征伐の珍話それは一寸御預けにする。或は寝冷はせぬか、又冬になると、そら咳聲をする、感冒は引かぬか、特に小兒が病氣に罹つた時は夫れは、夜の目も眠らず育て上げるのが日本の母親である。小兒に無關心で熟睡などは逆も出來ぬ。八時間眠るところを五、六時間しか寝て居ない。そこで何かの用件で電車又は汽車に乗ると、夜の疲れで思はず識らず、遂にウトウト居眠りを始める。その居眠りは實に勿體ない母親の犠牲的精神所謂母性愛の反面である。然り語を換へて

言へば、眞に子育て観音様の居眠り像と、その御慈愛の心を拜まなければならぬ次第である。

此の無限の慈愛によつて育て上げられる小兒の幸福は如何計りか、山よりも高く海よりも深き親の恩。そこで小兒も亦オシメの中に包まれて居る時から、親孝行と言ふ世界一の道徳が芽生へて来るのである。理屈ではない自然である。あゝ有難い哉、孝は百行の基、眞なる哉。

敢て婦人の居眠りを賞揚する譯では無いが、其反面にかくれたる母性愛、それが實に尊いと禮讃するるのである。

「欣然」は克く居眠りをやる。腰掛けて居ても座つて居ても、馬上に於ても、隨時隨所で居眠る。馬上で眠るからといつて、敢て那翁を氣取る譯では無い。兵隊は歩きながら居眠りをやる。居眠りといふ語は當らぬが、時々電柱にぶつかつたり田圃に落つこちたりして目覚める等の喜劇が演ぜられる。此等の居眠りは母性愛に對して、夜戦愛の居眠りとも言はうか。日本獨特の戦法夜戦に注ぐ愛の爲の居眠りである。暇のある時に十分居眠つておいて、いざ鎌倉といふ時に、より以上の精神氣力を附與振作し、必勝を期せんが爲である。居眠も亦偉なる哉。この意味に於て居眠りを禮讃するのである。噫！母性愛と夜戦愛、これが日本特有の居眠り必勝の秘訣である。

(五) 三 猿 主義

倫敦・巴里等の大都市は勿論、相當田舎の雜貨店などに於て、毎度珍しいお客にお目にかかつた。それは陶製の三足猿の置物だ。裏を反してみると Made in Japan と刻してあるから面白いではないか。「欣然」も面白さのあまり、巴里の三越か白木屋といふ格式の百貨店プランタンで一箇買つて來た。眞に逆輸入である。是は玩具の置物であるが、その三猿主義の精神が事實行はれて居るから實に面白い。倫敦のハイドパークや巴里のシャンゼリゼの街路樹の傍などで、若い男女が妙態を演じて居るやうな場面を折々見かける事がある。其際其附近を通る同國の人々は一向無關心で、決して其方に面を向けない。紳士淑女はそんな物を見る可きでない。即ち「見猿」である。又さやうな話は誰も、「言は猿」、「聞か猿」である。所がわれ／＼日本人はどうか、そんな情景に限り、一寸盗見をしたがる。そして、尾に鱗を付けて吹聴したが。それを又根掘り葉掘り聞きたがる。そこには、民情習慣の差異もあつて、一概に善い悪いの判決は定められないが、一般的に日本人は他人の穴を探したがる悪い癖がある。政治界には泥試合など新熟語を使つて、穴探しを専門にして居る傾向もある。滿洲某重大事件などほじくり出して、未來の陸軍大臣を以て囑目されて居た、有爲の村岡長太郎將軍をあん

な事にしてしまった。「欣然」は巴里の一角にありて、棄つべきものは弓矢なりけり、否將軍の積極的にして光風霽月の胸中を拜察しつゝ、三猿の置物をひねくつて居た。敢て穢い物に蓋をせよとは言はぬが、國家の重大事件や特に私事に亘る事を言ひたがる、見て爲にならぬ事を見たがる、碌でもない事を聞きたがる。がるは悪い癖で卑む可きだ。尤も公務上又は友誼上言ふ可き事があれば、直言忠告共に大にやるべしだ。然るにそんな正々堂々な態度や親切はそつち除けにして、人の穴探しや欠點の見付出しに吸々として居るものが世間にザラにあるから嫌になる。今少しく人の長所美點を觀破して之を活用するやうにしてはどうだ。三猿主義の本来日本人だ、ちと嗜なんだら如何で五猿。

(六) 廣く大きく

海外發展の兩横綱三〇と三〇の、各發展先に於ける甚だしい競争は何事か。競争じや無い排他滅他である。その他の新しい事業家曰く、「吾々が如何に踏張つても、有利な事業は何時もこの三〇三〇に阻害され叩き落されて、潑刺たる發展を見ることが出来ない」と。かういふ事情で、我が海外發展は遅々として進まないのである。

「欣然」は國家に大資本群の必要を認むるが、其財閥と巧利主義とを憎むのである。宜しく同業和

親勞資協調共に感謝提携して國家の繁榮を圖る可きだ。而して過大の利得は機先を制して喜捨し、共存共榮の實を擧ぐる事が必要だ。

そこになると、流石は英國だ。永久に日没せぬまでに發展して居るでは無いか。又獨逸國民九千萬中、三千萬が永久に海外に居住し、露國人が廣漠たるあの西伯利亞の曠野を家とする如き、男性的な精神と、積極的な實行力とに於て、大に學ぶ所がなくてはならない。實行即實在だ。海外發展には殊に狭量同士打が禁物だ。寧ろ提携互助を必要とする。

將來の日本は南船北馬東飛西車で御座る。就中目下の急務は北馬と南船だ、日本の生命線だ。大陸と南洋發展の基礎だ。奮へ同胞、起てよ青年。土に親みて中百姓になれ。陽光に浴して豪商となれ。新空氣を吸うて大工業を興せ。大陸と南洋は太つ腹を出して待つて居る。

流石に獨逸人は、しつかりして居る。

眼仰^ガ理想天^一

脚踏^ム現實地^一

(獨逸の格言に、こんな面白いのがある)

それは蛙のやうにと仰言る。正々堂々一步一步を踏みしめて理想に向つて發展する所、些の危險味が無い。實に力強いどつしりして居る。

一般に歐洲人は、大陸的だ。廣くゆつたりして居て、コセくしない。吞氣だ。日本人は所謂島國

根性で、猜疑・狹量の結果、孤立無援といふ状態だ。特に政黨と來ては全く非道い。尤も民意暢達に貢献した事も尠くはないが、國內反目鬭争の張本人たる罪は償ひ得べくもない。要は解和だ。

それから亦新聞も大に統制訓練の必要がある。

お手許拜見！ 然り陸軍だつて御多分に漏れない事もあらう。併し近來派閥は大に薄らいだやうだ。願くば將來大に秋霜以自肅、春風以和人を實踐して道義世界の先頭に邁進し 皇軍の眞價を發揮すべきである。

尙國家保護の大局的見地より積極的に昭和維新に拍車を掛くべきである。實際現代に於て眞劍なる革新的勢力は軍部を除いて他にないのである。

頭山滿翁喝破して曰く。「日本から 皇室と軍隊を除いたら何もナカ」と流石に至言だ。

併し忌憚なく言へば、陸軍の連中では雅量に乏しく、或は謙讓に缺け、或は獨善横暴に流るゝ等の感がないでもない。宜しく大に省みて益々尊信を昂揚すべく努力すべきである。就中尤も仲良く提携活模範を示して貰いたいのは陸海軍だ。兼久候補生（幸一大佐）ではないが、何をか雅量と言ふ

「汝の妬心と争氣と偏情とを去り、而して後油然讒然として胸間に湧き出づるものはれ何物ぞ、吾人は髣髴として其の雅量たるを認めずんばあらず」

（徳富猪一郎）

「人に接して悪感を抱くは自己の狹量を示す者なり。

不平と怨恨は愚の骨頂なり。」

（大町 桂月）

「人を相手とせず天を相天とせよ。」

（西郷 南洲）

と、其當時能く之を諷誦し高吟したものだ。偉人文豪の説くところ敦ゆるところ、實に雄大簡明、感嘆措く能はず、青年時代に讀書し以て壯年時代に事あげすべしだ。

人誰か向上心なからんやだ。併し一方又その分に安んずるを要す。殊に行詰るか或はどん底に落ちた時に於て然りだ。「葉隠」に曰く、「浪人切腹仰付けらるるも是亦一つの御奉公にて候」と、何んと諦めあきらめのよい心境ではないか。而も忠節と不退轉の意氣を示して些の寂し味を感じない。

併し凡人は始めから明鏡止水の仙境に遊び得るものでない。「欣然」だつて待命の内命を受けた時、待つて居ましたといふほど人間放れはしてゐない、多少の自惚うぶほがあつたのは事實だ。偽らざる告白である。併し「欣然」は一兵より身を起して、七轉八起

（幼年學校二回、海軍兵學校同機關學校各一回の受験に失敗更に士官候補生を志願して三度失敗し四回目に合格） 遂に母隊の聯隊長となり、加之必勝軍旗を捧じて征戦一番、而も年令滿限の直前に於て

進級し、尙上海事變の功に依り殊勳の恩典に浴す。所謂功成り名遂げた果報者と銘肝感泣して居る。幾多先輩に惜まれた事を辱知の光榮と感じ、後進無天組の士氣を阻喪せしめなかつたかと、その不徳

の罪を慚愧するのみである。されば悠々自適の「欣然」だが、非常時局の今日徒らに安閑として無爲に暮らすべきでない。幸にして精神氣力旺盛だ、一意専心國粹の發揮就中思想の善導と劍道の奨励とに貢献し、而して正可の時は一死以て最後の御奉公を喜んで居る。

要するに親愛なる同胞よ、所謂島國根性を捨て、清濁併せ呑み込む大洋の氣持で、雅量で進もう、大度で行かう。

明治天皇御製

あさみどり澄みわたたりたる大空の廣きをおのが心ともがな

(七) 元祖は日本

毒瓦斯は千九百十五年四月二十二日白耳義イーブルで獨軍が使用したのが最初の様にして居る人が多い様であるが、豈計らんやそれは日露戦役の際日本が既に使つたのである。即ち旅順攻圍戦に於て堡壘の一角掩蓋機關銃^{カネ}銃^ニ銃^ルに依て猛威を逞うするロスに對し、工兵第十一大隊では窮餘の策として穴の中の狸狩から思出し、柴草を燻べて敵をなやまし、其機會を利用し突撃を敢行したのである。化學的知識の發達した外國の觀戰武官は之を見聞してどんな感を持つたか、果せる哉、日露戦役の翌年即

ち千九百四年獨逸の醫學雜誌にちやんとその事が掲げられて、將來戦に毒瓦斯の必要を叫んで居るではないか。柴草燻し素より幼稚ではあるが、毒瓦斯の元祖は全く我が日本であるのである。

又戦車の齒車即ちカタピラは我國の下駄の齒から考案したものである。飛行機だつてその通りだ。プロペラーは矢張り我國の竹蜻蛉を大きく改造したまでの事である。軍用犬は最近興隆を極めつゝあるが、本家は云ふ迄もなく我國の武勇物語桃太郎さんの家來のワン君である。否、南朝の忠臣畑時能の忠犬「犬獅子」である。越前鷹の巢城では毎夜々々奇兵を放つて寄手を惱ました。それが定まつて警戒の手の弛んだ方面に限られてゐる。それは軍用犬「犬獅子」が巧に偵察しては味方を導いた功績であつた。

是等戦争に關係したものの計りでなくテニス^{テニス}は優美な我國の羽子板から。又最近始めた否復活して來たものに國旗掲揚がある。世間稍もすれば之はアメリカ傳來の様にいふ人があるが、何ぞ知らん、明治の初めに建つた小學校の校庭には國旗掲揚臺を設け國旗を掲げたものだ。現に「欣然」の母校肥前國佐賀郡和泉小學校の玄關正面に嚴然として五十年來其威容を留めて居るのである。同じ國旗掲揚でも日本のとアメリカのとは其根本精神が異なつて居る。方法は同じになつたかも知らんが、敢て毛嫌ひする必要はない。青訓が外國のボーイスカウトからでなく、ボーイスカウトが薩摩の健兒社から出

て居ることは明瞭な事實がある。唯我國の少年團で最もキザなのは制服制帽である。なんであんな野卑なヤンキーを真似るのか、殊に頭に戴く帽子だ、あんな帽子は止めて、我國古來尊重して來た兜形源平兼用の運動帽か戦帽を冠るべしだ。就中三指の敬禮は斷然之を改めて國民皆兵式の敬禮方法に歸順すべきである、と切に勸告をする。

歐洲大戦間佛國の「ド・モーデューイー」大將〔アルサス〕生れにして純粹の歩兵科將校、頗る勇敢にして氣樂なる老人なりが戦線を自動車で馳驅して、行き逢ふ兵士に煙草をばらまいて大に賞讃を博し、神様扱にされた事は有名な話であるが、その總本家は世界人の最も崇拜する大偉人乃木大將であることは、我等同胞の大に誇とするところではないか。

「全滅々々それは旅順戦の名物であつた。第一師團全滅、第九師團全滅……と血涙を含む旅順戦の代表語であつた。

バルチック艦隊は來さうだ、北方の戦場では乃木軍の北進を待つてゐるといふ時、全面の状況は全滅に次ぐに全滅を以てし徒らに死の部隊を抛つに等しい時に方つて、乃木大將は八ッ裂にされるより苦しい思ひであつたらう。

その時乃木さんは靜かに歩いて、野の中に立つた、見渡す限り負傷兵ならざるはない。

乃木さんの眼は涙が光つた。そして後ろに倒れんばかりになつたのを副官がやつと支へた。

しばらくして、乃木さんは副官に「氷を持つて來い」といつた。乃木さんは負傷兵のそばに行つて「よくやつてくれた、早くよくなつて又來てくれよ」と一々手をとるやうにしていつた。

そして大勢の負傷兵の間を一々かういつて慰めて歩いた、やがて副官が運んで來た氷を割て、負傷兵の口へ入れてやつた、私もその氷の一片を貰つた一人であつた。

負傷兵達は涙を流し、乃木さんを仰ぎ見ながら乃木さんのもとで死なうと思はざるものはなかつた。」
〔櫻井忠温著「將軍乃木」〕

古今東西、偉人の行爲は恰も符節を合はせた様で敬服の至りだ。其他楠正儀が溺るゝ敵兵を救助した赤十字事業の元祖等枚擧に違がない。

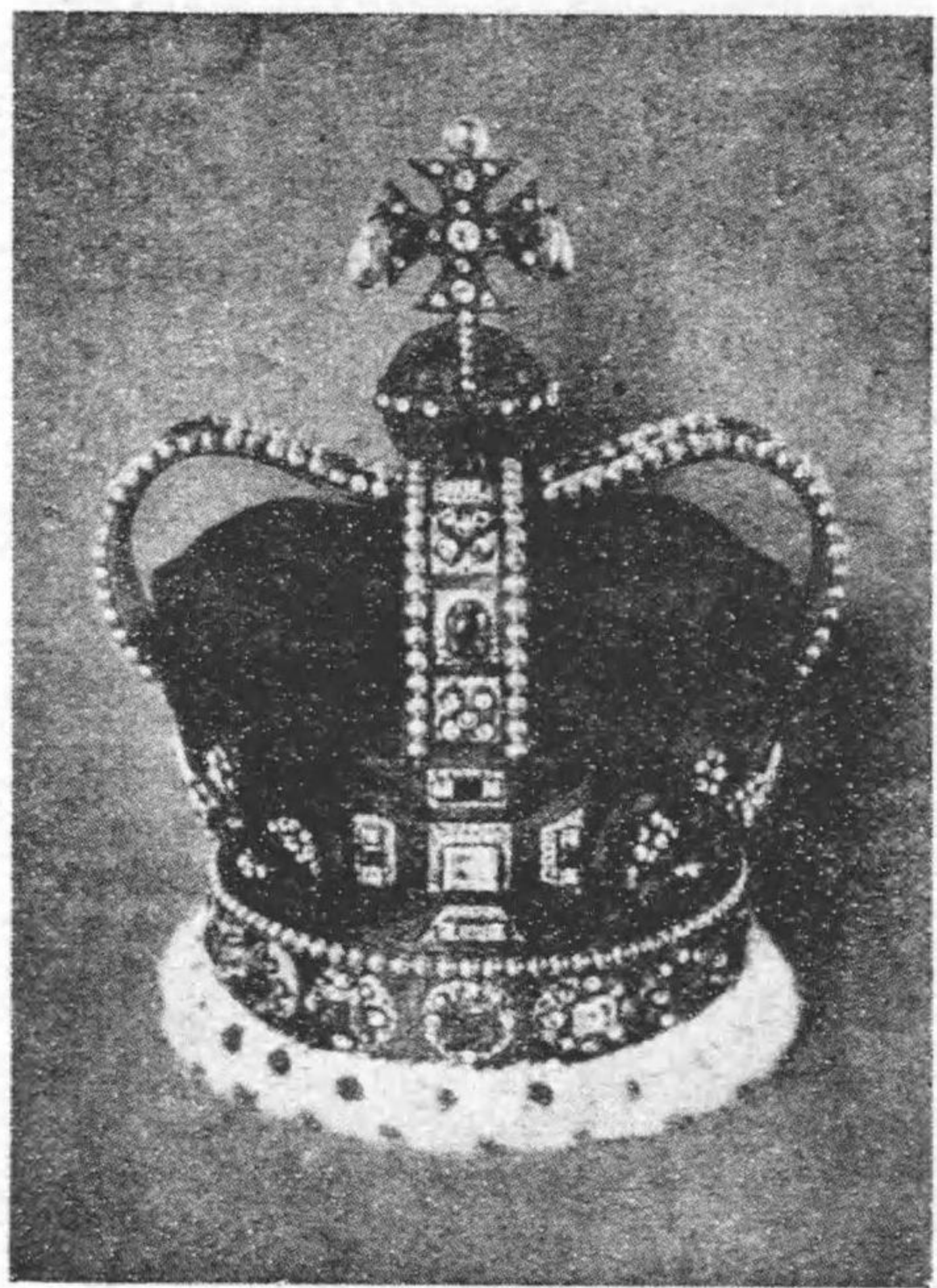
斯の如く物的にも心的にも元祖は日本であり、本家は日本人である。唯、科學的知識と堅忍持久性の缺乏の結果大成しなかつた迄の話である。元來日本人程頭腦の優秀なものはないのである。恰も富士山の様なものだ。世界の何處を探してもあんな優秀な山はない。現今ただ死火山として眠つて居る形である。それが一朝目覺めて活火山になつたら、其壯觀は果してどんなものか。併し矢張死火山と

して偉容裡頂上に登れる親しさを最良とする。山の死活は別として我々日本人は優生學を繕いて始めて知るでなく、現に以上の事實に依つて視ても天才的であり優越的であることが判ると思ふ。唯一代は愚か二代三代も父祖の事業を繼承して大成するてふ根氣を養ふ事が極めて必要と感ずるのである。

(八) 總 括

英國は依然たる立憲君主國である。歐洲大戰の餘波を受けて獨逸の帝政は崩壊した。併し英國は流石英國である。政體に些のヒビも入らなければかりでなく、益因襲を尙び堅牢を重んずる老大國民である。進取積極の氣風には聊か缺けて居るかも知れない。老衰しかけてゐると見られない事もない。が併し、理解力に富み、鷹揚でオツチヨコチヨイでない。同じ人種でも、米人とはまるで性格が異つてゐる。英國の王室は外形的儀禮の整つた點に於て、世界無比であらう。而も帝王は非常に平民的に渡らせられる。そこには國體民情の然らしむる所があつて、同じ立憲君主國でも、我日本とは比較にならない。英の立憲君主制は、英本國を統治する上に最も便宜であるといふ、理想主義に基いて居るのであつて、我國の如く理想の外に超然光紹してゐる國柄では無いのである。我の必然的なのに對して彼は人爲的である。英王室と人民との間には、人間としての親みはある。統治者として尊敬するの義

務は感じてゐる。關係は唯夫れだけである。夫れ以上何物もない。我國の如く義は君臣にして情は父子であるといふ大根原を缺いてゐる。我が 天皇は所謂すめらぎに在しまして、帝王では無い。此邊



奉るべきものである。陛下は我々軍人を股肱と頼ませ給ふ、いとも有難い關係にあることを忘れてはならぬ。

歐洲人の解釋の出来ない神祕的の或物が存在してゐる。歴代の 天皇が民を愛し給うて、民を寶とし本とし給ふ御恵みに忤れるといふ譯でもあるまいが我國の政治家にして、民本主義などいふ言葉を振廻はす手合もあるのは何うした現象か、民本は上御一人の叡慮の中に宿るべきもので、我々臣民は飽までも 皇室中心でなくてはならない。

就中軍人は 大元帥陛下を頭首と仰ぎ

英國はその利己主義から日英同盟を破棄したとは言ひ乍ら、我國に對しては、特に尊敬の意を表してゐるやうである。それに就ては、長多いが陛下嘗て東宮にましませし頃、御渡英遊ばし、次て秩父宮殿下の御留學等皇室の御稜威と御親和が、彼國民の頭上に絶えず、動きかけてゐる關係に基づくものと感佩の外無いのである。併し又、彼の老獪搾取主義には斷乎として鐵槌を加ふべきである。

英國の陸軍は確かに機械化軍隊に特色を發揮してゐる。機械化それは歐洲の天地計りでなく將來戰を考へ大に之を採用するの用意が必要である。その研究は姑く別問題として我々歩兵科に屬する者は英國に於て學ぶ可き何者もないのである。現に英國の將校も言うて居る、歩兵は何と言つても日本が世界一と。然り「欣然」の如きは決して隊附して研究する必要更になしである。

英國王室の儀禮に關聯して、我國の服裝について卑見を開陳する。それは明治維新の際、あまりに西洋風を採用し過ぎた爲に、我國の特色を失つた大なるもの、一つは服制であつたであらう。フロツクコート或はモーニングコートを着て來い、近頃漸く背廣で差支なし羽織袴では相成らぬといふが如きは、正に聖明を遮るものと思ふ。「欣然」の如きは舊式過ぎると笑はれるか知らぬが、洋服は仕事著、法被股引である。羽織袴又は上、下を付けたものは禮服、神に奉仕する場合は冠垂衣かんかりひたれが、日本の本體でなくてはならぬと考へる。仕事著でも各國が禮服として用ゐるものは許すとして、日本國內

に於ける儀禮上、羽織袴は相成らぬといふが如き、矛盾した話があるものか。「欣然」は、國粹保存の服裝なるが爲に、聖恩に浴することが出來ぬといふ哀話を聞く毎に、思想問題のやかましい時節柄、此好い機會を何故善處しないのかと、寧ろ不審に堪へない、官内官たるもの機先以て國粹を發揮すべきではないか。

夫から服裝に限らず一般の儀禮は我國の長所と思ひ込んで居つたのに、實は聊か裏切られた感がする。儀禮は武士道の精華である、統率服從關係の根本である。現今軍人以外の同胞は此點大に外人に劣つて居る。自由平等を履き違へて儀禮を粗にするは野卑である、公私の別を明かにして無禮講以外慇懃であれ上品であれ。鳩に三枝の禮と謂ひ、親而不忤[〓]親しき仲に禮儀あり[〓]と言ふ、萬物の靈長たる人間の味ふべき否大に實踐すべき重大徳目である。

歸朝後の所感。「欣然」目下徳島市に住んで居るが、此處は又特別か、即ち「欣然」とは二重の緣故(日靈戰役と上海事變)があるので、懐しい土地、親しい情味のある關係で儀禮が正しい。就中男女の生徒は勿論一般縣民が進んで心からなるお辭儀をして呉れる。「欣然」一度徒歩外出するや、答禮に寸暇もない忙しさである。又無邪氣の小供達は後になり先きになり「欣然」を取り巻いて喜びハシヤグ有様。誠に感激の情に堪へない次第だ。親和の表情禮儀の正しいのは、お互心持のよい計りでなく

和衷協同の基である。東洋道德の根源である。(三年前の執筆)
外人から日本人は儀禮の國民として、大に尊敬せられて居る。敬上惠下の精神、傳統的美風の發
揮に努めたいものである。

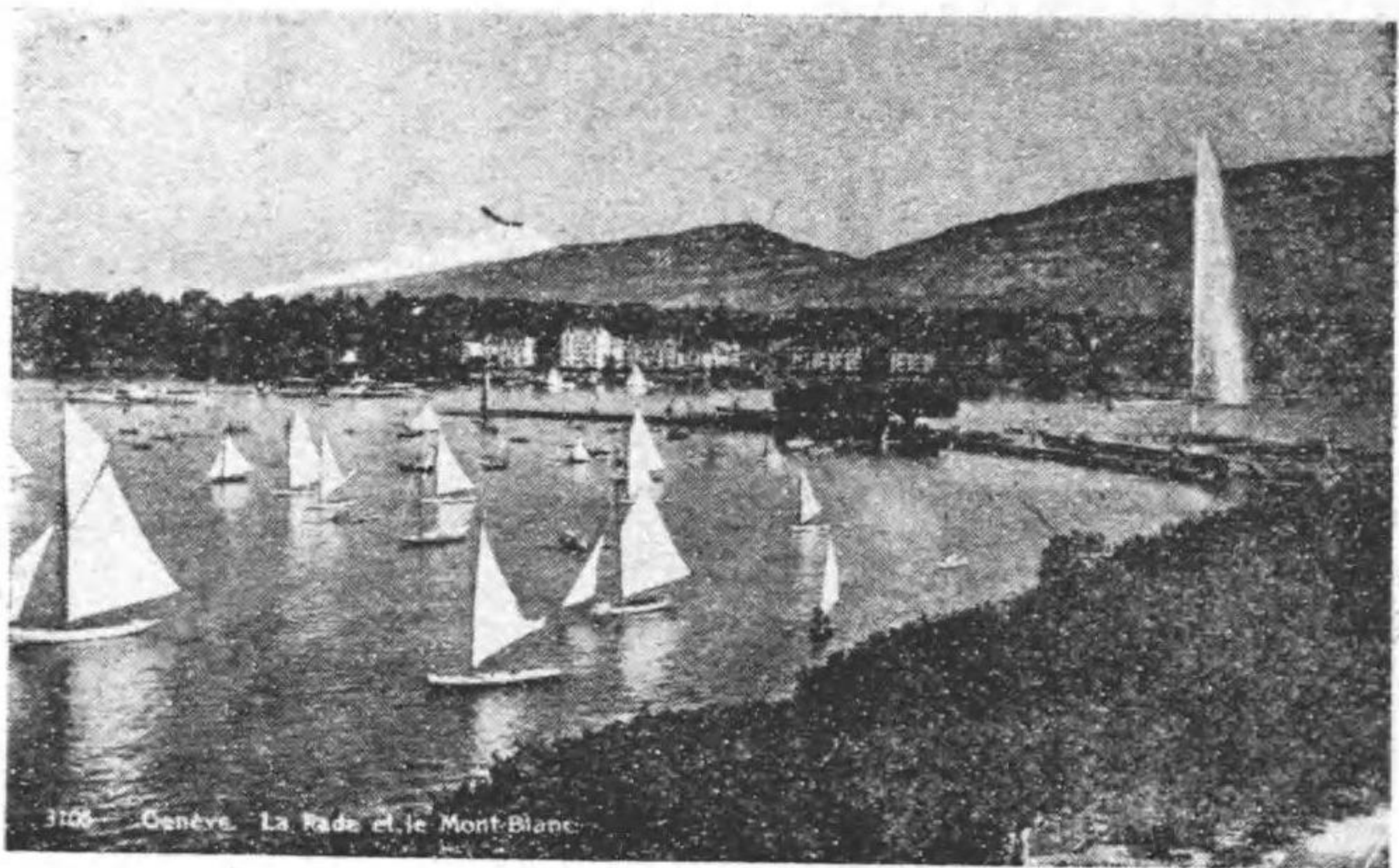
九、瑞 西

(一) 國際聯盟

山紫水明のジュネーブ、國際聯盟事務館の所在地、時計の名産地。瑞西といふ名には誰しも一種の
快感と憧憬とを有つ。併し國家としての價値は至つて貧弱だ。第一特有の國語をすら有つてゐない。
國語の無い國は白耳義もある。白耳義にしる瑞西にしる、接壤方面の國語を用ゐるから、佛獨伊
或は英語をちやんぼんに使用してゐる。何の事は無い國境に出店を開いて商買してゐるやうなもので
瑞西に入つた白耳義に入つたといふ氣持が全然出て來ぬ。「欣然」は七月下旬盛夏の候、吉松大尉と
楽しい瑞西旅行をやつた。平和會議の一員たる、下村(定)砲兵中佐の旅館に於て、壽湖を眼下に瞰め

遠く雪白のモンブラン峰を仰ぎつつ、純瑞西産の酒と品の
いゝ料理との御馳走になつた。そしてモンブラン登山の爲
に特別仕立の自動車を用意して戴いたことは、感謝の至り
である。厚く御禮を述べると、中佐は謙讓の態度で、イヤ
決して私の力ではありません。全く日本帝國のおかげです
と答へた。

實際瑞西國民ほど、日本國の勢力をよく認識して居る國
民は他に無からう。國際聯盟に於ける日本の地位、歐洲の
四大強國たる英佛伊獨と、亞細亞唯一の強國日本とより成
る五常任理事、即ち投票に依らずして既得權を有する優先
國を認め、日本が常に公明正大にして、不偏不黨の裁決
權を握つて居る事を、近く眼前耳朶に最も速に見聞して居
るからである。眞に日本人を神様扱にして、精神的に優遇
するのは瑞西である。環境はよし旅宿はよし、極樂とはか



瑞
西

ういふ境地をいふのであらう。かうした外國に駐在して居る使臣に對しては、國家は今少しく他の強國並に優遇してやらねばならぬ。もつと肩身を廣くさせてやる可きである。内地に働くものは減俸結構であるが、駐外者に對しては其邊あまりけちけちなしな事を切望する。

重ねていふが、歐洲戰を一區劃として、我國が最強國たるの實權を確かに把握し得たことは、實に愉快千萬である。併し當時西原騎兵少佐であつたか、諫山歩兵大尉であつたか一寸忘れたが、日本は國際聯盟なんかに入せず超然として居るを貴しとすと言つた事は、日本が國際聯盟離脱後の今日になつて思ひ出すと實に先見の眼があつたと敬服する。「欣然」も大賛成である。

日本は矢張り太陽として普ねく世界を照らすべきであつて、群星の仲間入りをしてならないのが眞である。日本が正義と平和のため、認識不足の聯盟と手を切つたのは如何にも赫々たる太陽が迷雲を破つて光輝燦然たるの觀がある。眞に 皇道の宣布、國力發展の先鋒と謂ふべし。松岡全權は謙遜して歸朝したが、外交の失敗でもなんでもない、大成功である。更生日本に自主的外交の曙光を與へた神使であつたのである。流石に洋右當年第一流だ。茲に更めて松岡主席全權以下に尊敬と感謝の意を表すると同時に齋藤首相及新聞記者等に警告を發したき一事がある、それは最高指導階級にある諸公が平然として脱退と叫んで憚らない一事である。その勢か、津々浦々の村長さんや校長先生に至る迄

平氣で脱退々々と言つて居る。思へ、脱退はニゲルで、離脱はツツパナンであることを。言葉尻ではない、精神的に自主と追従の大差がある、されば、詔書には何處を探しても脱退と言ふ字句は御使ひになつて居らぬ。離脱とのみ仰せられてある。恐懼して用語を改むべきである。

(二) モンブランに登る

七月二十七日、歐洲の最高峰モンブランに登山した。自動車同乗者は吉松大尉の外に、佛、瑞の田舎の者たといふ二婦人、一人は四十歳前後の肥満型、一人は二十五六歳の瘦形美人である。歐洲人の登山熱は、近年女子に於て最高潮を示してゐる。「吉」大尉は外國語の教師を見付けた積りで頻りに登山談に耽りつゝ、それでも折々





「欣然」に翻譯して聞かすことを忘れない。自動車は八九十軒の速度で駛る。一寸眩暈を感じる程であるが、涼しさと壯快さは此上なしだ。歐洲では、どんな田舎へ行つても自動車の通ずる所必ず舗装道路だ、その點になると日本は未だく、大に道路の改良を要する。やがて登山停車場に着き、電車に乗り換へて氷河の邊に到着、晝食の後登山杖を購つて氷河を跋涉、千古の雪を踏みわけて、實に壯絶快絶の極であつた。と同時に「欣然」に取つては七月二十七日といふ日は旅順攻圍戰太白山夜襲の當日であるといふ深い思ひ出の記念日であるから、一層感慨の深いものがあるのであつた。

忘れもせぬ明治三十七年七月二十七日。前日から二日一夜に亘る、第一線聯隊の強襲に對して頑強に死守して居る太白山。それを、戦へば必ず勝つの劍山戰鬥の經驗を有す

る、わが歩兵第四十三聯隊の第二、三大隊が代つて夜襲して、見事に攻略したのが、正に今夜の夜半であつた。身は今歐洲第一の高山々腹に立つては居るが、思出は太白山を突撃しつゝあるのである。夜襲は鎮西八郎爲朝の主張以來、日本獨特の戦法である。日露の役に於ても失敗もあり、歐洲戦では殆ど成功しなかつたといふので、夜襲に向つて之を躊躇する口吻を洩すものもあるが、「欣然」は航空機其他火器の進歩に伴つて、將來大に其必要の度を高める戦法と信ずる。日露戦役で失敗のあつたのは、訓練が不十分であつた罪で、夜襲そのものゝ不成功といふではない。橋中佐が戸山學校で率先研究して、其必要を唱導せられ、松永旅團長が固き信念を持して居られた位が關の山で、其當時は規則立つた訓練が行はれてゐなかつた。「欣然」の如きも、出征前は、夜間演習といへば前哨勤務をやつた位の程度で、必勝の信念は扱置き、眞の夜襲の訓練は實にお粗末なものであつた。それで以て、此夜始めて實施したのであつた。隊形は中隊縦隊——中隊長を核心とする精神的團結の表現——危険悲惨の光景は心目に照映しない沈靜なる進撃で、總ての動作は記號暗號によるが、「突込め」の號令のみは雷の如き肉聲を必要とする。此大音聲は、死線を越ゆる唯一無二の手段で、敵を震駭せしむると同時に、部下を奮起せしめ、欣然として死に就かしめる底の威力ある肉聲でなければならぬ。經驗は最高の理論、「欣然」は此の肉聲を夜襲の中心と絶叫する。奏功後の要訣としては、部下の呼名點

呼である。軍神廣瀬中佐が杉野兵曹長を呼んだあの上下の情誼の如き。中隊長は小隊長、小隊長は分隊長、分隊長は兵の名を呼んで部下を掌握することである。次で陣地の確保、工事の實施、こゝまで來ると自然受動的守勢に陥り易いが、將來の夜襲に於ては、敵陣地の一角に止らず、少くとも敵の第一線後端迄は、引續いて奪取するを必要とする。加之照明下に於て、敵の障碍物を破摧し、強襲奇襲敵をして息をつかしめざる迄、大に訓練しなくてはならぬ。それには團結と、沈靜大膽果敢なる行動及白兵の使用に習熟することが緊要である。歐洲第一の高山に立つて、夜襲の思出に耽つた人は恐らく「欣然」一人であらう。エヘン。必勝の信念なるかな。些少なことではあるが登山の序を以て一言を贅する。それは登山と言へばすぐアルプスと考へると見えて、日本の山脈に對して日本アルプスだの南アルプスだのと命名する。日本の山川は皆歐洲の山川よりは優秀且靈的だ、此秀靈なる山川に對して、何を苦んで、より以下のアルプスやラインを冠して喜ぶのか。拜歐もかうなると滑稽と悲惨の行進曲だ。飽くまで日本式で行け、敢て醜名を冠して我が山川の眞善美を傷くること勿れ。

要するに、モンブラン登山の快味は實に大なるものがあつた。近來我國に於ても暑中登山熱が盛になつた事は誠に喜ばしい、併し大陸と異なり天候氣象の急變する我國に於ては、之に對する研究と用意とを怠つてはならぬ事を警告して置く。

(三) 停車場 一括

(い) 神棚か佛壇か

瑞西國レマン湖畔の各停車場には、轉轍器轉把が、驛長室の直前、或は驛の中心部の、最も眼に着き安い地位に、燦然たる光を放つて麗々しく飾り付けられてゐるのが、著しく眼につく。日本で言へば恰も神棚か佛壇かと思はれる感じがある。停車場の生命であり、各種の事故を未然に防遏する使命にある轉轍器轉把である。神佛かの如く尊敬し重視するのは蓋し當然であらねばならぬ。

(ろ) 脱線停車場——國交斷絶

英京倫敦停車場に於ける恐ろしく痛快な事件である。世界大戰後に於ける勞農露西亞の猛烈なる運動は、西に英吉利、東に日本を二大目標として、帝政打破の陰險極まる手段を講じてゐる。斯かる折しも、露國大使の大行李が、貨物列車の一隅に、要領よく陣取つて倫敦停車場に到着した。此行李の中にこそ、最も險惡なる怪文異書が藏されて居るにちがひないと流石蛇の道はへびで、英國外交部は睨んだ事は睨んだが、如何にせん各國外交官の荷物は國交上神聖とされてゐる。絶対に検査を許さぬ。舌切雀の婆さんのツヅラ、開けて見る可き錠も無ければ鍵も無い。手古摺つたあげく、窮すれば

通ず。此時一臺の機關車、黒煙濛々として進み來り、あはや脱線したと見る間に、其貨車に向つて轟然衝突した。貨車は粉碎、載貨は散亂。直ちに官憲の出張となり、目的の大行李中より幾多の祕密書類が巧に押收された。そこで、共產過激宣傳の雄圖空しく畫餅に屬し、續いで英露國交の斷絶となつてしまつた。此國交の斷絶はマクドナルド内閣になつても依然としてゐた。保守内閣であらうと、社會主義内閣であらうと、外交は國是を重んじて、政争の外に超然たる所、流石大英國と見上げたものだ。必然なる衝突か、偶然の衝突か、兎に角脱線停車場の收穫は、大英國を泰山の安きに置いたものであつた。

(は) 平和な停車場——休戦の列車

此標題を見れば、歐洲人は逆も溜らなく喜ぶ。欣喜雀躍拵舞して仕舞ふ所だが、日本人にはそれ程響きさうもない。此停車場に氣の付く人は、夫れこそ世界的人物である。といふのは、歐洲大戰の末期、休戦談判が此のささやかなるルトンド停車場（ソアツソン市とコムペーニユ市との中間にある）列車の中で行はれ、休戦條約が、西曆一九一八年十一月十一日午前十一時、取り交はされた事實を指すのである。忘れんと欲して忘るる事の出来ない紀念の停車場、至寶たる休戦列車！

さる事あるに反し、日露のそれが滿洲國四平街に於て行はれたと聞く。

然るに史跡の何等見るべきものなし、無頓著と言ふか將又健忘症と言ふか。誠に長多い事であるが明治天皇陛下に對し奉りて眞に相濟まぬ。

世の志士仁人よ、「欣然」や政府の提唱援助を待つ迄もなく自ら立つて日露戰爭大團圓、平和談判紀念の停車場たる四平街（四方に對し平和の街）に、温故知新の設備をして欲しいと萬感胸を打つ、あゝ旅情！

明治天皇御製

よきをとりあしきをすて、外國におとらぬ國となすよしもかな

(に) 東西停車場の比較

先づ第一が時間の正確不正確である。歐洲諸國の汽車位時間のあてにならぬものは無い。遲着することが常だ。そこになると日本の汽車の發着時間は正確無比である。時間尊重燃料輕減の爲め、此に至らしめた當局特に鐵道技監古川阪次郎氏のお骨折を感謝する。

唯遺憾なのは近時故障の續發世界一であることである。人の命を預つて居る従業員の眞劍なる責任觀念と、周到なる注意の培従と、監督官の嚴密なる監督指導とを切に要望する。

次がプラットフォームに於ける訣別の情景である。歐洲に於ては、發車間際に於て、握手接吻、人前

も憚らず男女相抱擁して、實に吾々の眼から見ると異様の感が有る。所變れば品變る、風俗上それを愛の表現として、稱讚する以上は、他人の疝氣を頭痛に疾むにも當るまい。

停車場で夫れ程濃情を發露したにも係らず、袂を分つて物の一時間も経つか經たぬ中に、忽ちにして他の男とお友達になる、それが夫のある婦人の特權だと、誰怪しまぬに至つては沙汰の限りだ。是れを我國の停車場に於ける歡迎歡送に比較して何うか。その見送り、正しく言へばお見立ての狀況は眞に世界一、人情美の極致を表現してゐる。忘れもせぬ昭和四年四月一日、東京驛頭のお見立ての嬉しさ。林將軍を始め、横卷、大濱兩大佐（呼！今は故人）其他在京の親交ある將校、下士官、下條三人兄弟、春山畫伯、日醫の加藤、鈴木兩先生及生徒、三好旭天、菊池武方、本多四郎氏等々、萬綠叢中紅一點の異彩を放つて二階堂女子が花束を捧げての御歡送振り。

同じき三日、「欣然」居住地の豊橋驛頭に於ては、同性愛では無いかと迄稱へられた、武田校長を始め、五百に餘る將校、准士官、下士官、學生は素より市川丁子先生、堀田徳次郎先生等御見立ての賑やかさ。中に混じて最愛の妻子も、つゝまじやかに、高尚な武田夫人や、しとやかな石川未亡人や積極的な加和榊の女將と、面やつれせる富ちやんの蔭になつて愛別の眼をしばたいて居たが、虞乎虞乎奈汝何の醉舞言よまじことも出ねば、接吻の暴露も無い。其後内地は勿論朝鮮滿洲の野に於ける知己、教へ子

の熱誠籠る歡送の嵐に捲し立てられ、感涙の乾く間とても無かつた。

人生意氣に感じて死生相許す、是れが戦時出征といふ場合であつたら、誰れか死を以て酬ゆるの感激無かるべき。壯丁の入營退營等に於ける歡送迎をはじめ、皆是れ人情美の發露であり、感激性の延長である。敢て之を虚禮などいふ奴の氣が知れぬ。

「欣然」は此の停車場に於ける狀景を、世界一の良風美俗として保存し發揚したいと願ふものである。

然るに世界的大政治家伊藤博文公といひ、平民大宰相原敬氏といひ、近くは首相濱口雄幸氏といひ場所こそ異なれ、停車場に於て最後を遂げ、或は遂げんばかりに負傷してゐる。何と皮肉ではないか。平和な國日本の而も首都の停車場を、鬼門視するが如きは全く以て國辱の甚しきものと謂はざるを得ない。爾今停車場での暗殺は嚴禁！ 卑怯者！ 喝。

冀くば神國の東京驛を、永久の平和と濃かな人情の精華とを以て満たすべき樂園たらしめよ。



古復のへまー口城廢

十、伊太利

(一) 戦闘射撃

(い) 實戰的

軍事見學中、「欣然」の最も感心したのは、伊太利の戰鬥射撃であつた。そして始めて、疎開戦法の眞髓を味ふことの出來たのを、非常に喜ばしく思ふ。特に

一、自動火器と小銃部隊との理想的協調連繫

二、實戰的訓練に對する國民全般の理解の二點に大なる教訓を得た。

射撃場は特定の陸軍演習場では無い。民有の山地で、間には畑もあれば耕作物もある。人家も二軒程ある。射撃中



は勿論立退を命じて居るが、跳弾は偶々人家の窓硝子を破損することもある。「損害賠償は」と尋ねて見たが、殆んど問題にして居らぬのである。

戦闘射撃の統監は大隊長、射撃部隊は歩兵一個小隊（輕機二分隊小銃四分隊）機關銃二銃、歩兵砲一門。敵線には分隊長らしき標的二三、偽裝遮蔽せる機關銃的（二三本の丸太を組合せたもの）があるばかり。起伏的とか隱顯的とかいふやうなものは一つもない。實戰に於ては敵は見えるもので無いといふ考であらう。「欣然」の經驗せる日露戰役に於てもその通りであつた。

演習開始の喇叭と共に、機關銃と歩兵砲が射撃を開始する。歩兵部隊はじつとして、其彈著を觀測して、目標の所在と自己の擔任すべき射撃區域を目算胸定してゐる。白兵主唱者の急先鋒たる「欣然」は、日本に於ける重火器（機

關銃と平射砲の前身たる狙撃砲)のお初を戴いた一人でもあるから、重火器を重視すること決して人後に落ちぬ。因て先づ歩兵砲の射撃に注意した。確かにうまい。三發目に第一目標の機關銃に命中して、標的木片が土砂と共に空中に飛散した。

「命中」と鶴の一聲

實戰場裡に於ては、此鶴の一聲を全隊に普及することが、志氣を鼓舞する上の主要條件である。平時の教練に於て、有形教育の上に無形の精神氣力を附與することを怠つてはならぬ。寸分隙間のない好模範の通報であつた。此機を捕へて歩兵小隊は、我が機關銃陣地の稜線を越えて前進した。機關銃は此間歩兵小隊を超過して敵を猛射してゐる。

超過射撃の限界は、各國毎に多少の差異はあるが、此時は日本と同じく概ね三米突内外であつた。頭上三米突邊をシュツ／＼と集束弾が飛んでゆく。其下を前進するのは、一種異様な(畏様な)感じのするものである。始めの間は勿論立つて走る。或時は屈伸して進む。遂には匍匐して近迫する。停止した所で、機關銃の彈著より生ずる妙塵に依つて、其區域以外にある目標を定めて、照準線を示す。而して射撃又前進、停止、射撃、遂に突撃動作に至るまで實施する。如何にも危険を感じる状態だ。併し、此實彈下で其彈響は銃口で爆發する音と彈丸の空中を切る響とは全然別であるを聞きつ

つ、彈著の状況を絶えず注意しつつ、立つたり屈伸したり匍匐したりして、訓練するのが、戰闘射撃の眞の目的であり、文字通り實戰的であるといふのだから、全く徹底した教育である。

又、輕機關銃と小銃分隊との協調が實に能く出來て居る。殊に小銃分隊の各個躍進と、點射の移動とに就て述べると、輕機關銃が「左より撃て」と射撃號令を下げば、之と連繫して小銃分隊は「左より各個躍進」と命ずる。兵卒は、其前面の敵を我輕機關銃が制壓してゐる瞬間を利用して、二三十米突駈歩して、停止射撃するといふ具合に、其協同動作が洵にうまく精熟して居る。

又或時は、敵の輕機關銃の點射の移動を逆用して、巧に前進する。即ち、第一分隊が敵の輕機から點射の移動を受ける、其彈著が右より逐次左へ移ると假定する。分隊長が「右より各個躍進」と號令することもあれば、兵卒が獨斷で、敵彈が己の處に來ないと判定して前進することもある。此の各個前進及各個射撃は、日露役の際、鐵條網破壊口の躍進に對して利用した經驗もあるが、彼我の點射の移動を利用する、機微なる前進及射撃といふことは、將來戰に於ては益々其活用が多からうと思ふ。

要するに、主動的にも他動的にも、彼我の自動火器を利用する方針が顯著であつて、其訓練が精熟して居る。

翻て我國の典範ではどうか。其前進法に就て述べると、步兵操典第七十九條に「散開セル分隊ノ前

進ハ……然レトモ敵火の状態之を許ササル場合ニ於テハ分隊ヲ區分シ或ハ各個ニ前進セシム」云々とある。全く敵火のみによる如く其前進法が規定せられてゐるから、消極的である。我自動火器と協調するために、換言すれば自動火器をして十二分に其火力を發揚せしむる爲に行ふ所の屈伸匍匐は積極的であつて、眞に有意義のものである。白狀するが、我操典を改正審議の時、世界大戰の經驗を此所まで詳知してゐる人が無かつたのである。過去は過去として將來改正の際の参考とすべきは勿論積極的訓練の方法として大に活用すべきである。必勝の訓練なるかな。

(ろ) 國民の理解

戰鬪射撃を實戰的に徹底的に演習する状態は、前述べた如く吾々日本人の眼から見ると、危険至極である。然るに彼等は平然として之を行ふ。伊國人の武勇が日本人に勝つて居るのか。否々、武勇は日本人が優先權を握つて居る。日本人より武勇の劣つて居る伊國人が、敢然として之を行ひ得るには大に基因する所が無くてはならぬ。それは一般國民の理解である。國民は理解の下に軍人を信頼して居るからである。何分實彈下の作業である。萬一といふ事は保證は出來ぬ。跳彈、腔發等萬が一有つたとしても、國民は軍隊を信用し、「軍隊の責任者が設備作業萬事につけて綿密の上にも綿密に計畫することである。萬一の場合があつたとしても、それは責任者のみの罪では無い」と理解して、決して無理解な難癖をつけて問題にするやうな事は無い。政府に於ても、萬一の場合は、戦時同様の取扱ひをして、賜金扶助料等を給し、遺族をして後顧の憂なからしむる。實戰的訓練を目的とする以上萬一の事など心配して居て、猛烈な演練が出来るものか。

犠牲者に對する政府の施設と、國民の絶對的理解とが基因となつて、此の勇敢な實戰的戰鬪射撃が出來得るのである。

我が國の現状は如何。

國民が十分に軍隊の教育訓練を理解して居らぬ。絶對の信用を措いて居らぬ。動もすれば惡主義者の宣傳に成る、國民と軍隊との離間策に乗せらるる者さへ有る。かゝる状態であるから、萬一實戰的訓練の結果、不幸にして不慮の危害でも起らうものなら、それこそ大變だ。問題が擴大されて、惡主義者に利用される。責任者は首を怖れねばならぬ。犠牲者は遺族を泣かせねばならぬ。といふ状態であるから、超過射撃や、間隙射撃などは、全く危険視されて、敢然として實施するものが稀である。そんな事では、如何に口先で強くなれくと教育した所が何の效力も無い。百の口舌より一の體驗だ。使用彈數の最も少い我軍隊の現況にあつては、重點教育、強度教育を實施して、精神氣力の鍛鍊と射撃技術とが緊要である。